別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾃﾝﾘﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　天理大学	
フリガナ 大学の名称	ﾃﾝﾘﾀﾞｲｶﾞｸ 天理大学	
大学本部の位置	奈良県天理市杣之内町1050番地	
大学の目的	本大学は、教育基本法および学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	国際学部日本学科は、現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。また、入学時の語学力に応じた日本語のクラスを通じて身につけた確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本について社会・文化を幅広く学ぶ。さらに、「日本という国のはじまり」である奈良の地域的特性について深く学び、グローバルな視点から日本や奈良の地理と歴史の理解を深める。既存の知識を単に修得するだけではなく、経営的な視点も加え、社会や地域が伝統文化や新しい文化をどのように導入し、活用していくことができるのかという、今日求められる実学的知識を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
国際学部 日本学科	4	40	－	160	学士 （日本学）	令和６年４月 第１年次	奈良県天理市杣之内町 1050番地
計		40	－	160			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	人間学部（廃止） 宗教学科　（△40） 人間関係学科臨床心理専攻　（△30） 人間関係学科生涯教育専攻　（△20） 人間関係学科社会福祉専攻　（△30） ※令和６年４月学生募集停止 文学部（廃止） 国文学国語学科　（△40） 歴史文化学科　（△50） ※令和６年４月学生募集停止 国際学部 外国語学科英米語専攻（廃止）　（△70） 外国語学科中国語専攻（廃止）　（△30） 外国語学科韓国・朝鮮語専攻（廃止）　（△30） 外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻（廃止）　（△35） 地域文化学科（廃止）　（△195） ※令和６年４月学生募集停止 国際学部 外国語学科〔定員減〕　（△105）（令和６年４月） ※英米語専攻(70)、中国語専攻(30)、韓国・朝鮮語専攻(30)、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻(35)の入学定員合計165名を60名に変更 体育学部 体育学科〔定員増〕　（　40） 人文学部　（令和５年７月届出） 宗教学科　(20) 国文学国語学科　(40) 歴史文化学科　(50) 心理学科　(40) 社会教育学科　(40) 社会福祉学科　(50)

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	国際学部韓国・朝鮮語学科　(40)　（令和５年７月届出） 国際学部中国語学科　(40)　（令和５年７月届出） 国際学部英米語学科　(60)　（令和５年７月届出） 国際学部国際文化学科　(50)　（令和５年７月届出）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	国際学部日本学科	179　科目	61　科目	24　科目	266　科目	124　単位	

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	国際学部日本学科	4 (5)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	118 (100)	令和５年７月届出済み（予定）
		国際学部韓国･朝鮮語学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	124 (109)	令和５年５月届出済み（予定）
		国際学部中国語学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	125 (108)	令和５年５月届出済み（予定）
		国際学部英米語学科	3 (3)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	117 (101)	令和５年５月届出済み（予定）
		国際学部国際文化学科	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	125 (108)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部宗教学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	101 (86)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部国文学国語学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	114 (97)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部歴史文化学科	5 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	119 (96)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部心理学科	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	119 (95)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部社会教育学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	107 (93)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部社会福祉学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	112 (94)	令和５年５月届出済み（予定）
		人文学部	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	令和５年５月届出済み（予定）
		計	51 (54)	18 (18)	9 (10)	0 (0)	78 (82)	0 (0)	― (―)	
	既設分	国際学部外国語学科	7 (7)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	128 (90)	
		国際学部	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		体育学部体育学科	10 (10)	11 (11)	3 (3)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	110 (110)	
		医療学部看護学科	10 (10)	5 (5)	8 (8)	8 (6)	31 (29)	0 (3)	121 (121)	
		医療学部臨床検査学科	7 (7)	3 (3)	4 (3)	3 (3)	17 (16)	0 (1)	141 (141)	
		附属おやさと研究所	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		計	37 (37)	24 (25)	17 (16)	12 (10)	90 (88)	0 (4)	― (―)	
		合計	88 (91)	42 (43)	26 (26)	12 (10)	168 (170)	0 (4)	― (―)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	101 (101)	49 (49)	150 (150)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	25 (25)	4 (4)	29 (29)
	その他の職員	10 (10)	3 (3)	13 (13)
	計	136 (136)	56 (56)	192 (192)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	148,332.61㎡	0 ㎡	0 ㎡	148,332.61㎡	
	運動場用地	163,322.48㎡	0 ㎡	0 ㎡	163,322.48㎡	
	小計	311,655.09㎡	0 ㎡	0 ㎡	311,655.09㎡	
	その他	27,034.99㎡	0 ㎡	0 ㎡	27,034.99㎡	
	合計	338,690.08㎡	0 ㎡	0 ㎡	338,690.08㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	81,584.21㎡ (81,584.21㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	81,584.21㎡ (81,584.21㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	60 室	44 室	22 室	11 室 (補助職員 0人)	5 室 (補助職員 0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	国際学部日本学科	6 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	国際学部日本学科	665,080〔134,290〕 (640,270〔133,330〕)	7,910〔2,200〕 (7,850〔2,180〕)	28,250〔27,010〕 (28,240〔27,000〕)	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	665,080〔134,290〕 (640,270〔133,330〕)	7,910〔2,200〕 (7,850〔2,180〕)	28,250〔27,010〕 (28,240〔27,000〕)	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	14,348.40㎡	349	154,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	16,377.25㎡	武道館（柔剣道場）	弓道場	大学全体
		空手道場	トレーニングルーム	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		390千円	390千円	390千円	390千円	－ 千円	－ 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む
	共同研究費等		1,055千円	1,055千円	1,055千円	1,055千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	1,707千円	1,707千円	1,707千円	1,707千円	1,707千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	667千円	667千円	667千円	667千円	667千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,080千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金、私立大学等経常費補助金、手数料、資産運用収入、雑収入　等

既設大学等の状況

大学の名称	天理大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
人間学部						0.81		奈良県天理市 杣之内町1050番地
宗教学科	4	40	－	160	学士 （宗教学）	0.58	平成 ４年度	
人間関係学科	4	80	－	320	学士 （臨床心理） 学士 （生涯教育） 学士 （社会福祉）	0.93	平成 ４年度	
文学部						0.75		奈良県天理市 杣之内町1050番地
国文学国語学科	4	40	－	160	学士 （国文学）	0.78	昭和 24年度	
歴史文化学科	4	50	－	200	学士 （歴史文化）	0.72	平成 ４年度	

既設大学等の状況	国際学部						0.69		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	外国語学科	4	165	－	660	学士 （韓国・朝鮮語） 学士 （中国語） 学士 （英語） 学士 （スペイン語またはブラジルポルトガル語）	0.68	平成 22年度		
	地域文化学科	4	195	－	780	学士 （地域文化）	0.70	平成 22年度		
	体育学部						1.09		奈良県天理市 田井庄町80	
	体育学科	4	200	－	800	学士 （体育学）	1.09	昭和 30年度		
	医療学部						1.03		奈良県天理市 別所町80-1	
	看護学科	4	70	－	280	学士 （看護学）	1.13	令和 ５年度		
	臨床検査学科	4	30	－	120	学士 （臨床検査学）	0.77	令和 ５年度		
	宗教文化研究科						0.00		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	宗教文化研究専攻	2	6	－	12	修士 （宗教文化研究）	0.00	平成 29年度		
	臨床人間学研究科						0.81		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	臨床心理学専攻	2	8	－	16	修士 （臨床心理学）	0.81	平成 16年度		
	体育学研究科						0.66		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	体育学専攻	2	12	－	24	修士 （体育学）	0.66	平成 27年度		
附属施設の概要	名称：天理大学附属天理図書館 目的：天理大学における教育研究に資するため、図書及びその他の資料を収集、整理、保存 所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地 設置年月：大正14年８月 規模等：延面積　11,482㎡　蔵書数　150万冊 名称：天理大学附属おやさと研究所 目的：天理教及び世界諸民族の宗教・文化を研究調査する 所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地 設置年月：昭和17年12月 名称：天理大学附属天理参考館 目的：民俗学・民族学・考古学に関する学術研究資料を総合的に収集、整理、保存 所在地：奈良県天理市守目堂町250番地 設置年月：昭和５年４月 規模等：延面積　13,556㎡　収蔵資料　30万点									

組　織　の　移　行　表

令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和６年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
天理大学				天理大学				
人間学部								
宗教学科	40	－	160		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
人間関係学科								
臨床心理専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
生涯教育専攻	20	－	80		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
社会福祉専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
計	120	－	480	計	0		0	
文学部								
国文学国語学科	40	－	160		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
歴史文化学科	50	－	200		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
計	90	－	360	計	0	－	0	
				人文学部				
				宗教学科	20	－	80	学部の設置（届出）
				国文学国語学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				歴史文化学科	50	－	200	学部の設置（届出）
				心理学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				社会教育学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				社会福祉学科	50	－	200	学部の設置（届出）
				計	240	－	960	
国際学部				国際学部				
外国語学科				外国語学科				
英米語専攻	70	－	280		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
中国語専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
韓国・朝鮮語専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻	35	－	140		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
					60	－	240	学則の変更
地域文化学科	195	－	780		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
				韓国・朝鮮語学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
				中国語学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
				英米語学科	60	－	240	学部の学科の設置（届出）
				国際文化学科	50	－	200	学部の学科の設置（届出）
				日本学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
計	360	－	1,440	計	290	－	1,160	
体育学部				体育学部				
体育学科	200	－	800	体育学科	240	－	960	定員変更（40）
計	200	－	800	計	240	－	960	
医療学部				医療学部				
看護学科	70	－	280	看護学科	70	－	280	
臨床検査学科	30	－	120	臨床検査学科	30	－	120	
計	100	－	400	計	100	－	400	
合計	870	－	3,480	合計	870	－	3,480	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部日本学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説１	1･2･3･4前	2			○								兼10	
		天理教概説２	1･2･3･4後	2			○								兼10	
		天理教学１	2･3･4前		2		○								兼3	
		天理教学２	2･3･4後		2		○								兼3	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5	
		韓国・朝鮮語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		中国語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		中国語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		教養アカデミック英語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		教養アカデミック英語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		実践アカデミック英語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		実践アカデミック英語２	1･2･3･4前		1			○							兼2	
		アカデミック英語上級	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（中国語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（英語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（タイ語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ドイツ語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（フランス語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ロシア語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（スペイン語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ポルトガル語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（日本語）	1･2･3･4前		2		○			1						
		日本事情１	1･2･3･4前		2		○			1						
		日本事情２	1･2･3･4後		2		○			1						
		健康スポーツ科学１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
		健康スポーツ科学２	1･2･3･4後		2		○								兼6	
		国際社会におけるスポーツの役割	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		保健医療の仕組みと健康づくり	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
		国際協力入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
		国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
		国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
		国際ボランティア論	2･3･4後		2		○								兼1	
		天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義３	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理異文化伝道	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計（43科目）	－	6	69	0	－			2	0	0	0	0	兼41	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1･2･3前後		2		○								兼3	
		キャリアデザイン１	2･3･4前		2		○								兼1	
		キャリアデザイン２	2･3･4後		2		○								兼1	
		インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
		インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
		海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
		海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
		小計（7科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール１	1前	2				○		1						
		基礎ゼミナール２	1後		2			○		1						
		データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
		データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○								兼1	
		データリテラシー	2･3･4前後		2		○								兼1	
		コンピュータ入門	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		情報処理	2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかるレポート作成	1･2･3･4前後		2		○								兼4	
		基礎からわかる近代史	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる現代社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる数学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる生物・化学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		小計（12科目）	－	2	22	0	－			1	0	0	0	0	兼11	
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		統計学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		統計学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		経済学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		社会学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		民法１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		民法２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		行政法１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		行政法２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		哲学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学１	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		ジェンダー・セクシャリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		宗教と芸能	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		労働と社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		世界の文学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		世界の文学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		宗教と現代社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
		人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	一般教養教育科目群	日本手話A	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		日本手話B	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アウトドアスポーツ	1･2･3･4通		1				○						兼1	集中
		レクリエーショナルスポーツ	2･3･4前		1				○						兼2	
		ニュースポーツ	2･3･4前		1				○						兼2	
		小計（42科目）	－	0	81	0	－			0	0	0	0	0	兼32	
	合計（104科目）		－	8	184	0	－			2	0	0	0	0	兼72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際文化論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	日本と国際社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	グローバル文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	アジア地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	オセアニア地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	ヨーロッパ地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	スラヴ・ユーラシア地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	アフリカ地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	アメリカス地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	世界の歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	アジアの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	オセアニアの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	スラヴ・ユーラシアの歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	アフリカの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	アメリカスの歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	世界の英語	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	英語音声学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	英語音声学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○								兼1	
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Business Communication	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	TOEFL Academic English	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4通		1		○								兼2	共同 集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼2	共同 集中
	小計（44科目）	－	0	82	0	－			0	0	0	0	0	兼22	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
日本学科専攻科目	日本研究入門	1前	2			○				1					
	ナラロジー研究入門	1前	2			○								兼1	
	文化人類学入門	1･2前	2			○			1						
	日本文化入門	1･2前	2			○			1						
	言語学入門	1･2前	2			○			1						
	フィールドワークの方法	1･2前	2			○			1						
	世界史のなかの日本	1･2後	2			○								兼1	
	日本表現文化概論	2･3･4前		2		○			1						
	交通地理学概論	2･3･4前		2		○			1						
	日本多文化共生概論	2･3･4後		2		○			1						
	日本精神文化概論	2･3･4後		2		○			1						
	ナラロジー概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	日本生活文化概論	2･3･4前		2		○			1						
	社会言語学概論	2･3･4前		2		○			1						
	日本表現文化特論	3･4後		2		○			1						
	経営人類学特論	3･4後		2		○								兼1	
	日本情報文化特論	3･4後		2		○			1						
	日本環境文化特論	3･4後		2		○								兼1	
	観光地理学特論	3･4前		2		○			1						
	ナラロジー特論	3･4後		2		○			1						
	日本生活文化特論	3･4後		2		○			1						
	入門日本語Ａ（会話）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（講読）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（文法Ａ）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（文法Ｂ）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（作文）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（表記）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ａ（総合）	1前		1			○							兼1	
	入門日本語Ｂ（会話）	1後		1			○							兼1	
	入門日本語Ｂ（講読）	1後		1			○							兼1	
	入門日本語Ｂ（文法Ａ）	1後		1			○			1					
	入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	1後		1			○			1					
	入門日本語Ｂ（作文）	1後		1			○							兼1	
	入門日本語Ｂ（表記）	1後		1			○							兼1	
	入門日本語Ｂ（総合）	1後		1			○							兼1	
	基礎日本語Ａ（会話）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ａ（講読）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1･2前後	1				○		1					兼1	
	基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1･2前後	1				○		1					兼1	
	基礎日本語Ａ（作文）	1･2前後	1				○		1					兼2	
	基礎日本語Ａ（表記）	1･2前後	1				○							兼3	
	基礎日本語Ａ（総合）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ｂ（会話）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ｂ（講読）	1･2前後	1				○							兼3	
	基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2前後	1				○		1					兼2	
	基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2前後	1				○		1					兼2	
	基礎日本語Ｂ（作文）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ｂ（表記）	1･2前後	1				○							兼2	
	基礎日本語Ｂ（総合）	1･2前後	1				○							兼2	
	ビジネス日本語１	2･3前		2		○								兼1	
	ビジネス日本語２	2･3後		2		○								兼1	
	日本語実践研究１	2･3前		2		○			1						
	日本語実践研究２	2･3後		2		○			1						
	日本研究演習１	3前	2				○		3	1					
	日本研究演習２	3後	2				○		3	1					
	日本研究演習３	4前	2				○		3					兼1	
	日本研究演習４	4後	2				○		3					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
日本学科専攻科目	日本文化体験実習１	2･3･4通		2				○						兼1	集中
	日本文化体験実習２	2･3･4通		2				○	1						集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（61科目）	－	36	60	0	－			4	1	0	0	0	兼9	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○			1						
		日本語教育入門	1後			2	○				1					
		日本語語彙論	2前			2	○				1					
		日本語文法論１	2前			2	○			1						
		日本語文法論２	2後			2	○			1						
		日本語音声学	2後			2	○			1						
		言語の対照研究	3前			2	○			1						
		日本語教授法１	3前			2		○			1					
		日本語教授法２	3後			2		○			1					
		第二言語習得論	3前			2		○			1					
		日本語指導法	4前			2		○		1						
		日本語教育評価法	4後			2		○			1					
		日本語教育実習	4通			2			○	1						集中
		小計（13科目）	－	0	0	26	－			1	1	0	0	0		
	社会科学部門	図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論	4前			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼3	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		矯正保護支援実践論	2･3･4後			2	○								兼2	オムニバス
		犯罪被害者支援論	2･3･4後			2	○								兼1	
		小計（18科目）	－	0	0	35	－			0	0	0	0	0	兼13	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育史	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼2	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼3	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼5	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼3	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4通			2	○								兼1	集中
		小計（22科目）	－	0	0	41	－			0	0	0	0	0	兼12	
	合計（57科目）		－	0	0	106	－			1	1	0	0	0	兼26	
合計（266科目）			－	44	326	106	－			4	1	0	0	0	兼118	

学位又は称号	学士（日本学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群２単位以上、基礎リテラシー科目群10単位以上、一般教養教育科目群４単位以上 計28単位以上 国際学部共通科目　２単位以上 日本学科専攻科目：必修科目36単位　選択科目は選択必修科目の必要単位を含め20単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、日本学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、日本学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部宗教学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○			1	1	1				
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	1	1	0	0		
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1	1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	1	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼1	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼1	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼1	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼1	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（75科目）			－	8	129	0	－			1	1	1	0	0	兼56	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○				1					
	人間論３	2･3･4前		2		○								兼1	
	人間論４	2･3･4前		2		○								兼1	
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	1	0	0	0	兼7	
宗教学科専攻科目	天理教学概論１	1前	2			○			1						
	天理教学概論２	1後	2			○			1						
	天理教教祖伝概説１	1前	2			○								兼1	
	天理教教祖伝概説２	1後	2			○								兼1	
	宗教史概説１	1前	2			○			1						
	宗教史概説２	1後	2			○								兼1	
	宗教学概論１	2前	2			○			1						
	宗教学概論２	2後	2			○			1						
	天理教原典学１概説	2前		2		○								兼1	
	天理教原典学２概説	2前		2		○								兼1	
	天理教原典学３概説	2後		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義１	3･4前		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義２	3･4前		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義３	3･4後		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義４	3･4後		2		○					1				
	天理教史特殊講義１	3･4前		2		○								兼1	
	天理教史特殊講義２	3･4後		2		○			1						
	天理教史特殊講義３	3･4後		2		○								兼1	
	宗教学特殊講義１	3･4前		2		○				1					
	宗教学特殊講義２	3･4後		2		○								兼1	
	宗教学特殊講義３	3･4前		2		○			1						
	宗教学特殊講義４	3･4前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義１	2前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義２	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義３	2前		2		○			1						
	宗教史特殊講義４	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義５	2前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義６	2後		2		○								兼1	
	宗教科指導法１	3前		2		○			1						
	宗教科指導法２	3後		2		○			1						
	宗教科指導法３	3前		2		○			1						
	宗教科指導法４	3後		2		○				1					
	宗教研究基礎演習	1後	2				○			1	1				
	宗教研究演習１	3前	2				○		1	1	1				
	宗教研究演習２	3後	2				○		1	1	1				
	宗教課題演習１	4前	2				○		1	1	1				
	宗教課題演習２	4後	2				○		1	1	1				
	卒業論文	4通	4						1						
	小計（38科目）	－	30	48	0	－			3	1	1	0	0	兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○		1					集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○		1					集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○		1					
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○		1					
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	1	0	0	0		
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4前			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	1	0	0	0	兼25	
合計（180科目）			－	38	191	112	－			3	1	1	0	0	兼90	

学位又は称号	学士（宗教学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 宗教学科専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目36単位以上　計66単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、宗教学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間関係学科臨床心理専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○							兼2	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1					兼3	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1					兼3	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○			1						
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	0	0	0	兼40	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			2	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論３	2･3･4前		2		○			1						
	人間論４	2･3･4前		2		○			1						
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	臨床心理学概論	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	社会福祉概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	社会福祉概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	天理教社会福祉論	1･2･3･4前		2		○			1						
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			4	0	0	0	0	兼1	
臨床心理専攻科目	公認心理師の職責	1・2休		2		○								兼1	集中
	心理学研究法	2後		4			○							兼1	
	心理学統計法	2後		2		○								兼1	
	多変量解析法	4前		2		○								兼1	
	心理学実験法	2前		4			○							兼1	
	知覚・認知心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	学習・言語心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	感情・人格心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	神経・生理心理学	2･3･4休		2		○								兼1	集中
	社会・集団・家族心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	発達心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	障害者・障害児心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	心理的アセスメント１	2前		4			○							兼1	
	心理的アセスメント２	2後		4			○							兼1	
	心理学的支援法	3･4後		2		○			1						
	健康・医療心理学	2･3･4休		2		○								兼1	集中
	福祉心理学	3･4前		2		○								兼1	
	教育・学校心理学	3･4後		2		○								兼1	
	司法・犯罪心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	産業・組織心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	2･3･4後		2		○								兼1	
	精神疾患とその治療１	2･3･4前		2		○								兼1	
	精神疾患とその治療２	2･3･4後		2		○								兼1	
	関係行政論	3･4通		2		○								兼2	オムニバス 集中
	精神分析学	3･4前	2			○			1						
	ユング心理学	3･4後	2			○			1						
	投影法演習	3･4後		4			○		1						
	心理演習	3･4後		2			○		2						
	心理実習	4通		2				○	5						集中
	臨床心理学入門演習	1後	2				○		1						
	臨床心理学課題演習	3前	2				○		2						
	臨床心理学研究演習１	4前	2				○		5						
	臨床心理学研究演習２	4後	2				○		5						
	卒業課題研究	4通	4						1						
	小計（34科目）	－	16	64	0	－			5	0	0	0	0	兼14	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（189科目）			－	24	233	112	－			10	0	0	0	0	兼107	

学位又は称号	学士（臨床心理）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 人間関係学科共通科目：８単位以上 臨床心理専攻専攻科目：必修科目16単位、選択必修科目32単位以上　計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間関係学科生涯教育専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1					兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1					兼3	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1					兼3	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○			1						
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	0	0	0	兼40	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			3	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論３	2･3･4前		2		○			1						
	人間論４	2･3･4前		2		○			1						
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	臨床心理学概論	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	社会福祉概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	社会福祉概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	天理教社会福祉論	1･2･3･4前		2		○			1						
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			4	0	0	0	0	兼1	
生涯教育専攻科目	生涯教育基礎演習１	1前	2				○		1	1	1				
	生涯教育基礎演習２	1後	2				○		1	1	1				
	生涯教育演習１	2前	2				○		1		1				
	生涯教育演習２	2後	2				○		1		1				
	社会教育演習１	3前	2				○		1		1				
	社会教育演習２	3後	2				○		1		1				
	生涯教育課題研究１	4前	2				○		1	1	1				
	生涯教育課題研究２	4後	2				○		1	1	1				
	生涯学習概論１	1前	2			○			1						
	生涯学習概論２	1後	2			○			1						
	生涯学習支援論１	2前		2		○				1					
	生涯学習支援論２	2後		2		○			1						
	社会教育経営論１	3前		2		○				1					
	社会教育経営論２	3後		2		○			1						
	社会教育特講１	2･3･4前		2		○			1						
	社会教育特講２	2･3･4後		2		○				1					
	社会教育特講３	2･3･4後		2		○					1				
	社会教育特講４	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論１	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論２	2･3･4前		2		○									隔年
	生涯教育特論３	2･3･4前		2		○					1				
	生涯教育特論４	2･3･4後		2		○									隔年
	生涯教育特論５	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論６	2･3･4後		2		○									隔年
	生涯教育特論７	2･3･4後		2		○				1					
	生涯教育特論８	2･3･4後		2		○									隔年
	教育史	2･3･4前		2		○								兼1	
	博物館学概論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館情報・メディア論	2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
	図書館情報学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	生涯教育基礎実習	2後	2					○	1	1	1				
	社会教育実習	3通		2				○	1	1	1				
	生涯教育実習１	1･2･3･4前		1				○		1					
	生涯教育実習２	1･2･3･4前		1				○							隔年
	生涯教育実習３	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習４	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習５	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習６	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	野外教育実習	1･2･3･4休		1				○						兼1	集中
	卒業論文	4通	8						1						
	小計（41科目）	－	30	51	0	－			2	1	1	0	0	兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（196科目）			－	38	220	112	－			8	1	1	0	0	兼98	

学位又は称号	学士（生涯教育）	学位又は学科の分野	文学関係／教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 人間関係学科共通科目：８単位以上 生涯教育専攻専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目18単位以上　計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部国文学国語学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1	1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	1	0	0	0	兼72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ１	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ３	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ４	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ５	1･2･3･4前		2		○				1					
	小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	1	0	0	0	兼4	
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習１	1前		2			○		1						
	国文学基礎演習２	1前		2			○		1						
	国文学概論１	1前	2			○			1						
	国文学概論２	1後	2			○			1						
	上代文学講読１	1･2前		2			○				1				
	上代文学講読２	1･2後		2			○				1				
	中古文学講読１	1･2前		2			○		1						
	中古文学講読２	1･2後		2			○		1						
	中世文学講読１	1･2前		2			○							兼1	
	中世文学講読２	1･2後		2			○							兼1	
	近世文学講読１	1･2前		2			○							兼1	
	近世文学講読２	1･2後		2			○							兼1	
	近代文学講読１	1･2前		2			○		1						
	近代文学講読２	1･2後		2			○		1						
	上代文学特論１	2前		2		○					1				
	上代文学特論２	2後		2		○					1				
	中古文学特論１	2前		2		○			1						
	中古文学特論２	2後		2		○			1						
	中世文学特論１	2前		2		○								兼1	
	中世文学特論２	2後		2		○								兼1	
	近世文学特論１	2前		2		○								兼1	
	近世文学特論２	2後		2		○								兼1	
	近代文学特論１	2前		2		○			1						
	近代文学特論２	2後		2		○			1						
	国文学演習（上代）１	3前		2			○				1				
	国文学演習（上代）２	3後		2			○				1				
	国文学演習（中古）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（中古）２	3後		2			○		1						
	国文学演習（中世）１	3前		2			○								隔年
	国文学演習（中世）２	3後		2			○								隔年
	国文学演習（近世）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（近世）２	3後		2			○		1						
	国文学演習（近代）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（近代）２	3後		2			○		1						
	古典文学史１	2･3前		2		○								兼1	
	古典文学史２	2･3後		2		○								兼1	
	近代文学史１	2･3前		2		○			1						
	近代文学史２	2･3後		2		○			1						
	国語学基礎演習１	1前		2			○			1					
	国語学基礎演習２	1前		2			○			1					
	国語学概論１	1前	2			○								兼1	
	国語学概論２	1後	2			○								兼1	
	国語学特論（言語構造）１	2前		2		○								兼1	
	国語学特論（言語構造）２	2後		2		○								兼1	
	国語学特論（言語運用）１	2前		2		○								兼1	
	国語学特論（言語運用）２	2後		2		○								兼1	
	国語学特論（言語実態）１	2前		2		○				1					
	国語学特論（言語実態）２	2後		2		○				1					
	国語学演習（言語構造）１	3前		2			○							兼1	
	国語学演習（言語構造）２	3後		2			○							兼1	
	国語学演習（言語運用）１	3前		2			○							兼1	
	国語学演習（言語運用）２	3後		2			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国文学国語学科専攻科目	国語学演習（言語実態）１	3前		2			○			1					
	国語学演習（言語実態）２	3後		2			○			1					
	漢文学基礎演習１	1後		2			○				1				
	漢文学基礎演習２	1後		2			○				1				
	漢文学特論１	2前		2		○					1				
	漢文学特論２	2後		2		○					1				
	古典文法１	3前		2			○							兼1	
	古典文法２	3後		2			○							兼1	
	国語表現法１	2前		2			○		1						
	国語表現法２	2後		2			○		1						
	書道（書写を中心とする）	2前		1				○						兼1	
	国語科指導法１	3前		2		○				1					
	国語科指導法２	3後		2		○				1					
	国語科指導法３	3前		2		○								兼1	
	国語科指導法４	3後		2		○			1						
	卒業論文演習	4通	4				○		3	1	1				
	卒業論文	4通	6						1						
	小計（69科目）	－	18	125	0	－			3	1	1	0	0	兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（215科目）			－	26	276	112	－			3	1	1	0	0	兼101	

学位又は称号	学士（国文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 国文学国語学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目38単位以上　計56単位以上 文学共通科目、国文学国語学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、国文学国語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部歴史文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1		1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	1	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○				1					
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	1	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○			1					兼1	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○			1						
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			2	0	0	0	0	兼39	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			2	1	1	0	0	兼69	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ１	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ３	1･2･3･4後		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ４	1･2･3･4前		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ５	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	小計（5科目）	－	0	10	0	－			2	0	0	0	0	兼3	
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論	1前	2			○			1						
	考古学概論	1前	2			○			1						
	民俗学概論	1前	2			○					1				
	日本史要説	1後		2		○			1						
	東洋史要説	1後		2		○			1						
	西洋史要説	1後		2		○								兼1	
	日本考古学要説	1後		2		○			1						
	日本民俗学要説	1後		2		○					1				
	古文書入門	1後		2		○			1						
	美術史	1･2･3前		2		○								兼1	
	地誌	1･2･3前		2		○								兼1	
	人文地理学概論	1･2前		2		○								兼1	
	自然地理学概論	1･2前		2		○								兼1	
	政治学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	法学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会学通論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会学通論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	経済学通論	2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館資料論	3･4前		2		○			1						
	博物館資料保存論	3･4前		2		○			1						
	社会科指導法１	3前		2		○								兼1	
	社会科指導法２	3前		2		○								兼1	
	社会・地理歴史科指導法１	3後		2		○								兼1	
	社会・地理歴史科指導法２	3後		2		○								兼1	
	歴史文化基礎演習	1後	2				○		2						共同
	卒業論文演習	4通	4				○		6	1	1			兼1	
	卒業論文	4通	6						2						
	小計（27科目）	－	18	42	0	－			7	1	1	0	0	兼9	
歴史学研究コース科目	歴史学研究入門１	2前		2			○		2						
	歴史学研究入門２	2後		2			○		1	1					
	文化交流史の研究１	2･3･4前		2		○			1						
	文化交流史の研究２	2･3･4後		2		○								兼1	
	日本古代史の研究	2･3･4前		2		○								兼1	
	日本中世史の研究	2･3･4前		2		○			1						
	日本近世史の研究	2･3･4後		2		○			1						
	日本近代史の研究	2･3･4前		2		○				1					
	東アジア史の研究	2･3･4後		2		○			1						
	国際政治史の研究	2･3･4前		2		○								兼1	
	古文書学	2･3･4後		2		○			1						
	日本古代史料の講読１	2･3前		2			○							兼1	
	日本古代史料の講読２	2･3後		2			○							兼1	
	日本中世史料の講読１	2･3前		2			○		1						
	日本中世史料の講読２	2･3後		2			○		1						
	日本近世史料の講読１	2･3前		2			○		1						
	日本近世史料の講読２	2･3後		2			○		1						
	日本近代史料の講読１	2･3前		2			○			1					
	日本近代史料の講読２	2･3後		2			○			1					
	東洋近世史料の講読１	2･3前		2			○								隔年
	東洋近世史料の講読２	2･3後		2			○								隔年
	東洋近世史料の講読３	2･3前		2			○		1						
	東洋近世史料の講読４	2･3後		2			○		1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
歴史文化学科専攻科目	歴史学研究コース科目	西洋近代史料の講読１	2･3前		2			○								隔年
		西洋近代史料の講読２	2･3後		2			○								隔年
		西洋近代史料の講読３	2･3前		2			○							兼1	
		西洋近代史料の講読４	2･3後		2			○							兼1	
		日本近世史料実習１	2前		1				○	1						
		日本近世史料実習２	2後		1				○		1					
		日本近世史料実習３	3前		1				○		1					
		日本近世史料実習４	3後		1				○		1					
		日本古代中世史演習１	3前		2			○		1						
		日本古代中世史演習２	3後		2			○								隔年
		日本近世史演習１	3前		2			○		1						
		日本近世史演習２	3後		2			○		1						
		日本近代史演習１	3前		2			○			1					
		日本近代史演習２	3後		2			○			1					
		東洋近世史演習１	3前		2			○		1						
		東洋近世史演習２	3後		2			○		1						
		西洋近代史演習１	3前		2			○							兼1	
		西洋近代史演習２	3後		2			○							兼1	
		小計（41科目）	－	0	78	0		－		3	1	0	0	0	兼5	
	考古学・民俗学研究コース科目	文化財行政学	2･3前		2		○			1						
		民俗学と現代社会	2･3前		2		○					1				
		文化遺産の保存と活用	2･3後		2		○			1						
		旧石器・縄文時代の考古学	2･3後		2		○								兼1	
		弥生時代の考古学	2･3前		2		○			1						
		古墳時代の考古学	2･3後		2		○									隔年
		飛鳥・奈良時代の考古学	2･3前		2		○			1						
		中近世の考古学	2･3休		2		○								兼1	集中
		生活文化史	2･3前		2		○								兼1	
		生と死の民俗学	2･3後		2		○			1						
		民話と伝承	2･3後		2		○								兼1	
		宗教民俗学	2･3前		2		○			1						
		東アジア考古学	2･3前		2		○			1						
		西アジア考古学	2･3前		2		○			1						
		文化人類学	2･3休		2		○									隔年
		考古学・民俗学特講１	2･3後		2		○								兼1	
		考古学・民俗学特講２	2･3後		2		○								兼1	
		考古学・民俗学特講３	2･3後		2		○					1				
		考古学・民俗学特講４	2･3前		2		○			1						
		考古学・民俗学特講５	2･3後		2		○			1						
		考古学実習１	2･3前		1				○	2						共同
		考古学実習２	2･3後		1				○	2						共同
		考古学実習３	2･3休		1				○	2						共同 集中
		民俗学実習１	2･3前		1				○	1		1				共同
		民俗学実習２	2･3後		1				○	1		1				共同
		民俗学実習３	2･3休		1				○	1		1				共同 集中
		考古学・民俗学研究入門１	2前		2			○		1						
		考古学・民俗学研究入門２	2後		2			○		1		1				
		考古学・民俗学課題研究１	3前		2			○		3						
		考古学・民俗学課題研究２	3後		2			○		2		1				
		小計（30科目）	－	0	54	0		－		4	0	1	0	0	兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○			1						
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○			1						
		博物館実習１	3前			2			○	2						共同
		博物館実習２	4通			1			○	1					兼3	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			2	0	0	0	0	兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			2	0	0	0	0	兼23	
合計（244科目）			－	26	325	112	－			7	1	1	0	0	兼105	

学位又は称号	学士（歴史文化）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【歴史学研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目30単位以上　計48単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間） 【考古学・民俗学研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目35単位以上　計53単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科英米語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			2	1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	2	1	0	0	兼1	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（77科目）			－	4	141	0	－			0	2	1	0	0	兼66	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	
	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（63科目）	－	4	95	0	－			2	3	0	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英米語専攻専攻科目	英語Ａ（Reading）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Usage）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Listening）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Presentation）	1前	1				○				1			兼2	
	英語Ａ（Vocabulary Building）	1前	1				○		1		1			兼1	
	英語Ｂ（Reading）	1後	1				○							兼2	
	英語Ｂ（Usage）	1後	1				○		1					兼2	
	英語Ｂ（Listening）	1後	1				○				1			兼1	
	英語Ｂ（Speaking）	1後	1				○			2				兼1	
	英語Ｂ（Presentation）	1後	1				○		1	1	1				
	英語Ｃ（Reading）	2前	1				○							兼3	
	英語Ｃ（Usage）	2前	1				○		1					兼2	
	英語Ｃ（Writing）	2前	1				○			1				兼2	
	英語Ｃ（Listening）	2前	1				○			2				兼1	
	英語Ｃ（Speaking）	2前	1				○				1			兼1	
	英語Ｄ（Reading）	2後	1				○				1			兼2	
	英語Ｄ（Usage）	2後	1				○		1					兼2	
	英語Ｄ（Writing）	2後	1				○							兼2	
	英語Ｄ（Listening）	2後	1				○			1				兼2	
	英語Ｄ（Speaking）	2後	1				○			1				兼1	
	英語Ｅ（Reading）	3前	1				○			1				兼2	
	英語Ｅ（Rapid Reading）	3前	1				○			2				兼1	
	英語Ｅ（Writing）	3前	1				○			1				兼2	
	英語Ｅ（Speaking）	3前	1				○							兼2	
	英語Ｅ（Presentation）	3前	1				○							兼2	
	英語Ｆ（Rapid Reading）	3後	1				○							兼2	
	英語Ｆ（Journalism English）	3後	1				○			1				兼1	
	英語Ｆ（Writing）	3後	1				○			1				兼1	
	英語Ｆ（Presentation）	3後	1				○		1					兼1	
	英語Ｆ（Content Based English）	3後	1				○				1			兼1	
	英語Ｇ（Content Based English １）	4前	1				○			2				兼1	
	英語Ｇ（Content Based English ２）	4前	1				○			2				兼1	
	英語Ｈ（Content Based English １）	4後	1				○		1	1				兼1	
	英語Ｈ（Content Based English ２）	4後	1				○							兼2	
	英米文学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	英文ジャーナリズム事情	2･3･4休		2		○									隔年
	英米政治経済論	2･3･4前		2		○									隔年
	伝道英語１	2･3･4前		1			○		1						
	伝道英語２	2･3･4後		1			○		1						
	論文作成法	3･4後		2			○			1					
	英語科指導法１	3前		2		○			1						
	英語科指導法２	3後		2		○			1						
	英語科指導法３	3前		2		○				1					
	英語科指導法４	3後		2		○				1					
	英米語入門（英語学）	2･3･4前後		2		○				1				兼1	
	英米語入門（英米史）	2･3･4後		2		○				1					
	英米語入門（英米社会）	2･3･4前後		2		○			1	1					
	英米語入門（英米文学）	2･3･4後		2		○								兼1	
	英米語入門（英語教育）	2･3･4前後		2		○			1	1					
	英米語演習１	3前	2				○		2	2					
	英米語演習２	3後	2				○		2	2					
	英米語演習３	4前	2				○		1	2				兼2	
	英米語演習４	4後	2				○		1	2				兼2	
	英米語海外語学実習	2･3･4休		4				○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（56科目）	－	42	38	0	－			3	4	1	0	0	兼15	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（256科目）			－	50	274	112	－			3	4	1	0	0	兼118	

学位又は称号	学士（英語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目６単位以上、教養科目６単位以上　計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 英米語専攻専攻科目：必修科目46単位、選択必修科目８単位以上　計54単位以上 国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科中国語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○			1					兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
中国語専攻専攻科目	中国語Ａ(文法)	1前	2				○			1					
	中国語Ａ(発音)	1前	2				○		1						
	中国語Ａ(リスニング)	1前	2				○		1						
	中国語Ｂ(文法)	1後	2				○			1					
	中国語Ｂ(発音)	1後	2				○		1						
	中国語Ｂ(リスニング)	1後	2				○		1						
	中国語Ｃ(文法)	2前	2				○		1						
	中国語Ｃ(会話)	2前	2				○							兼1	
	中国語Ｄ(読解)	2後	2				○			1					
	中国語Ｄ(会話)	2後	2				○							兼1	
	中国語Ｅ(通訳)	3前	2				○							兼1	
	中国語Ｅ(読解)	3前	2				○		1						
	中国語Ｆ(通訳)	3後	2				○							兼1	
	中国語Ｆ(読解)	3後	2				○		1						
	伝道中国語１	2前		1			○							兼1	
	伝道中国語２	2後		1			○							兼1	
	広東語Ａ	2前		1			○							兼1	
	広東語Ｂ	2後		1			○							兼1	
	台湾語Ａ	2前		1			○							兼1	
	台湾語Ｂ	2後		1			○							兼1	
	ビジネス中国語	3前		1			○							兼1	
	ネイティブ中国語１	3前		1			○							兼1	
	ネイティブ中国語２	3後		1			○		1						
	実践中国語Ａ	2前		1			○			1					
	実践中国語Ｂ	2後		1			○		1						
	スピーチ中国語Ａ	2前		1			○		1						
	スピーチ中国語Ｂ	2後		1			○		1						
	中国語学概論１	2前		2		○								兼1	
	中国語学概論２	2後		2		○								兼1	
	中国文学概論１	2前		2		○								兼1	
	中国文学概論２	2後		2		○								兼1	
	中国史１	2前		2		○								兼1	
	中国史２	2後		2		○								兼1	
	中国文化史１	2前		2		○								兼1	
	中国文化史２	2後		2		○								兼1	
	台湾社会文化論１	2前		2		○								兼1	
	台湾社会文化論２	2後		2		○								兼1	
	近現代中国と国際政治１	2前		2		○				1					
	近現代中国と国際政治２	2後		2		○				1					
	中国語科指導法１	3前		2		○			1						
	中国語科指導法２	3後		2		○			1						
	中国語演習１	3前	2				○		1						
	中国語演習２	3後	2				○		1						
	中国語演習３	4前	2				○		2	1					
	中国語演習４	4後	2				○		2	1					
	中国語海外語学実習	2･3･4休	4					○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（48科目）	－	40	47	0	－			3	1	0	0	0	兼9	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（257科目）			－	52	288	112	－			5	5	1	0	0	兼120	

学位又は称号	学士（中国語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 中国語専攻専攻科目：必修科目40単位、選択必修科目16単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目　計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科韓国・朝鮮語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
韓国・朝鮮語専攻専攻科目	韓国・朝鮮語Ａ(文法)	1前	3				○		1	1					
	韓国・朝鮮語Ａ(会話)	1前	2				○		2					兼2	
	韓国・朝鮮語Ａ(発音)	1前	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｂ(文法)	1後	3				○		1	1					
	韓国・朝鮮語Ｂ(会話)	1後	2				○		2					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｂ(講読)	1後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｃ(文法)	2前	1				○			1					
	韓国・朝鮮語Ｃ(会話)	2前	1				○		1					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｃ(講読)	2前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｃ(作文)	2前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｄ(文法)	2後	1				○			1					
	韓国・朝鮮語Ｄ(会話)	2後	1				○		1					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｄ(講読)	2後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｄ(作文)	2後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(会話)	3前	1				○			1				兼1	
	韓国・朝鮮語Ｅ(講読)	3前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(作文)	3前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(表現)	3前	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｆ(会話)	3後	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｆ(講読)	3後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｆ(作文)	3後	1				○							兼1	
	韓国・朝鮮語Ｆ(表現)	3後	1				○							兼2	
	実践韓国・朝鮮語Ａ	2･3･4前		1			○							兼1	
	実践韓国・朝鮮語Ｂ	2･3･4後		1			○							兼1	
	映像で学ぶ韓国・朝鮮語	2･3･4前		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語古典講読	2･3･4後		1			○		1						
	通訳翻訳韓国・朝鮮語Ａ	3･4前		1			○		1						
	通訳翻訳韓国・朝鮮語Ｂ	3･4後		1			○		1						
	応用韓国・朝鮮語Ａ	3･4前		1			○							兼1	
	応用韓国・朝鮮語Ｂ	3･4後		1			○							兼1	
	伝道韓国・朝鮮語１	3･4前		1			○							兼1	
	伝道韓国・朝鮮語２	3･4後		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語学概論１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮語学概論２	2･3･4後		2		○				1					
	韓国・朝鮮文学概論１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮文学概論２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮史１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮史２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮社会文化論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮社会文化論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮文化交流史１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮文化交流史２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮事情１	3･4前		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮事情２	3･4後		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮語科指導法１	3前		2		○				1					
	韓国・朝鮮語科指導法２	3後		2		○			1						
	韓国・朝鮮入門	1前	2			○			1						
	韓国・朝鮮語演習１	3前	2				○		2	1					
	韓国・朝鮮語演習２	3後	2				○		2	1					
	韓国・朝鮮語演習３	4前	2				○		3						
	韓国・朝鮮語演習４	4後	2				○		3						
	韓国・朝鮮語海外語学実習	2･3･4休	4					○	2						集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（54科目）	－	42	44	0	－			3	1	0	0	0	兼5	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（263科目）			－	54	285	112	－			5	5	1	0	0	兼117	

学位又は称号	学士（韓国・朝鮮語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 韓国・朝鮮語専攻専攻科目：必修科目42単位、選択必修科目10単位以上　計52単位以上 国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目	スペイン語Ａ（文法）	1前		2			○		1					兼1	
	スペイン語Ａ（会話）	1前		2			○			1				兼1	
	スペイン語Ａ（視聴覚）	1前		2			○							兼2	
	スペイン語Ｂ（文法）	1後		2			○		1					兼1	
	スペイン語Ｂ（会話）	1後		2			○			1				兼1	
	スペイン語Ｂ（視聴覚）	1後		2			○							兼2	
	スペイン語Ｃ（文法）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｃ（会話）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｃ（視聴覚）	2前		1			○			1					
	スペイン語Ｃ（表現）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（文法）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（会話）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（視聴覚）	2後		1			○			1					
	スペイン語Ｄ（表現）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（文法）	3前		1			○		1						
	スペイン語Ｅ(会話)	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（視聴覚）	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（表現）	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（文法）	3後		1			○		1						
	スペイン語Ｆ（会話）	3後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（視聴覚）	3後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（表現）	3後		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ａ（文法）	1前		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ａ（会話）	1前		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ａ（視聴覚）	1前		2			○		1					兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｂ（文法）	1後		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｂ（会話）	1後		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｂ（視聴覚）	1後		2			○		1					兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｃ（文法）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（会話）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（視聴覚）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（講読）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（文法）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（会話）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（視聴覚）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（講読）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（文法）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（会話）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（視聴覚）	3前		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｅ（講読）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（文法）	3後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（会話）	3後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（視聴覚）	3後		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｆ（講読）	3後		1			○		1						
	実践スペイン語	2･3･4後		1			○							兼1	
	伝道スペイン語１	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道スペイン語２	2･3･4後		1			○		1						
	翻訳・通訳スペイン語１	3･4前		1			○							兼1	
	翻訳・通訳スペイン語２	3･4後		1			○		1						
	スペイン語応用会話	3･4後		1			○			1					
	総合スペイン語	3･4後		1			○							兼1	
	実践ブラジルポルトガル語	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道ブラジルポルトガル語１	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道ブラジルポルトガル語２	2･3･4後		1			○							兼1	
	翻訳・通訳ブラジルポルトガル語１	3･4前		1			○		1						
	翻訳・通訳ブラジルポルトガル語２	3･4後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語応用会話	3･4前		1			○		1						
	総合ブラジルポルトガル語	3･4後		1			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目	イベロアメリカ語学概論１	2･3･4前		2		○				1					
	イベロアメリカ語学概論２	2･3･4前		2		○								兼1	
	イベロアメリカ文学概論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	イベロアメリカ文学概論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	イベロアメリカ社会文化概論１	2･3･4後		2		○				1					
	イベロアメリカ社会文化概論２	2･3･4後		2		○			1						
	スペイン語圏史	2･3･4前		2		○			1						
	ポルトガル語圏史	2･3･4前		2		○			1						
	スペイン語圏入門	1前	2			○			1						
	ブラジルポルトガル語圏入門	1前	2			○			1						
	イベロアメリカ演習１	3前	2				○		1	1					
	イベロアメリカ演習２	3後	2				○		1	1					
	イベロアメリカ演習３	4前	2				○		2	1					
	イベロアメリカ演習４	4後	2				○		2	1					
	イベロアメリカ海外語学実習	2･3休		4				○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（75科目）	－	12	96	0	－			3	1	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（284科目）			－	24	337	112	－			5	5	1	0	0	兼122	

学位又は称号	学士（スペイン語またはブラジルポルトガル語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目：必修科目12単位、選択必修科目44単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目　計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部地域文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		5	3				兼2	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			5	3	0	0	0	兼2	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼6	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼6	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼6	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼6	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○			1						
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			1	0	0	0	0	兼7	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○					1			兼1	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○			1						
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○					1				
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○					1				
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	2	0	0	兼38	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			6	3	2	0	0	兼74	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○			1					兼1	
	国際文化論	1前後	2			○			2					兼1	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○			1						
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○			2	1					
	国際法	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○								兼2	
	音声学２	2･3･4後		2		○								兼2	
	英語学概論	2･3･4後		2		○								兼1	
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Reading Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	College English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○			1						
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○			1						
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			8	1	0	0	0	兼27	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域研究方法論	2前後	2			○			3					兼1	
	東アジア地域研究入門	1前後		2		○			2						
	東南アジア・オセアニア地域研究入門	1前後		2		○			2	1					
	ヨーロッパ地域研究入門	1前後		2		○			1						
	アフリカ地域研究入門	1前後		2		○				1					
	ラテンアメリカ地域研究入門	1前後		2		○								兼1	
	北アメリカ地域研究入門	1前後		2		○								兼1	
	日本研究入門	1前後		2		○					1				
	ナラロジー研究入門	1前後		2		○			1						
	世界の地理	1前後		2		○								兼1	
	世界の歴史	1前後		2		○			1						
	世界の情勢	1前後		2		○			1						
	世界の観光	1前後		2		○			1						
	世界のスポーツ文化	1前後		2		○									隔年
	世界史のなかの日本	1後		2		○			1						
	世界の文化交流と日本	1後		2		○								兼1	
	多文化共生論	2前後		2		○				2					
	スポーツ文化概論	2前		2		○									隔年
	スポーツ文化特論	3後		2		○									隔年
	アラブ文化概論	3前後		2		○									隔年
	異文化実習	1･2･3･4休		4				○		1					集中
	異文化体験活動１	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動２	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動３	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動４	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	生活文化演習１	3前		2			○		3	2					
	生活文化演習２	3後		2			○		3	2					
	生活文化演習３	4前		2			○		2	2				兼1	
	生活文化演習４	4後		2			○		2	2				兼1	
	表現文化演習１	3前		2			○		1	2	1			兼1	
	表現文化演習２	3後		2			○		1	2	1			兼1	
	表現文化演習３	4前		2			○		3	2	1				
	表現文化演習４	4後		2			○		3	2	1				
	社会文化演習１	3前		2			○		6	1	1				
	社会文化演習２	3後		2			○		6	1	1				
	社会文化演習３	4前		2			○		6	1	1			兼1	
	社会文化演習４	4後		2			○		6	1	1			兼1	
	ナラロジー演習１	3前		2			○								隔年
	ナラロジー演習２	3後		2			○								隔年
	ナラロジー演習３	4前		2			○		1						
	ナラロジー演習４	4後		2			○		1						
	卒業論文	4通	4						4						
	卒業課題研究	4通		2					1						
	小計（43科目）	－	6	80	0	－			15	5	3	0	0	兼7	
アジア・オセアニア研究コース科目	アジア生活文化概論	2後		2		○			1						
	アジア表現文化概論	2前		2		○			1						
	アジア社会文化概論	2前後		2		○			2						
	アジア地域文化概論	2前後		2		○			1	1					
	オセアニア地域文化概論	2後		2		○								兼1	
	アジア・オセアニアと日本	2前後		2		○			1						
	アジア地域関係史	2前後		2		○			1						
	アジア生活文化特論	3･4前		2		○			1						
	アジア表現文化特論	3･4前		2		○			1						
	アジア社会文化特論	3･4後		2		○			2						
	アジア地域文化特論	3･4後		2		○				1					
	オセアニア地域文化特論	3･4前		2		○								兼1	
	アジア・オセアニア多文化共生論	3･4前後		2		○				1					
	アジア・オセアニア現代事情	3･4前後		2		○			1					兼1	
	小計（14科目）	－	0	28	0	－			4	1	0	0	0	兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	ヨーロッパ・アフリカ研究コース科目	ヨーロッパ生活文化概論	2前後		2		○					1				
		ヨーロッパ表現文化概論	2前後		2		○			1		1				
		ヨーロッパ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
		スラヴ地域文化概論	2前後		2		○			1						
		アフリカ地域文化概論	2前後		2		○				1					
		ヨーロッパ・アフリカと日本	2前		2		○			1						
		ヨーロッパ・アフリカ関係史	2前後		2		○			1						
		ヨーロッパ生活文化特論	3･4前後		2		○			2						
		ヨーロッパ表現文化特論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ社会文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		スラヴ地域文化特論	3･4前後		2		○			1						
		アフリカ地域文化特論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ多文化共生論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ・アフリカ現代事情	3･4前後		2		○				1					
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	3	1	0	0	兼2	
	アメリカス研究コース科目	ラテンアメリカ生活文化概論	2前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ表現文化概論	2前後		2		○								兼1	
		ラテンアメリカ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
		北アメリカ地域文化概論	2前後		2		○								兼1	
		アメリカス研究概論	2前後		2		○								兼1	
		アメリカスと日本	2前後		2		○								兼1	
		大西洋地域関係史	2前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ生活文化特論	3･4前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ表現文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		ラテンアメリカ社会文化特論	3･4前後		2		○			1						
		北アメリカ地域文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		アメリカス研究特論	3･4前後		2		○								兼1	
		アメリカス多文化共生論	3･4前後		2		○			1						
		アメリカス現代事情	3･4前後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	0	0	0	0	兼6	
	日本研究コース科目	日本生活文化概論	2前		2		○			1						
		日本表現文化概論	2後		2		○								兼1	
		日本社会文化概論	2前		2		○					1				
		ナラロジー概論	2後		2		○									隔年
		日本コミュニケーション文化概論	2前		2		○			1						
		日本精神文化概論	2後		2		○			1						
		日本多文化共生概論	2前		2		○			1						
		日本生活文化特論	3･4後		2		○			1						
		日本表現文化特論	3･4前		2		○								兼1	
		日本社会文化特論	3･4後		2		○					1				
		ナラロジー特論	3･4前		2		○			1						
		日本情報文化特論	3･4後		2		○									隔年
		日本環境文化特論	3･4前		2		○					1				
		日本経営文化特論	3･4後		2		○					1				
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			2	0	1	0	0	兼2	
	地域言語科目	韓国・朝鮮語レベルＡ１	1前		2			○		1					兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＢ１	1後		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		韓国・朝鮮語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語演習	2後		2			○							兼1	
		中国語レベルＡ１	1前		2			○							兼1	
		中国語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		中国語レベルＢ１	1後		2			○							兼1	
		中国語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域言語科目	中国語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		中国語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		中国語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		中国語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		中国語演習	2後		2			○							兼1	
		タイ語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		タイ語レベルＡ２	1前		2			○		1						
		タイ語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		タイ語レベルＢ２	1後		2			○		1						
		タイ語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		タイ語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		タイ語レベルＤ１	2後		1			○		1						
		タイ語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		タイ語演習	2後		2			○			1					
		インドネシア語レベルＡ１	1前		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＢ１	1後		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		インドネシア語演習	2後		2			○		1						
		ドイツ語レベルＡ１	1前		2			○				1				
		ドイツ語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		ドイツ語レベルＢ１	1後		2			○				1				
		ドイツ語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		ドイツ語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ドイツ語演習	2後		2			○			1				兼1	
		フランス語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		フランス語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		フランス語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		フランス語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		フランス語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		フランス語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		フランス語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		フランス語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		フランス語演習	2後		2			○							兼1	
		ロシア語レベルＡ１	1前		2			○			1					
		ロシア語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		ロシア語レベルＢ１	1後		2			○			1					
		ロシア語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		ロシア語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ロシア語演習	2後		2			○			1					
		スペイン語レベルＡ１	1前		2			○		1	1				兼2	
		スペイン語レベルＡ２	1前		2			○			1				兼3	
		スペイン語レベルＢ１	1後		2			○		1	1				兼2	
		スペイン語レベルＢ２	1後		2			○			1				兼3	
		スペイン語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		スペイン語レベルＣ２	2前		1			○		1						
		スペイン語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		スペイン語レベルＤ２	2後		1			○		1						
		スペイン語演習	2後		2			○			1				兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域言語科目	ブラジルポルトガル語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＡ２	1前		2			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＢ２	1後		2			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＤ１	2後		1			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語演習	2後		2			○		1						
		入門日本語Ａ（会話）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（文法Ａ）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ａ（文法Ｂ）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ａ（作文）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（講読）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（表記）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（総合）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（表現）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（会話）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（文法Ａ）	1後		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	1後		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（作文）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（講読）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（表記）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（総合）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（表現）	1後		1			○				1				
		基礎日本語Ａ（会話）	1･2前後		1			○		1					兼2	
		基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ａ（作文）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（講読）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（表記）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（総合）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（表現）	1･2前後		1			○				1			兼1	
		基礎日本語Ｂ（会話）	1･2前後		1			○		1					兼2	
		基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ｂ（作文）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（講読）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（表記）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（総合）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（表現）	1･2前後		1			○				1			兼1	
		発展日本語Ａ（実践）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（会話）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（作文）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（講読）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（ビジネス）	1･2･3前		1			○				1				
		発展日本語Ｂ（実践）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（会話）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（作文）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（講読）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（ビジネス）	1･2･3後		1			○				1				
		小計（123科目）	－	0	168	0		－		7	4	3	0	0	兼32	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○			1						
		日本語教育入門	1後			2	○			1						
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○			1						
		日本語文法論２	2後			2	○			1						
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○		1						
		日本語教育評価法	4後			2		○				1				
		日本語教育実習	4通			2			○	1						集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			1	0	1	0	0	兼2	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			1	0	1	0	0	兼24	
合計（431科目）			－	18	601	112	－			14	5	3	0	0	兼145	

学位又は称号	学士（地域文化）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【アジア・オセアニア研究コース、ヨーロッパ・アフリカ研究コース、アメリカス研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目６単位、選択必修科目50単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間） 【日本研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目６単位以上、教養科目６単位以上　計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目６単位、選択必修科目52単位以上　計58単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部日本学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説１	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を目指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説２	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学１	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学２	天理教学１で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		韓国・朝鮮語１	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
		韓国・朝鮮語２	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語１で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	中国語１	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
		中国語２	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語１」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
		教養アカデミック英語１	この科目では「英語１」と「英語２」で培った英語の基礎力を土台に、 英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
		教養アカデミック英語２	この科目では「教養アカデミック英語１」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（１パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
		実践アカデミック英語１	この科目は「アカデミック英語２」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、 多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	
		実践アカデミック英語２	この科目は「アカデミック英語１」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習(Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあたかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一歩でも近づいてみることとしたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約３分の１を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちもタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約８万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は２つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。 2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
		多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		日本事情１	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	
		日本事情２	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に拠りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶筌」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学１	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学２	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、 厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、 ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、 健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康つくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人たちとの交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト天理SDGs森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何ができるか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習（PBL）を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs（持続可能な開発目標）」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発（SDGs）」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	
		国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナ感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習１	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習２	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどういう意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に着けることができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義１	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は 2012 年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを 15 回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義２	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義３	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義４	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン１	いわゆる就活で必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	キャリア教育科目群	キャリアデザイン２	いわゆる就活で必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ１	インターンシップ１では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として１週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ２	インターンシップ２では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として２週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ１	海外インターンシップ１では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として１週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ２	海外インターンシップ２では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として２週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール１	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という４つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール２	基礎ゼミナール１の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるするために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の３つのことを習得することを目標とした学修を行う。 (1) 社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることでこれらの技術についての理解を深める。 (2) データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。 (3) データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修しする。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。 EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	
		情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現近代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げるながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。	
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	
		科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
		数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによってのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
		統計学１	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
		統計学２	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
		経営学１	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	経営学２	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
		地理学１	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
		地理学２	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいからみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	
		日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関係する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
		法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に着けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
		経済学１	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
		経済学２	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
		政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会学的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
		民法１	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
		民法２	民法１に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
		行政法１	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
		行政法２	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組があるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
		哲学概論１	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
		哲学概論２	哲学概論１で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしながら、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
		倫理学１	倫理学という学問的な切り口から人間的現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探求する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	倫理学２	倫理学１が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学２は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
		心理学１	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
		心理学２	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	
		ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実に起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
		近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティーの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティーへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
		宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
		労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
		障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかねばならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史的変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	世界の文学１	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
		世界の文学２	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テクストそのものを読み込む内在批評と同時に、テクストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
		カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	
		宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
		人権と差別１	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとっても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
		人権と差別２	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
		日本手話Ａ	聾者の言語である“手話”を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
		日本手話Ｂ	「日本手話Ａ」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを目指す。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。 日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
		レクリエーショナルスポーツ	レクリエーショナルスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーショナルスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
		ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーショナルスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	日本文化概論	グローバルな視点から、日本の地理、生活様式、歳時風俗、社会制度、思想、伝統文化、大衆文化等を他地域のそれらと比較しつつ、日本文化の多様性や独自性について考え、日本文化とは何なのかを議論するためのヒントを提供する。前半では学術的な視点から日本の社会文化とその歴史に関するキータームを分析し、日本文化を学修する上で必要な基礎知識を修得する。さらに、後半では日本現代思想の代表的な名著を紹介し、現代のグローバル社会に纏わる諸問題に日本の哲学者がどのような答えを出したのかを確認する。国際的な視座から日本を見つめ直し、日本的な視座から世界を俯瞰できるようになる。	
	国際文化論	21世紀の国際社会を考える上で海洋問題は外せない課題である。地球の表面積の７割を占める海と人間との関係は多様である。この授業は①食文化、②海洋資源利用、③自然災害と人為的な環境変化の３つの視点から海洋文化を学習する。魚食文化について、具体的な素材をもとに理解し説明できる。海洋資源利用の歴史について、海獣や鯨を素材に理解し説明できる。自然災害と人為的な海の環境破壊や保全の取り組みについて、理解し説明できる。海の未来を守るために、問題解決のための基礎力を身につけ、解決への行動力を養うことを目的とする。	
	日本と国際社会	グローバル化の中の日本と国際社会の関係、国際社会の中の日本の立ち位置について学ぶ。日本と国際社会の関係を個別の外国と日本との関係だけで見るのではなく、グローバル化の中の日本を意識し、国際社会の中の日本が直面する現状と課題を考察する。国際連合、ASEAN、ODA、難民、地球温暖化、人間の安全保障などのテーマで講義をおこなうほか、理解度確認作業として、ほぼ毎回講義内容に即した関連する映像資料の視聴後、その内容と感想をまとめ、提出させる。さらに報道番組、新聞・雑誌記事、参考文献等を活用して準備学修をさせることで知識の定着をはかる。	
	グローバル文化論	「多様性」は未来のことではない。「多様性」は既に存在している。他人を差別してはいけない、暴力は問題解決の手段ではない、ということは周知のことである。しかし、差別も戦争もなくならない。この授業では、どのような場合に人間や文化の多様性が無視（不可視化）されてきたのかという史実に加え、それに「正当性」を与えたいわば「野蛮」の言説についても学習する。その歴史を学ぶことで未来の多様性共存の態度を養い、将来のブローバル文化構築を展望する。	
	アジア地域文化論	この授業では、韓国の首都ソウル市と地方都市の地域文化をとりあげ、社会学的視点から、国家政策ならびに地方自治体が地域文化に与える影響を学ぶ。1）ソウル市の都市形成を概観し、伝統地域や文化地区、オリンピック開催と貧困地区、水辺地区、近年のスマートシティの動向に焦点をあてる。2）地方都市の文化として、スローシティや庭園博覧会、海女文化、戦争と都市再生、伝統文化、日韓交流に着目し、地方都市の多様性について考える。	
	オセアニア地域文化論	日本人にとって最も身近な外国であるハワイの歴史・文化・社会について、主にハワイ人に焦点をあてて学ぶ。西洋人と接触する以前のハワイの伝統文化について概観し、接触後にハワイの文化がどのように変容していったのか、白人入植者が経済的・政治的に影響力を持つにしたがってハワイ王国の経済がどのように変化していったのか、その結果、ハワイ王国がどのようにして米国に併合されるに至ったのかについて理解する。この授業では、ハワイやハワイ人についての知識を得るだけでなく、様々な文化が出会うハワイを知ることで「文化」そのものについても考えていく。	
	ヨーロッパ地域文化論	この授業では、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ地域において、文化が異文化との接触・交流をとおして生まれ、変容してきた実情を学ぶ。具体的には、宗教（古代ケルトの多神教、キリスト教、イスラーム教）、食文化（チーズ、ヨーグルト、パン、ソーセージ、ビール）、音楽（キリスト教の教会音楽、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン）、スポーツ文化（古代オリンピック､英国で成立した近代スポーツ、スポーツクラブ）などを取り上げる。グローバル化に伴い、ヨーロッパには経済移民や難民が多数暮らしており、彼らによってもたらされる文化の変容についても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	スラヴ・ユーラシア地域文化論	この授業でのスラヴ・ユーラシア地域とは、旧ソ連の国々や地域、さらには旧東欧諸国のことを指している。この地域はヨーロッパ地域のみならず、カフカース地域、中央アジア地域を含んでいる。それゆえこの地域では、文化も非常に多様であり、相互に影響を与えながら豊かな文化を育んできた。特に旧ソ連地域は多様で複雑である。個々の文化を守る動きと共に、そこでは地域をまとめる共通の文化や価値観が存在したのではないかと考える。ただし、それは人為的につくられたものであったかもしれない。そして、ソ連解体前後から国の体制はもちろん文化面においても大きな変動を受けている。実際にどのような変化が文化面で見られるのかについて学ぶ。	
	アフリカ地域文化論	アフリカ大陸に対して、大自然というイメージを持つ人は多いが、そこに暮らす人々について知る人は少ない。高校までの学校教育においてアフリカに関する情報は非常に限られたものとなっているためである。この授業では、豊富な自然を活用しながら文化を成り立たせている人々について学ぶ。熱帯雨林、サバンナ、砂漠、高山など自然環境の違いとともに、これらに依存して暮らしている人々の環境利用と生活形態、民俗知識について知り、多様な環境で育まれてきた文化の多様性について知る。	
	アメリカス地域文化論	アメリカス世界の文化の基層にはメソアメリカ文明、アンデス文明に代表される古代文明が存在する。この授業では、近年飛躍的に研究が進展した古代マヤ文明に焦点をあて、最新の研究成果を活用しながら、その概要を学習する。古代文明とはいえ、我々と同じ人間が形成したものである。古代マヤの人々がどのような社会を構築してどのような生活をしていたのかについて想像力を働かせて考える。とりわけ、狩猟採集段階（余剰のほとんどない社会）に巨大な祭祀センターが出現したのはなぜだろうか。マヤの限らず、古代文明に存在した「神聖」王権について考えてみたい。	
	世界の歴史と社会	本授業では、気候変動や環境変化、自然災害やパンデミック、人口の増減や移動、国境や海洋をめぐる軋轢、植民地支配や先住民問題、地域紛争と世界大戦など、国や地域の枠組みではとらえきれない歴史事象を、グローバルな視点で学んでいく。世界の歴史と社会に関する重要な事象について自分の言葉で語り、国や地域をこえた地球市民として視野と発想力・思考力を身につけ、21世紀の人類の課題解決のために考え、語り、行動できるようになることを目指す。	
	アジアの歴史と社会	前近代中国では国家機構が唯一最大の権威ある組織であり、軍事・司法・民生から文化に至るまで国家が直接統制していた。強力な国家機構による統制は、中国が周囲の国々に対して圧倒的優位に立つ基盤をなしたが、内外の状況が悪化すると急速に力を失い秩序を維持できなくなるという弱点があった。この授業では、明・清時代の中国における国家と社会の関係について学び、アジアの伝統的社会のあり方をその成り立ちに遡って理解できるようにする。	
	オセアニアの歴史と社会	本講義では、オセアニア（太平洋地域）の歴史と文化について、主に文化人類学の視点より概観する。太平洋の島々の伝統的な社会や文化について知り、異なる文化が出会った時に何が起こるのか考える。オセアニア社会の歴史的変遷をたどりつつ、今日的なテーマやトピックについても注意を払いながら、オセアニアの歴史と社会についての理解を深める。オセアニアの中でもポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの島嶼部に焦点を当てて学んでいく。	
	ヨーロッパの歴史と社会	この授業では、主に英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏を中心とするヨーロッパにおける美術、文学、音楽、映画などの芸術作品や、ファッション、食べ物・飲み物、建築物といった衣食住に関わるモノに着目する。さまざまな作品や生活に密着したモノを手がかりにして、それらが創作・消費された時代がどのような社会だったのかを読み解いていく。この作業をとおして、先史時代、古代、中世、近世、近代、現代へと至るヨーロッパの歴史の大きな流れを学ぶ。	
	スラヴ・ユーラシアの歴史と社会	この授業でのスラヴ・ユーラシア地域とは、旧ソ連の国々や地域、さらには旧東欧諸国のことを指している。この地域はヨーロッパ地域のみならず、カフカース地域、中央アジア地域を含んでいる。授業では、①1985年にソ連でゴルバチョフが始めたペレストロイカについて、②ソ連解体のプロセスについて、③ペレストロイカと東欧革命の相互関係について、④ソ連解体後のスラヴ・ユーラシアの社会について、④現在のスラヴ・ユーラシアの社会について、⑤今後のスラヴ・ユーラシア社会について多角的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	アフリカの歴史と社会	近年、日本社会においてアフリカの政治経済的重要性は上昇しつつあるものの、高校までの学校教育においてアフリカに関する情報は非常に限られたものとなっている。本授業においては、紛争、病気、環境破壊、自然保護による住民の生活・文化の圧迫など現代アフリカが抱える問題について学ぶ。これらの問題を歴史的な背景から掘り下げる。とくに、政治や経済、国際協力や開発、文化という視点から、それぞれの地域において重要となる問題解決のための視点を養う。	
	アメリカスの歴史と社会	ラテンアメリカ史を学ぶ。ラテンアメリカは地球の陸地面積の約７分の１を占め、その人口は地球人口の約１割におよぶ。にもかかわらす、高校世界史の教科書のなかでラテンアメリカをあつかう頁数はきわめて少ない。例えば、古代文明に関しては中・高校の歴史の授業では四大文明（メソポタミア・エジプト・インダス・黄河）に限定されている。授業ではそれにメソアメリカ文明（アステカ・マヤ）とインカ文明を加え六大文明として捉えるべきことを理解する。さらに、1492年にスペインで起こった一連の出来事を近代の幕開けととらえ、現代がその延長線上にあることを理解する。そして、アメリカス世界の非人道的な植民地支配をきちんと理解したうえで批判精神をもてるようにする。	
	世界の英語	英語はアメリカ合衆国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドで使われているだけでなく、インド、シンガポール、マレーシア、東アフリカの国々、フィリピン、香港など多数の国で公の場面で使われているし、エリート層の間での共通語の役割を果たしている。このようにグローバルなことばとして欠かせないものになっている英語ということばの変種（地域的変種を中心に、人種的変種、社会階層的変種、性別的変種、年齢的変種、使用領域的変種など）と国際性を概観する。	
	異文化コミュニケーション１	本講義では、異文化コミュニケーション論の入門として、様々なコミュニケーションモデルの概観、文化の定義、さらに文化背景に基づく規範、価値観、世界観、知覚がどのように個人の言語、非言語コミュニケーション行動に影響を与えるのかについて考察する。具体的には、コミュニケーションモデル、文化の特徴、価値観、知覚、ステレオタイプ、偏見、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、異文化適応などのテーマについて、実際に行われた国際比較調査結果を紹介しながら検討する。	
	異文化コミュニケーション２	本講義は、「異文化コミュニケーション論１」の内容をさらに掘り下げ、より理論的観点から様々なコミュニケーションレベルの異文化コミュニケーションを探求する。具体的には、高コンテキストと低コンテキスト、集団主義と個人主義、権力格差、帰属理論、社会交換理論、自己開示、自己呈示、対人葛藤、対人コンピタンス、異文化間ビジネス交渉、組織内コミュニケーションなどの理論に基づく異文化コミュニケーションに関する研究論文、事例報告を概観すると同時に、研究の方法論についても検討する。	
	英語音声学１	この授業では、英語音声を中心にして、音声学の基礎を学ぶことを目的とする。まず英語音声の理論的基盤を理解し、次いで、日英の音節構造の違い、超文節的要素（アクセント、ピッチ、リズム、プロミネンスなど）が果たす役割を学習する。その上で、英語の音素（子音、母音）と異音が正しく発音できること、また英語の韻律にそった英文音読ができることをめざす。また、様々な発音記号の理論的背景を理解し、複数の記号で英語が表記できるように指導する。	
	英語音声学２	この授業では、「音声学１」で学習した内容をもとに、英語科教職をめざす学生に必要な知識と指導技術の習得を目的とする。学習内容としては、英語音声変遷の歴史的経緯、一般的な英音と米音を含む世界中の英語変種（地域的、社会階層的）の音声的特徴などについて理解し、教室での英語音声の指導法（個別音と韻律の指導法 、explicit と implicit な指導法、アクティビティと教材の開発など）について学習し、最後に受講生による模擬授業と自らが選んだテーマをもとにしたリサーチの発表を行う。	
	英語学概論	この講義では英語という言語を様々な分野から考察し、英語の教師に必要な英語学の知識を身に付けてもらう。具体的には、つぎの２つのことを目的とする。１．綴り字と発音、音声学と音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などの項目を取り上げ、英語を共時的に学ぶ。２．英語の歴史、発音と綴り字の変化、語形と統語法の変化などの項目を取り上げ、英語を通時的に学ぶ。講義では映画や演説などの言語資料も使用し、分析、観察を行うことで講義内容の理解度をより深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	社会言語学１	基本的に、単一言語の国に住む日本語を母語とするものにとって、言葉と社会やその文化との関係はあまり気にせず過ごせてきたのではないか。しかし近年政治、経済、文化に関して自分の国のことだけを知ればよいという状況ではなくなってきている。そこで問題となってくるのは、大学レベルの外国語の学習と同時に、異文化の理解と異文化間コミュニケーションの可能性についてである。全世界からの移民を抱える多文化社会であり多言語社会からできているアメリカやその他多くの国や共同体についての言葉と文化、言葉と社会との関係の「社会言語学」からのアプローチは有益なものである。研究対象として、たとえば方言と標準語、社会方言、多言語社会の抱える問題などにも言及したい。	
	社会言語学２	本講座は、「社会言語学１」の概念を基本に発展させ、社会言語学の理論、特に言語とコンテキストについて学んでいく。次に社会言語学がどのように外の世界に利用されるかについてみることにする。また、資料的に重複するところもあるが、「異文化コミュニケーション」および「女ことばと男ことば」について「社会言語学１」よりもさらに具体的な例について考えることとする。理論の背景には常に「スピーチ・アコモデーション」という概念に基づいて行われる。最後に言語と文化との関係を考える際によく話題に取り上げられる「言語決定論」について議論してみたい。	
	言語学概論１	この科目では言語の音、構造、意味、運用、習得について学ぶ。「言語学概論２」と合わせて受講することにより、 言語学の基本をカバーできるように構成されている。「言語学概論１」では人間が脳内に持つ文法（形態論、統語論、意味論）とそのアプローチを中心に学ぶ。テキストに書かれている内容を中心に講義した後で、 内容の理解を深めるために具体例を挙げて説明し、（テキストにある練習問題やその他の問題を使った）課題発表を行う。	
	言語学概論２	この科目では「言語学概論１」に引き続き、言語の音、 構造、 意味、 運用、 習得について学ぶ。「言語学概論１」と合わせて受講することにより言語学の基本をカバーできるように構成されている。「言語学概論２」では人間が脳内に持つ文法とかかわりの深い諸分野（機能文法・語用論・応用言語学・母語獲得・第二言語習得論など）を学ぶ。テキストに書かれている内容を中心に講義した後で、内容の理解を深めるために具体例を挙げて説明し、課題（テキストにある練習問題）について発表を行う。	
	College English Grammar A	この科目はCollege English Grammar Ｂを履修するための基礎科目として位置づけられ、 英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝わる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、 複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、 College English Grammar Ｂでパラグラフレベルの英文が書けるようになるための素地を固める。	
	College English Grammar B	この科目はCollege English Grammar Ａの応用科目として位置づけられる。この科目ではCollege English Grammar Ａで培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（１パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、 読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、 トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	Business Communication	グローバル化により英語は事実上世界標準のビジネス言語になっており、外資系のみならず国内企業においても日常的に英語が使用されている。この授業では、ビジネスで使用されている英語表現に慣れるため、TOEICを教材として使用する。TOEICは国際コミュニケーション能力を測定する試験で、その問題には多様なビジネスシーンで使用されるさまざまな英語表現が溢れているので、まさにビジネス・コミュニケーションを身につけるには格好の教材となる。TOEIC教材を学習することで得点アップにもつなげる。	
	TOEFL Academic English	この科目は、北米の大学に留学する場合に要求されるTOEFLのスコアアップを目的とする。留学を希望する学生はTOEFLで各大学が定める基準点を超えるためにはそれに特化したトレーニングが必要である。特にTOEFLのReadingは難解であるため、TOEFLのReading教材を使用して速読の訓練を行う。また、Readingが困難である一因は学生の語彙力不足であるため、TOEFLの読解問題に対応できるようにVocabulary Buildingを重視した授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	Japanese Culture and Society	本授業では、社会義務、集団意識、関係性、ジェンダーによる役割、家族、子育て及びコミュニケーションをテーマとして取り上げ、それらの現状と課題を明らかにする。受講生は現代日本に関する課題文献を読み、毎週の授業においてディスカッションに臨む。これら課題文献の他にも、文書、記事などの紙媒体によるものや、映画やオンライン上から得られる確実な情報も、現代日本の文化と社会を理解し考察するためのてがかりとして考察の対象とする。	
	Japanese History	本授業では、日本の歴史について、政治史、経済史、社会史という伝統的テーマに軸足を置きながら、関連するさまざまなトピックをとりあげ論じる。本授業は最初に歴史学の研究方法について論じ、その後、古代から近代にいたるまでの日本史を広く概説する。受講生は授業前に課題資料を読み、授業では、講義後のディスカッションにも積極的に参加できるようにする。現代の日本を理解するには、歴史を知ることは不可欠である。今日の日本が形成されてきた歴史的経緯を概説することが本授業の目的である。	
	Japanese Religions	本授業では、「『日本の宗教』の枠組を決める境界線は何か、そしてその境界線が研究者によって、長年にわたり、どのように描かれ、また描き直されてきたのか」という基本的な問いについて考察する。この問いが示唆するのは、「日本の宗教」とは創造されたもので、それは観察する研究者によってつくられた方法論的問題に過ぎないかもしれないことであり、そして「宗教」を理解する鍵は研究者が知的に構築するために用いた「ツール」にあるかもしれない、ということである。	
	観光地理学	観光は、観光関連産業による雇用創出や税収増加など、観光地に経済的なプラス効果をもたらす一方、交通の混雑やゴミの投棄など、マイナスの問題も生んでいる。本授業では、観光と旅の違い、観光という概念が生まれた経緯、世界と日本の主要な観光地の特性について理解したうえで、観光地における人々の観光行動と、それが地域の生活や文化にもたらす影響などについて、具体的な事例を通して学ぶとともに、観光資源を活かした地域振興についても考える。	
	観光デザイン論	空港での入国審査の常套句である「渡航の目的はなんですか。お仕事、それとも観光」を糸口にして観光を「遊びのための渡航」すなわち、外務省危険情報の言うところの「不要・不急の渡航」であることを理解する。つまり、観光とは消費行動であり、観光商品とは予期される観光体験が商品化されたものであることを理解する。そして、遊びのための渡航が成立するめには「世界の可視化」が前提となることを理解する。また、観光消費は一種の記号的コミュニケーション過程である。つまり、観光商品の売り手が意味を込めた（エンコード）記号から観光客がその意味を正しく取り出して（デコード）消費している。このような観光消費のメカニズムを理解したうえで、観光パンフレットを記号的に分析する練習をする。	
	観光業界論	日本政府は2008年に観光庁を新設し、「観光立国」を目指している。本授業では、観光産業の構成と特徴、観光政策と観光行政について考察をするとともに、ニューツーリズムと呼ばれる動きについて学ぶ。また、旅行業界、航空業界、宿泊業界等、観光業界にどのような職種があり、どのような業務があるのか、業界のトレンドを知り、今後どのように変化していくかを考える。観光マーケティングの基礎とマネジメントの基本を学びながら、コロナ禍以後のインバウンド等、日本の観光業界が取り組むべき課題とその方法などについて学ぶ。	
	世界遺産論	世界遺産についての基本的事項を理解し、説明できる。自分が世界遺産にふさわしいと思う所を登録要件を満たす形で推薦できる。位置・特徴・魅力・価値などを自分の言葉で具体的に解説できる世界遺産がある。交通手段・経費・食事・土産など具体的な情報を押さえた世界遺産ツアーを企画できる。世界遺産に関する知識や自分の考えを発信する力を鍛錬する。プレゼンテーション（発表）を通じて、世界遺産に関する知識や自分の考えを発信する力を鍛錬する。世界遺産ツアーの企画とガイドや世界遺産候補地の取り組みを学習・体験することで、相即戦力につながる創造力や実践力を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	ホスピタリティー観光研究1	海外旅行におけるホスピタリティー（おもてなし）には、様々な国や地域の事情、様々な業界の仕事が複雑に絡み合っている。本授業では、旅行会社、ホテル業者、手配会社、バス会社、航空会社等における観光関係業務について理解をしたうえで、世界の観光現場でどのようなホスピタリティーが行われているのかを学ぶ。添乗員の基本から旅行会社の業務内容等、旅行企画の作成発表、商品企画のプレゼンテーションやグループデスカッションを随時行う。	
	ホスピタリティー観光研究2	海外旅行におけるホスピタリティー（おもてなし）には、様々な国や地域の事情、様々な業界の仕事が複雑に絡み合っている。本授業では、世界各地の観光事情、観光業界の基礎知識、専門用語を学び、商品企画、営業、添乗実務など、旅行会社の具体的な業務内容について理解をしたうえで、世界の観光現場でどのようなホスピタリティーが行われているのかを学ぶ。旅行企画の作成発表、商品企画のプレゼンテーションやグループデスカッションを随時行う。	
	国内旅行実務	ツアーの企画や販売、航空券やJR券の販売、添乗業務などを行う旅行会社には、「旅行業務取扱管理者」を1名置くことが義務づけられている。 旅行会社、宿泊施設、航空会社、バス会社などの観光関連産業を目指すために必要となる旅行に関する法律を理解し、「国内旅行業務取扱管理者」の資格を取得できる力を身につける。 国内旅行実務にとって不可欠な各運輸機関の制度ならびに運賃・料金の算出方、宿泊施設の仕組み、さらに各種法律と約款、国内旅行の歴史や今後の動向などについて学ぶ。	
	海外旅行実務	旅行業界全般のビジネスについて理解したうえで、海外旅行に関する基礎知識を身につける。海外旅行実務にとって不可欠な国際航空の制度と国際航空運賃の算出方、鉄道・ホテル等の海外旅行の素材、海外旅行に特有の渡航手続きと出入国手続き、さらに海外旅行商品の具体的なあり方と課題等について学ぶ。 海外旅行に関する法律「旅券法」「出入国関連法」などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の資格を取得できる力を身につける。	
	国際スポーツ協力論	国際スポーツ交流実習の事前準備として、ドイツのスポーツや文化などの知識や現地での活動に必要なドイツ語を学ぶ。また、ドイツでの実習に対応できるよう、生活マナーや経済状況の理解など、国際交流に必要な基本的な知識と態度を身につける。グループ毎にドイツのスポーツ・教育・経済・食文化・日本との国際交流について調査した内容を発表し、知識の共有を図る。また、現地で試みたいスポーツ・文化交流を集約し、プログラムの作成を行う。	共同
	国際スポーツ交流実習	本学の協定校（ドイツのマールブルク大学とケルン体育大学を予定）での実習を通して、スポーツによる国際交流を図るとともに、異文化理解を深める。現地の人々のスポーツへのかかわり方を知り、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。より現地の人々にとけ込むためには、語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部（午前中）でドイツ語の学習も行う。また、サッカーのプロリーグの試合観戦も組み入れられており、日本が学んだスポーツ組織の運営を見聞することが可能である。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	日本研究入門	日本に関連するテーマについて読む、聞く活動を行う。その結果をまとまった文章にしたり、発表したりする。中級レベルの語彙や表現を学びながら、日本についての知識を広めるとともに日本語能力を総合的に高める。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本について知識を広め、さらに理解を深める。2.比較的長い文章を読んで理解したことを伝えたり、自分の考えをまとまった文章にしたりする。3.読む・書く・話す・聞くことの四技能をバランスよく身につけ、総合力を高める。	
	ナラロジー研究入門	ナラロジーとは、グローバル化時代の奈良研究を意味しており、「日本全体や国際的視野から奈良を見ること」、「固有のものと考えられやすい日本や奈良の文化がいかに異文化間交流の産物であることに気づく」といった基本概念に基づき、奈良という地域の現代を含めた総合的研究を目指していることを学ぶ。そして以下の諸点を到達目標とする。1.奈良という地域を、地理・歴史・自然の観点から概観する。2.文化や社会がいかに、人と人、人と自然との交流によって　生成してきたかを知る。3.自身の意見を、他者の多様な見方と比較しつつ、理解を深める。	
	文化人類学入門	日本の文化を比較研究するために文化人類学の基礎的な内容を理解する。研究対象、隣接分野や下位分野、基本的な概念、学説史の流れなどを学ぶことから、文化人類学者が行っている研究の実際についても知る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.文化人類学の研究対象・研究方法について基礎的な理解を得る。2.「民族」や「文化」など、文化人類学の基本的な概念を学ぶ。3.進化主義、伝播主義、機能主義など、文化人類学の学説を学ぶ。	
	日本文化入門	日本人の伝統的な暮らしの各場面を、とくに日本民俗学の知見を参考にしながら学ぶ。民俗学の歴史、日本民俗学の代表的な研究者、「常民」の概念、「ハレ」と「ケ」の概念、「ムラ」と「イエ」の概念など基本的な考えを理解した後、農民、山民、海民、女性、子ども、老人など、具体的な人々の暮らしを見る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本の農村の暮らしについて基礎的な知識を得る。2.日本の民俗学について基礎的な知識を得る。3.日本人の人生儀礼や年中行事にかかわる日本語の語彙を学ぶ。	
	言語学入門	「言語の研究とはなにか、またどうあるべきか」を考えながら、音声の成り立ちや意味の弁別にかかわる音韻の考え方、語彙の構成、文法規則など，留学生の日本語学習に役立つ言語学の基礎知識を得る。また、学生間の議論を取り入れながら学習者の母語と日本語の対照も行う。以下の諸点を到達目標とする。1.言語学の研究の基本姿勢を理解する。2.言語学の研究分野を理解する。3.対照言語学にかかわる基礎的な知見を身につける。	
	フィールドワークの方法	学外において実地調査を実施するための事前の準備や、現地での作業の実際について、人類学、地理学、言語学など、どの学問分野にも共通する基本的な技術を理解する。図書館やインターネットを用いた事前の情報収集、現地で人々と接する上でのマナー、現地で行う観察、参与観察、インタビューなどを具体的に知る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.当該地域の地理的・歴史的背景を調べる方法について理解する。2.統計資料の収集の方法について理解する。3.現地で調査を行い、そのデータを記録する方法について理解する。	
	世界史のなかの日本	留学生は、日本の旧石器時代から現代までの日本の通史を、各時代ごとに理解し、自身の母国の歴史と日本の各時代区分の特徴を対比しながら、日本の歴史の流れを大づかみに理解する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本の各時代区分の名称と期間を暗唱でき、それぞれがどのような時代であったかをイメージ化できるようになること。2.日本の各時代が留学生の母国がどのような時代であったかも併せて理解できるようになること。3.日本の歴史の中で、留学生の母国とどうような交流・接点があったかも知るようになること。4.とりわけ、19世紀後半以降の近・現代日本の世界における位置づけを知るようになること。	
	日本表現文化概論	伝統的な文芸を含む日本を代表する伝統的な舞台芸術（雅楽・能楽・文楽・歌舞伎）を概観する。中でも、近世に誕生した俳句表現の特徴や、わび・さびといった日本を特徴づける伝統的表現美についても学ぶ。また、それら日本の表現芸術を、留学生自身が、母国が培ってきたカウンターパートと比較しながら学ぶ。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本の各種文芸について概要を知るとともに、俳句などは各自で作句してみることで、その奥深さにも触れてみる。2.日本の代表的な古典芸能について基礎知識を得る。3.日本を代表する伝統的美意識である、わび・さび概念について基礎的な説明ができるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	交通地理学概論	地理学、とりわけ人文地理学についての基礎的な理解を得た後、その一分野である交通地理学について、鉄道交通、道路交通、海上・内陸河川交通、航空交通などを具体的に取りあげて概観する。とくに日本の鉄道史における事例をいくつか取りあげて理解する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.地理学という学問分野について基礎的な理解を得る。2.各種の近代交通機関について基礎的な理解を得る。3.日本の鉄道史について基礎的な理解を得る。	
	日本多文化共生概論	日本が多民族社会であることを確認し、その歴史と現状について概観する。まず北海道の先住民族アイヌ民族の問題と被差別部落問題について基本的な理解を得る。その後、兵庫県神戸市などの国際港湾都市を事例にとりあげて、日本列島への外国からの移民と、その子孫がつくるエスニック・コミュニティについて具体的に見ていく。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本の多民族状況についての基本的な知識を得る。2.現在の日本の外国人受け入れの問題を日本の近現代の歴史のなかで理解できる。3.日本のエスニック・コミュニティの成り立ちと現状を国際港湾都市を例に理解できる。	
	日本精神文化概論	日本の精神文化を自然宗教（アニミズムなど）と創唱宗教（仏教など）の習合した民間信仰が無意識の「見えない宗教」になった民俗宗教と捉え、その概要を学ぶ。とくに日本の精神文化の地理的、歴史的背景についての基礎的事項を、民俗宗教に関連する日本語の専門用語とともに理解する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.宗教現象を学術的に説明するための基本的な考えかたがわかる。2.日本の地理と歴史を古代以来の思想・宗教の影響から説明できる。3.現代の日本人の生活実践を思想・宗教の影響から説明できる。	
	ナラロジー概論	奈良という地域の歴史的および現代的な現象を、現代に至るまで歴史的にたどり、広く国際的視点を取り入れながら学ぶ。さらに奈良地域に見られる諸問題を特定し、改善への取り組みを見る。奈良という特定の地域研究を主眼とするものではなく、広く日本や世界で見られる現象と関連づけながら、奈良の事象を見るところに本概論の特徴がある。そして以下の諸点を到達目標とする。1.歴史的視点から奈良が日本のはじまりであることを知る。2.広く、国際的・普遍的価値基準により奈良の事象を見なおす。3.日本に広くみられる社会的課題と解決への試みについて、奈良の中に具体的事例を見出す。	
	日本生活文化概論	近現代の日本人の生活用品について、小売の場面に焦点をあてながら理解する。最初に日本の「みせ」の起源を、中世の京都・奈良の町や19世紀の「博覧会」や「勧工場」に見る。そして現在の「百貨店」、「商店街」、「スーパー・マーケット」、「コンビニエンス・ストア」の歴史的背景をそれぞれ理解し、そこで売られていた商品について具体的に知る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.近現代の日本人の生活用品について理解する。2.日本の流通の歴史について基本的な事項を理解する。3.現在の日本の商店街やコンビニエンス・ストアが抱える問題について理解する。	
	社会言語学概論	言語の運用においては，話者の年齢・性別・居住地域・立場などによって「ゆれ」が見られることがある。この「ゆれ」を研究する社会言語学の基礎を学ぶ。前半は講義を中心に進めるが，後半は受講者間における討論も用いながら，さまざまな言語に見られる「ゆれ」について考える。以下の諸点を到達目標とする。1.社会言語学の全体像や意義を理解する。2.日本語や諸言語におけることばの「ゆれ」を、具体的な事例をもとに理解する。	
	日本表現文化特論	中世に成立した、日本の代表的伝統芸能の一つとして現在に至るまで長く演じられている能楽の古典的名著である『風姿花伝』に触れてみる。同書は、単なる演芸論としての特性に留まらず、哲学書としての様相を帯びており、現在も国内外で広く読まれている所以がある。そして以下の諸点を到達目標とする。1.『風姿花伝』の主な内容について理解を深める。2.単なる芸能文化だけではなく、広く現在の日本の文化にもその内容が影響を与えていることを知る。	
	経営人類学特論	経営とは、人・モノ・カネ・情報を、個人や社会の幸運に資する目的のためにマネジメント（管理・運営）することであり、企業など営利組織に限定されるものではなく、NPO・NGOなど非営利団体はもちろんのこと、個人の人生や家庭の運営もまた経営であると考えられる。そして以下の諸点を到達目標とする。1.経営という人間行為を広義の意味で捉え直してみる。 2.経営という行為を、広く人間学の意味で捉えていたと思われるピーター・ドラッカーや松下幸之助などの思考に触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	日本情報文化特論	歌謡曲などの大衆文化を具体的にとりあげて、ラジオやテレビなどのメディアと歌詞などのコンテンツの両面に目を配りながら、近現代の日本社会と大衆文化の歴史について学ぶ。そして以下の諸点を到達目標とする。1.近現代の日本社会の歴史をメディアとそのコンテンツを通じて理解する。2.歴史を通じて日本人に共有されている代表的な大衆文化作品について知る。3.歌謡曲の歌詞などに出てくる当時の社会を反映した日本語のことばを学ぶ。	
	日本環境文化特論	日本の環境問題への取組みとエネルギー問題に関わる姿勢について概観する。産業革命をはじめとした近代産業や現在のグローバル化した経済のあり方は、公害など多くの社会問題もまた産み出してきた。本特論では、以下の諸点を到達目標とする。1.日本の明治以降の産業化にともなう環境破壊と公害対策を、足利鉱毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、などよく知られた具体的な事例を通じて学ぶ。2.同種の公害問題とその取り組みを世界にも目を向けて学ぶ。3.日本のエネルギー問題、特に原子力および自然エネルギーについて学びつつ、世界の同種の問題や取組についても学ぶ。	
	観光地理学特論	応用性の高い学際的分野である観光研究について、地理学からのアプローチを中心に研究例を学ぶ。研究の対象は、地域の文化資源や自然資源を観光に活用した観光地になる。とくに留学生の関心の高い日本の観光地の事例を取りあげる。そして以下の諸点を到達目標とする。1.観光研究と観光地理学についての基礎的な理解を得る。2.観光産業と旅行者の行動について基礎となる統計や計量的な研究を知る。3.日本の主要な観光地と鉄道交通の整備について歴史と現状を理解する。	
	ナラロジー特論	文化庁が認定する「日本遺産」、ユネスコが登録する「世界遺産」など、日本や世界の価値基準に照らしながら、奈良県のもつ文化的資源・自然的資源について具体的な事例を探る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.比較の視点をもち、グローバルな関係に焦点をあてたナラロジーの研究について理解する。2.奈良県内の特定の文化的資源・自然的資源が、なぜ、どのように、「日本の」あるいは「他文化の」（「多文化の」）価値基準によって認められたのかを知る。3.事例研究を通じ、当該資源に関係のある地域社会のなかで、いかにその資源についての研究が行われ、それが観光開発や産業活性化に結びついているのかを知る。	
	日本生活文化特論	食文化研究の基本的な視角と世界の諸民族の食文化について学ぶ。授業中に、自身の出身地の食文化を日本語でクラスメートに紹介するプレゼンテーションを行い、同時に他のクラスメートのプレゼンテーションを通じ、世界各地の食文化について学ぶ。合わせて、日本の食文化を代表する米（コメ）や寿司（すし）などを取りあげて、現代の日本人の食生活についても具体的に学ぶ。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日本の食文化の特徴を、比較の視点をもって理解する。2.日本語を用いて自身の出身地の食文化を紹介することができる。3.食文化研究の概念や日本の食文化に関する日本語のことばを学ぶ。	
	入門日本語Ａ（会話）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、主に「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができるような会話や談話力を養う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なあいさつができる。2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができる。3.日常の基本的な場面、状況で短い談話ができる。	
	入門日本語Ａ（講読）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて学ぶ。授業では、主に「読むこと」を重点的に学び、授業内容に関連したさまざまなタイプの短い読みものを正しく読めるようになるとともに「読む」ことに慣れることを目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字を正確に読むことができる。2.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字で書かれた短い文章が読めるようになる。3.「読む」ことに慣れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	入門日本語Ａ（文法Ａ）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、主に文法と語彙を重点的に学び、日常の基本的な場面でよく使われる表現の修得を目指す。初級前半の文法と基本文型約75、生活・基本語彙約1000語を学修する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面でよく使われる表現を使って短い会話ができる。2. 基礎的な日本語の「文法」「語彙」の定着と拡充をはかる。3.日本語の「文法」や「語彙」を体系的に習得し、基礎的日本語力を高める。	
	入門日本語Ａ（文法Ｂ）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、動詞の活用形を整理し、正しく使うためのさまざまな練習を行う。また、初級前半の文法と基本文型、生活・基本語彙を使って、簡単な質問や応答などが正しくできることを目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面に応じた文法項目をある程度正しく使うことができるようになる。2.ある条件、状況の中で短い質問や応答ができる。3.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。	
	入門日本語Ａ（作文）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて学ぶ。授業では、主に「書くこと」を重点的に学び、授業内容に関連したさまざまなテーマについて短い文章を書く練習を行ない、簡単な作文が書けるようになることを目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字を使って短い文章を正確に書くことができる。2.短い文章を書くことに慣れる。3.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字で短い作文が書けるようになる。	
	入門日本語Ａ（表記）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて学ぶ。授業では、主にひらがなとカタカナ、初級前半レベルの漢字を学び、正しい書き順で、読みやすい日本語の文字が書けるようになることを目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.ひらがなとカタカナ、漢字220字程度を学ぶ。2.正しい書き順で、読みやすい日本語の文字を書くことができる。3.日本語のことばをカタカナやひらがな、漢字で正しく表記できるようになる。	
	入門日本語Ａ（総合）	入門日本語Ａ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級前半の文法や基本文型、生活・基本語彙を学び、日常の基本的な場面で簡単なやりとりができるようになることを目指し総合的日本語力を身につける。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なやりとりができる。2.「聞くこと」「話すこと」 「書くこと」「読むこと」の四技能を身につけながら、総合力を高める。	
	入門日本語Ｂ（会話）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、中級の学修にスムーズに移行できるよう、日常の基本的な場面での会話能力を養う。また、場面、状況に沿った簡単な談話練習も行う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面での日本語によるコミュニケーションができる。2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、普通体と丁寧体によるコミュニケーションができる。3. 日常の基本的な場面、状況で簡単な談話ができる。	
	入門日本語Ｂ（講読）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて主に「読むこと」を重点的に学ぶ。授業では、主に授業内容に関連した物語、解説文、インタビュー、アンケート、レシピなどさまざまなタイプの読みものに触れ、「読むこと」に慣れることで「読む」楽しさを身につける。そして以下の諸点を到達目標とする。1.さまざまなタイプの読み物を読むことができる。2.読み物に対して理解を深め、内容の要約ができる。3.「読むこと」に慣れ、内容の類推ができる。	
	入門日本語Ｂ（文法Ａ）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級後半の文法と類義語、多義語、抽象的なことばを含む生活・基本語彙約1000語を学修する。また、中級の学修にスムーズに移行できるよう、与えられた条件または状況のもとで質問応答練習を行い、答えによってはさらに質問を加える練習などを行う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面でやや長いやりとりができる。2.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。3.基礎的な文法項目を使って短い文章を書くことができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級で学ぶ動詞の活用形や既習の動詞を「自動詞と他動詞」「意志動詞と無意志動詞」「継続動詞と瞬間動詞」「動作動詞と状態動詞」のように種類別に整理し、その使い方の違いを理解する。また、中級の学修にスムーズに移行できるよう、敬語表現を含む初級後半の文法項目をまとめ、正しく使うためのさまざまな練習を行う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面に応じた文法項目を正しく使うことができる。2. 基礎的な文法項目を使って相手の応答に何らかの感想、意見、質問を重ねるなど自然なやりとりを行うことができる。3.敬語表現に慣れる。	
	入門日本語Ｂ（作文）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて、さまざまなテーマにそって各自の表現したいことについて書く練習をおこなう。また、短文の羅列ではなく、文章の構成パターンを身につけ、日本語の文章表現力を高める。そして以下の諸点を到達目標とする。1.指定したテーマについて、まとまりのある文が書けるようになる。2.文章の全体的な構成を意識化できるようになる。3.作文のテーマをみつけることができるようになる。	
	入門日本語Ｂ（表記）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）の授業進度に合わせて学ぶ。授業では、主に初級後半レベルの漢字250字程度を学修し、学んだ漢字を含む語彙を広げながら「読むこと」「書くこと」が正しくできるようになることを目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.正しい書き順で、読みやすい漢字を書くことができる。2.学んだ漢字を含む語彙を広げる。3.学んだ漢字を含む語彙の「読むこと」「書くこと」が正しくできるようになる。	
	入門日本語Ｂ（総合）	入門日本語Ｂ（文法Ａ・Ｂ、会話、総合）は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、中級の学修にスムーズに移行できるよう、学んだ文法知識や表現を発展させながら、文の構造と意味、機能を総合的に理解する力を養う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.日常の基本的な場面での日本語によるあいさつ、やや長いやりとりができる。2.「聞くこと」「話すこと」 「書くこと」「読むこと」の四技能をバランスよく身につけ、総合力を高める。	
	基礎日本語Ａ（会話）	「話す」「聞く」を中心とした中級前半の日本語会話能力の獲得を目指す。身近な生活場面を設定し、それぞれの場面において自分の意思や希望を伝えたり、相手の発話に対して適切に応答したりできるような練習の機会を多く設ける。また、教材の内容に加え、日常会話に役立つ自然な表現も随時提供する。以下の諸点を到達目標とする。1.自分の意見や希望を十分に伝えることができる。2.相手によって適切な表現を使い分けることができる。	
	基礎日本語Ａ（講読）	中級前半の日本語読解能力の獲得を目指す。テキストにおいては社会的、学術的な内容を含むため、時事問題やニュースなどの話題も適宜取りあげながら授業を進める。そのうえで、全体的な構成や各段落のつながりなど、「日本語らしい」文章とは何かについての知識を得ることを目指す。また、以下の諸点を到達目標とする。1.本文中の重要な部分を見出し、長文の大意を理解することができる。2.与えられた文章を要約することができる。	
	基礎日本語Ａ（文法Ａ）	他の日本語科目においても応用できる中級前半の文法知識の獲得を目指す。この科目は（読解）と連動して進められるため、テキスト本文を読み解くのに必要な文法知識や語彙を提供する。（文法A）の授業は主にテキストの内容に沿って、各文法項目の理解を目指す。テキストで扱うのは日本語能力試験のN3、N2で出題される文法項目が多いので、試験対策としても活用できる。以下の諸点を到達目標とする。1.テキストの文法項目を理解し、適切に使える。2.類義表現の使い分けができる。	
	基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	他の日本語科目においても応用できる中級前半の文法知識の獲得を目指す。この科目は（読解）と連動して進められるため、テキスト本文を読み解くのに必要な文法知識や語彙を提供する。（文法Ｂ）の授業では、（文法Ａ）で学習した文法項目の適切な運用のための練習を中心に進める。テキストで扱うのは日本語能力試験のN3、N2で出題される文法項目が多いので、試験対策としても活用できる。以下の諸点を到達目標とする。1.テキストの文法項目を理解し、適切に使える。2.類義表現の使い分けができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	基礎日本語Ａ（作文）	中級前半の日本語の「書く」能力の獲得を目指す。初級段階で学習した、「自分のことを書く」練習に加えて、話しことばと書きことばの違いも意識しながら、「日本と母国の違い」や「最近のニュースについて」などの題材をもとに、徐々に自身の意見や見解も述べられるような、やや「かたい」文章が書けるようになることを目指す。以下の諸点を到達目標とする。1.場面や状況に応じた書き方ができる。2.全体の構成を考えた文章が書ける。	
	基礎日本語Ａ（表記）	主に基礎日本語Ａの（文法Ａ・Ｂ）（読解）の教材で学ぶ漢字語彙・カタカナ語彙を理解し、正しく書けるようになること目指す。とりわけ、非漢字圏日本語学習者にとって難しいとされる漢字の読み書き、漢字圏日本語学習者にとっても難しいといわれる漢字の複数の読み方などを効率よく覚えるための練習の機会を提供する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.正しい書き順で漢字が書ける。2.状況に応じて正しい読み方で漢字が読める。3.カタカナ語彙の意味を理解し、正しい表記で書ける。	
	基礎日本語Ａ（総合）	新聞・雑誌・ニュースなどを教材に、時事的な話題について討論したり自らの意見を書いたりできるような、読む・書く・聞く・読むの四技能を総動員した、総合的日本語力の獲得を目指す。また、日本の話題だけでなく、受講生の母国の最近のニュースをわかりやすく説明する練習なども取り入れ、国際的なテーマも理解できるようにする。以下の諸点を到達目標とする。1.時事的な話題を理解し、説明することができる。2.与えられた話題について、自分の意見を話したり書いたりすることができる。	
	基礎日本語Ｂ（会話）	「話す」「聞く」を中心とした中級後半の日本語会話能力の獲得を目指す。身近な生活場面を設定し、それぞれの場面において自分の意思や希望を伝えたり、相手の発話に対して適切に応答したりできるような練習の機会を多く設ける。とりわけ、目上の相手と話すときの敬語を正しく使えるようになることを目指す。また、教材の内容に加え、日常会話に役立つ自然な表現も随時提供する。以下の諸点を到達目標とする。1.自分の意見や希望を十分に伝えることができる。2.相手によって適切な表現（特に敬語）を使い分けることができる。	
	基礎日本語Ｂ（講読）	中級後半の日本語読解能力の獲得を目指す。テキストにおいては社会的、学術的な内容を含むため、時事問題やニュースなどの話題も適宜取りあげながら授業を進める。そのうえで、全体的な構成や各段落のつながりなど、「日本語らしい」文章とは何かについての知識を得ることを目指す。また、以下の諸点を到達目標とする。1.本文中の重要な部分を見出し、長文の大意を理解することができる。2.与えられた文章を要約することができる。	
	基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	他の日本語科目においても応用できる中級後半の文法知識の獲得を目指す。この科目は（読解）と連動して進められるため、テキスト本文を読み解くのに必要な文法知識や語彙を提供する。（文法Ａ）の授業は主にテキストの内容に沿って、各文法項目の理解を目指す。テキストで扱うのは日本語能力試験のＮ２（一部Ｎ１）で出題される文法項目が多いので、試験対策としても活用できる。以下の諸点を到達目標とする。1.テキストの文法項目を理解し、適切に使える。2.類義表現の使い分けができる。	
	基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	他の日本語科目においても応用できる中級後半の文法知識の獲得を目指す。この科目は（読解）と連動して進められるため、テキスト本文を読み解くのに必要な文法知識や語彙を提供する。（文法Ｂ）の授業では、（文法Ａ）で学習した文法項目の適切な運用のための練習を中心に進める。テキストで扱うのは日本語能力試験のＮ２（一部Ｎ１）で出題される文法項目が多いので、試験対策としても活用できる。以下の諸点を到達目標とする。1.テキストの文法項目を理解し、適切に使える。2.類義表現の使い分けができる。	
	基礎日本語Ｂ（作文）	中級後半の日本語の「書く」能力の獲得を目指す。これまでに学習した、やや「かたい」文章を発展させ、ほかの授業で求められる日本語によるレポートや、４年次で取り組む卒業論文、卒業課題研究を意識した練習（全体的な構成、ことばの使い方、章分けのし方、意見の述べ方、引用のし方など）を行う。以下の諸点を到達目標とする。1.場面や状況に応じた書き方ができる。2.全体の構成を考えた文章が書ける。3.作文とレポート・論文の違いを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	基礎日本語Ｂ（表記）	主に基礎日本語Ｂの（文法Ａ・Ｂ）（読解）の教材で学ぶ漢字語彙・カタカナ語彙を理解し、正しく書けるようになること目指す。とりわけ、非漢字圏日本語学習者にとって難しいとされる漢字の読み書き、漢字圏日本語学習者にとっても難しいといわれる漢字の複数の読み方などを効率よく覚えるための練習の機会を提供する。以下の諸点を到達目標とする。1.正しい書き順で漢字が書ける。2.状況に応じて正しい読み方で漢字が読める。3.カタカナ語彙の意味を理解し、正しい表記で書ける。	
	基礎日本語Ｂ（総合）	前学期に引き続き、新聞・雑誌・ニュースなどを教材に、時事的な話題について討論したり自らの意見を書いたりできるような、読む・書く・聞く・読むの四技能を総動員した総合的日本語力の獲得を目指す。また、日本の話題だけでなく、受講生の母国の最近のニュースをわかりやすく説明する練習なども取り入れ、国際的なテーマも理解できるようにする。以下の諸点を到達目標とする。1.時事的な話題を理解し、説明することができる。2.与えられた話題について、自分の意見を話したり書いたりすることができる。3.自国の最近のニュースを日本語で紹介できる。	
	ビジネス日本語１	企業側としては、売上増加（顧客数の増加・種類の豊富な商品提供・付加価値の高い商品開発）・利益増加（売上の増加・顧客のニーズに適合・効果的な経費）を目指したい。それには顧客の確保が重要なカギとなる。ここでは、従業員と顧客の関わりについて理解すると同時に、ビジネス場面に必要な文書の様式や体裁、日本語における独特の表現や言い回しについて学ぶ。そして以下の諸点を到達目標とする。1.売上げと利益についての理解を深める。2.顧客のニーズの重要性について学ぶ。3.従業員と顧客の関わりについて理解する。4.様々なビジネス場面に対応できる日本語能力（四技能）を身につける。	
	ビジネス日本語２	企業としては、顧客のニーズを分析し、顧客の満足度をアップさせることで、互いに信頼関係を築かなければならない。地道な努力が最終的には売上げと利益に繋がる。ここでは、企業と顧客との関わりについて理解すると同時に、ビジネス場面に必要な表現力や応用力を身につけることができる。そして以下の諸点を到達目標とする。1.おもてなしの心についての理解を深める。2.サービスに対する満足度を顧客の立場から考える。3.企業と顧客の関わりについて理解する。4.ビジネス場面に必要な表現力や応用力を身につける。	
	日本語実践研究１	日本語能力試験（JLPT）Ｎ２合格者およびＮ２合格を目指す者を対象とし、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるようになるための語彙や文法の獲得を目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.幅広い場面で使われる日本語を理解するために必要な語彙と文法の意味や使い方がわかるようになる。2.これまで学んだ語彙や文法をさまざまな場面に合わせて適切に使えるようになる。	
	日本語実践研究２	日本語能力試験（JLPT）Ｎ１合格を目指す者を対象とし、幅広い場面で使われる日本語が理解できるようになるための語彙や文法の獲得を目指す。そして以下の諸点を到達目標とする。1.幅広い場面や話題（新聞の論説・評論、ニュースや講義など）で使われる難易度の高い日本語を読んだり聞いたりして、ある程度の内容や構成を理解することができる。2.語彙や表現の微妙なニュアンスの違いを認識し、文章や話の内容をより深く理解できるようになる。3.学んだ語彙をさまざまな場面に合わせて適切に使うことができる。	
	日本研究演習１	日本研究に関するテキストを読み、その内容や、自身の研究テーマに関するプレゼンテーション（配布資料を用いた口頭発表）を行うことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について初歩的な理解を得る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.先行研究を調べて、自身の研究テーマを決めることから、日本語の学術書・学術論文の検索能力・読解能力を高める。2.研究計画書の作成を通じ、日本語の文章作成能力を高める。3.プレゼンテーションを通じ、日本語で研究を行うための方法を実践的に学ぶ。	
	日本研究演習２	日本研究に関するテキストを読み、その内容や、自身の研究テーマに関するプレゼンテーション（配布資料を用いた口頭発表）を行うことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について基礎的な理解を得る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.自身の研究テーマについての研究文献を読み進めることから、日本語の学術書・学術論文の読解能力を高める。2.研究計画書に従って調査を進めることから、日本語の運用能力を高める。3.調査結果についてのプレゼンテーションを通じ、日本語で研究を行うための方法を実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本学科専攻科目	日本研究演習３	自身の研究に関するテキストを読み、その内容や自身の研究に関する発表をすることから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について発展的な理解を得る。そして以下の諸点を到達目標とする。1.調査成果等をプレゼンテーションを通じて表現する能力と、自身のプレゼンテーションに対して受けた質問やコメントについてディスカッションを経て学ぶ能力を高める。2.論文を書くことから日本語の作文能力を高める。3.論文作成を通じ、研究を行う方法について実践的に学ぶ。	
	日本研究演習４	自身の研究に関する発表を行い、自身の論文を書き進めて行くことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文・卒業課題研究のための研究を完成させる。そして以下の諸点を到達目標とする。1.オリジナルのデータや先行研究との差異にもとづく独自の研究を進めるための高度な研究能力を身につける。2.論文を書くことから高度な日本語能力を身につける。3.論文についてのディスカッションをクラスメートと重ねることから、研究者コミュニティのなかで研究を行う方法について実践的に学ぶ。	
	日本文化体験実習１	日本の文化に直接触れる貴重な機会として、担当教員が企画し、学生たち自身も積極的に計画立案に参加して、天理大学の近隣地域で実地調査を行う。授業時には、実地調査の準備や報告書の作成も行う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.実地調査の一連の過程を通じ、研究を計画し実践する能力を養う。2.実地調査を通じて、日本語の運用能力を高める。3.天理大学の近隣地域についての理解を深める。4.問題を発見し、自身が得た知識、考えた解決策を報告書にまとめる能力を養う。	
	日本文化体験実習２	日本の文化に直接触れる貴重な機会として、担当教員が企画し、学生たち自身も積極的に計画立案に参加して、天理大学の内外で体験活動を行う。授業時には、体験活動の準備や報告書の作成も行う。そして以下の諸点を到達目標とする。1.体験活動の一連の過程を通じ、学内・学外での様々な活動を計画し実践する能力を養う。2.体験活動を通じて、日本語の運用能力を高める。3.日本文化についての理解を経験的に深める。4.自身が得た知識や考え、感想を報告書にまとめる能力を養う。	
	卒業課題研究	学部・学科教育の集大成であり、４年間学んできた成果を表現する場である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な研究論文を作成する能力を養成する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.先行研究に関する文献調査ができる。2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。3.独自の意見を形成できる。4.意見を研究論文のルールにしたがって表現できる。	
	卒業論文	学部・学科教育の集大成であり、４年間学んできた成果を表現する場である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な研究論文を作成する能力を養成する。そして以下の諸点を到達目標とする。1.先行研究に関する文献調査ができる。2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。3.独自の意見を形成できる。4.意見を研究論文のルールにしたがって表現できる。5.口頭試問を通じ、自身の作成した研究論文の内容について口頭で十分な説明をすることができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	天理教学部門	伝道実習１	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月１回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
		伝道実習２	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよろこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
		伝道実習３	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
		伝道実習４	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の２回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
	人文科学部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
		日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
		日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
		日本語文法論１	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、た形、ない形などのような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語文法論２	「日本語文法論１」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
		日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
		言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推理し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法項現象について解説する。そのうえで、履修生が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
		日本語教授法１	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
		日本語教授法２	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
		第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か？」「インプットとアウトプットのどちらが大事か？」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか？」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
		日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級Ｉ』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
		日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
	社会科学部門	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1)コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。	
		情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに応答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。	
		児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのＹＡサービスについても、この授業で取り上げる。	
		情報サービス演習１	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
		情報サービス演習２	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用の方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
		図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」にとどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
		情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	社会科学部門	情報資源組織演習１	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
		情報資源組織演習２	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
		図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
		図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとっての取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総合目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
		博物館実習１	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
		博物館実習２	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を実地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中５日分の実習を集中講義で行う。	共同
		矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
		更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

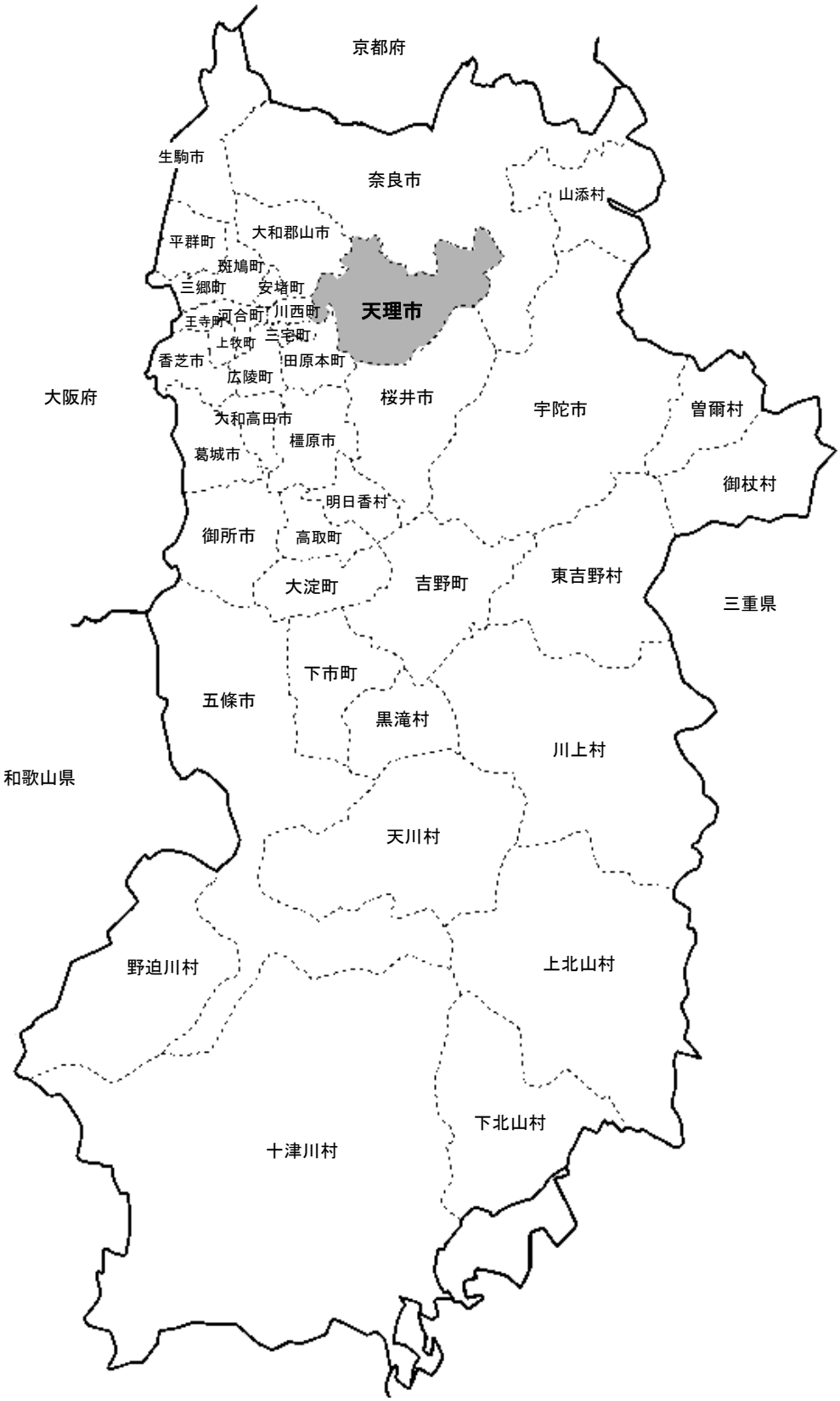
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を実現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
		矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教誨師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （116 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （119 山本道次/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
		犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
	教職に関する専門教育科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
		教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えるとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
		教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
		教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷(明治以前から昭和初期までの学校教育課程)ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原理について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
		学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識･理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようにあるべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
		道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT)を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	
		教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
		教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
		介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通して、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことによって、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

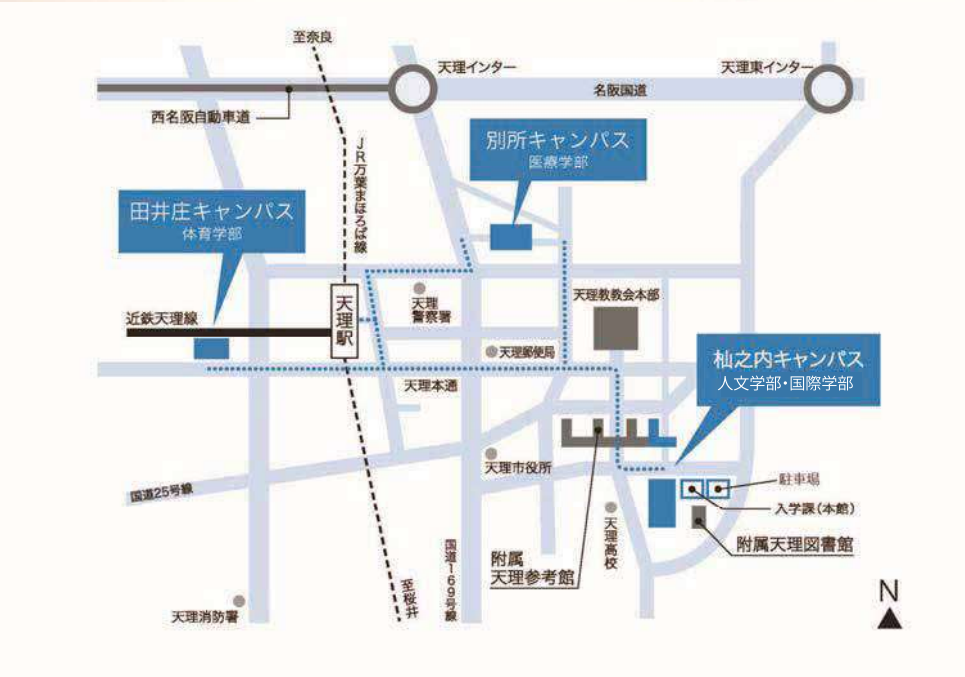
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
		教育実習１	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間）出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習１のみの登録で可としている）	
		教育実習２	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間）出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習１と合わせて教育実習２も登録することとしている）	
		人権教育論１	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なのかということについて学んでいく。	
		人権教育論２	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」「性をめぐる課題」「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
		特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
		学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウエビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師‐子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

（1）都道府県内における位置関係の図面



（2）最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



大学へのアクセス＜天理駅から＞

杣之内キャンパスへは
- ・通学バス（天理大学行）で約8分
- ・徒歩の場合　東へ約2km（約20分）

田井庄キャンパスへは
- ・徒歩　西へ約700m（約5分）

別所キャンパスへは
- ・徒歩　東へ約1.2km（約15分）
- ・バス利用で約10分

＜大阪から＞（所要時間約1時間）

近鉄奈良線「難波」駅より奈良行き（快速急行・急行）に乗車約35分、「大和西大寺」駅で下車。天理行き（急行）に乗車約20分、「天理」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行きに乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

＜京都から＞（所要時間約1時間）

近鉄京都駅「京都」駅より天理行き（急行）に乗車約60分、「天理」駅で下車。「京都」駅より橿原神宮前行き（急行）に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

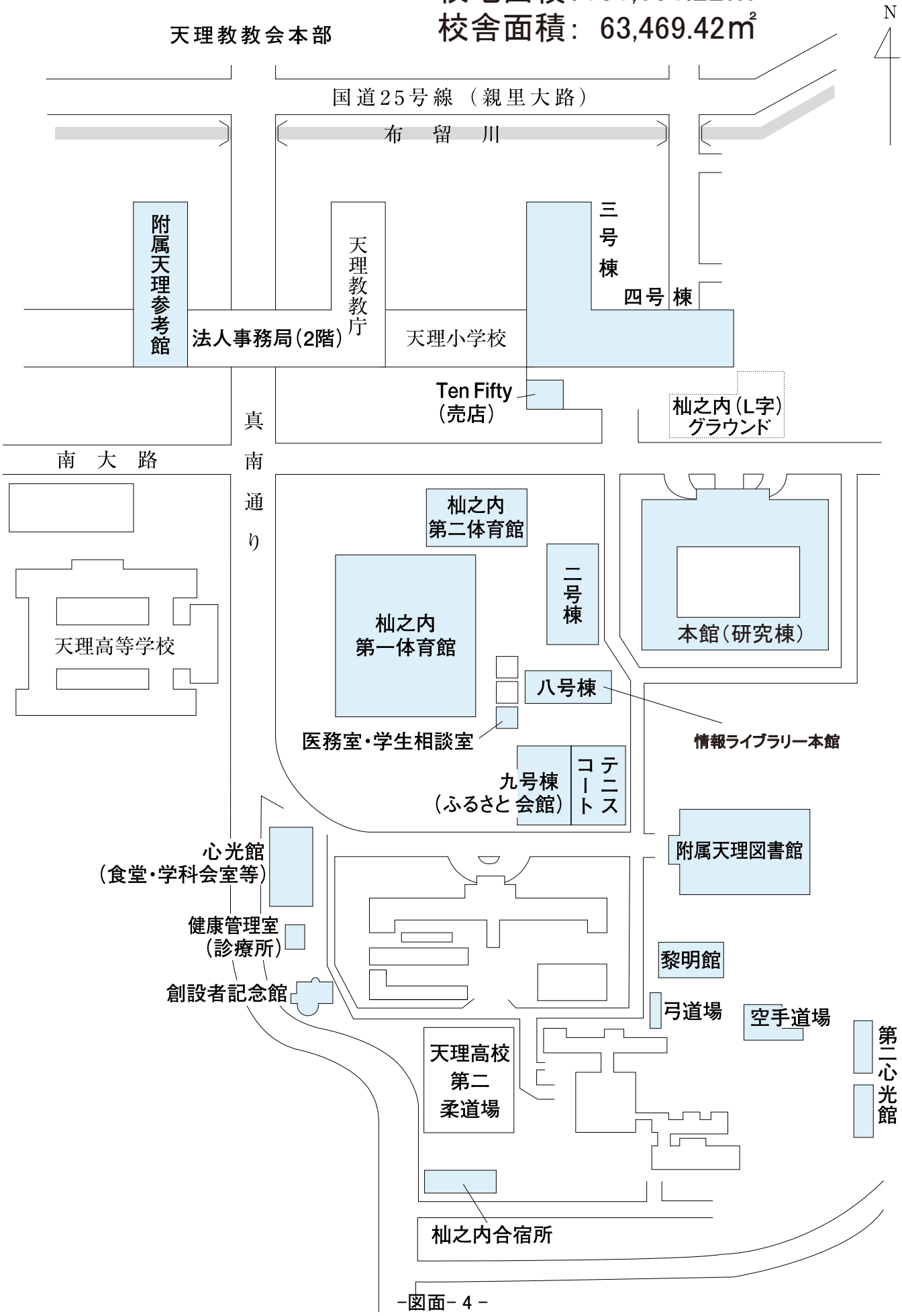
＜神戸から＞（所要時間約1時間半）

阪神なんば線「三宮」駅より奈良行き（快速急行）に乗車約70分、近鉄奈良線「大和西大寺」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行き（急行）に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

（３）校舎、運動場等の配置図

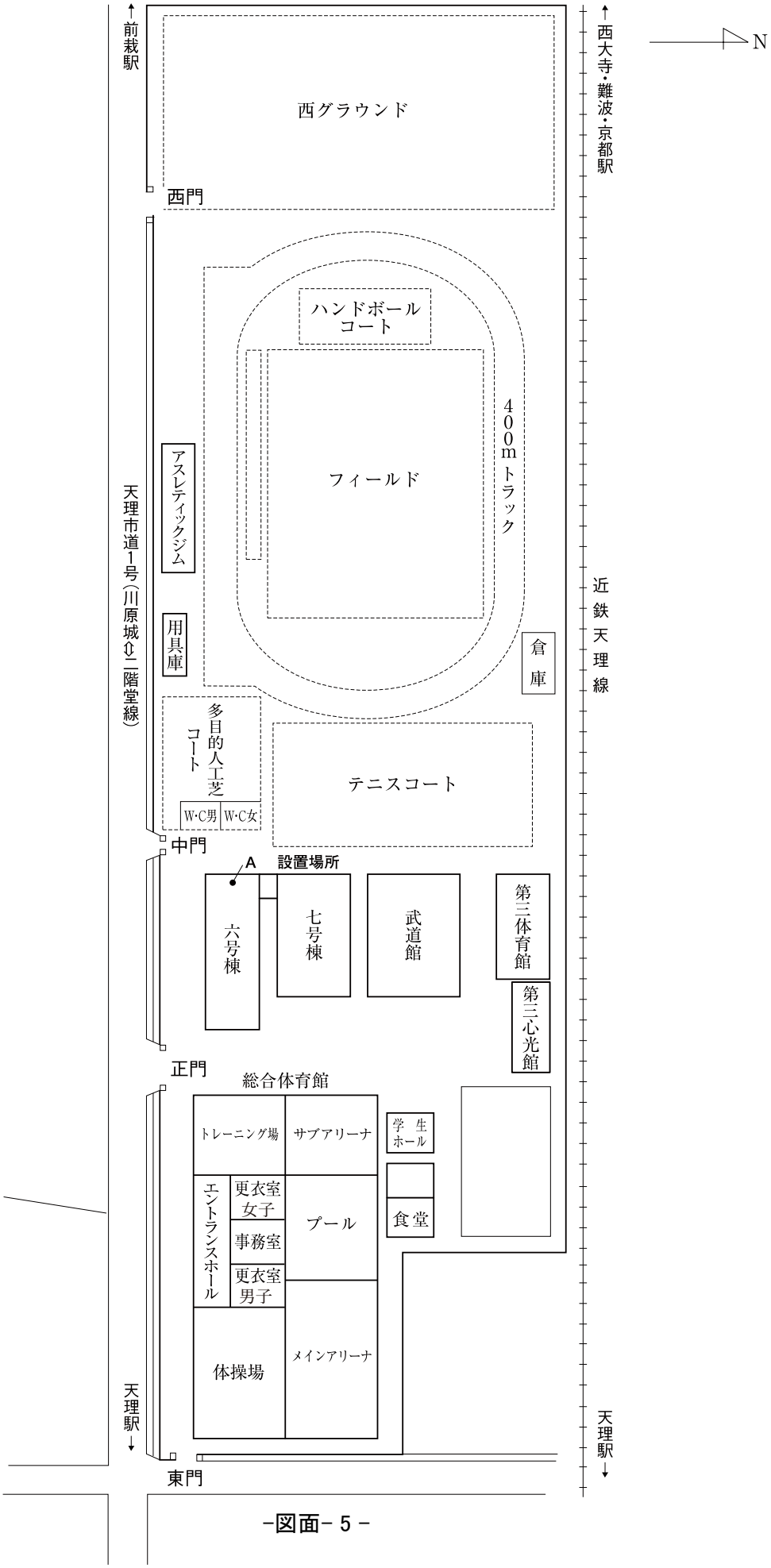
（３）校舎、運動場等の配置図
　　杣之内キャンパス

校地面積：151,091.22㎡
校舎面積：　63,469.42㎡

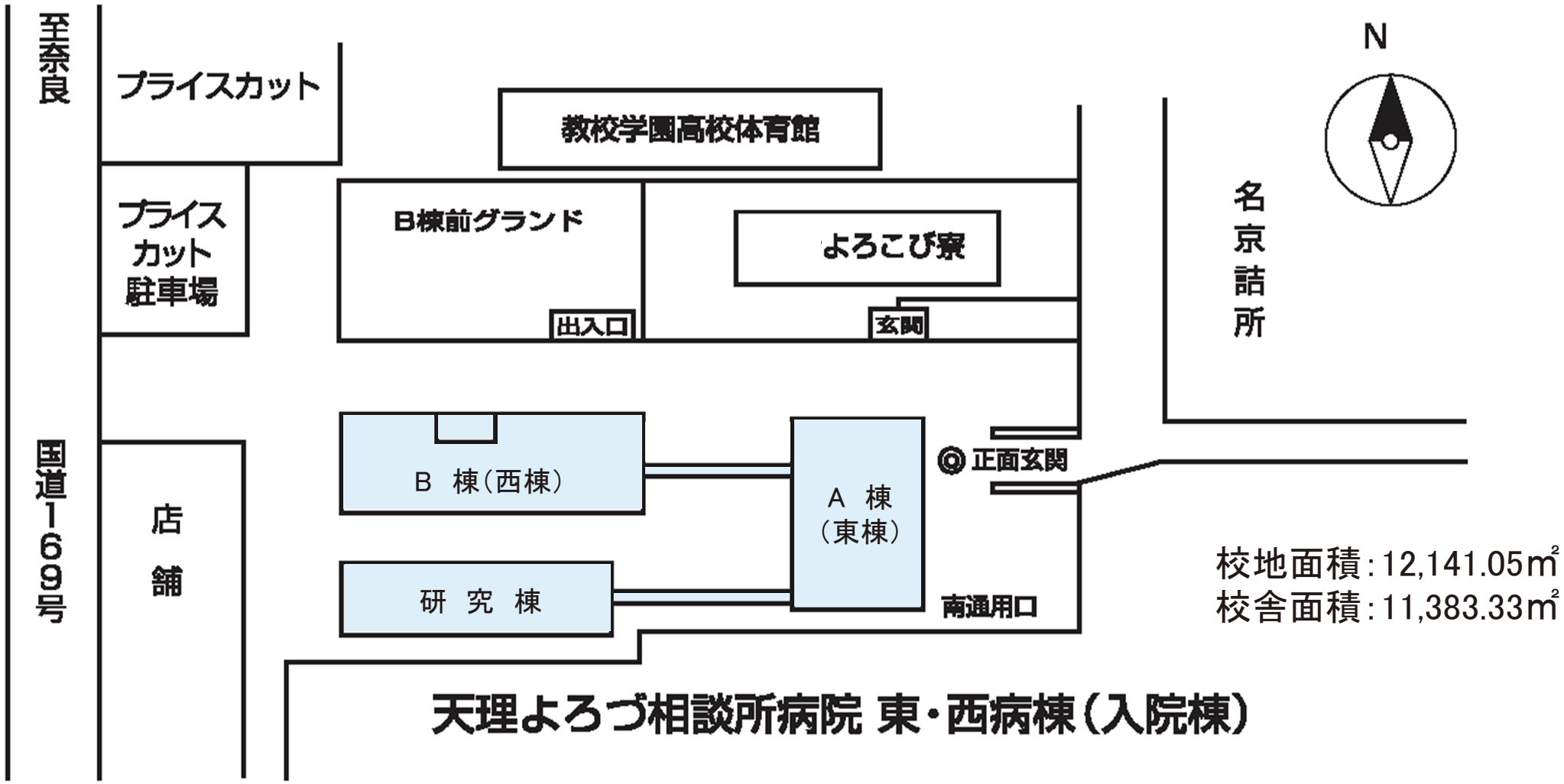


（３）校舎、運動場等の配置図
田井庄キャンパス

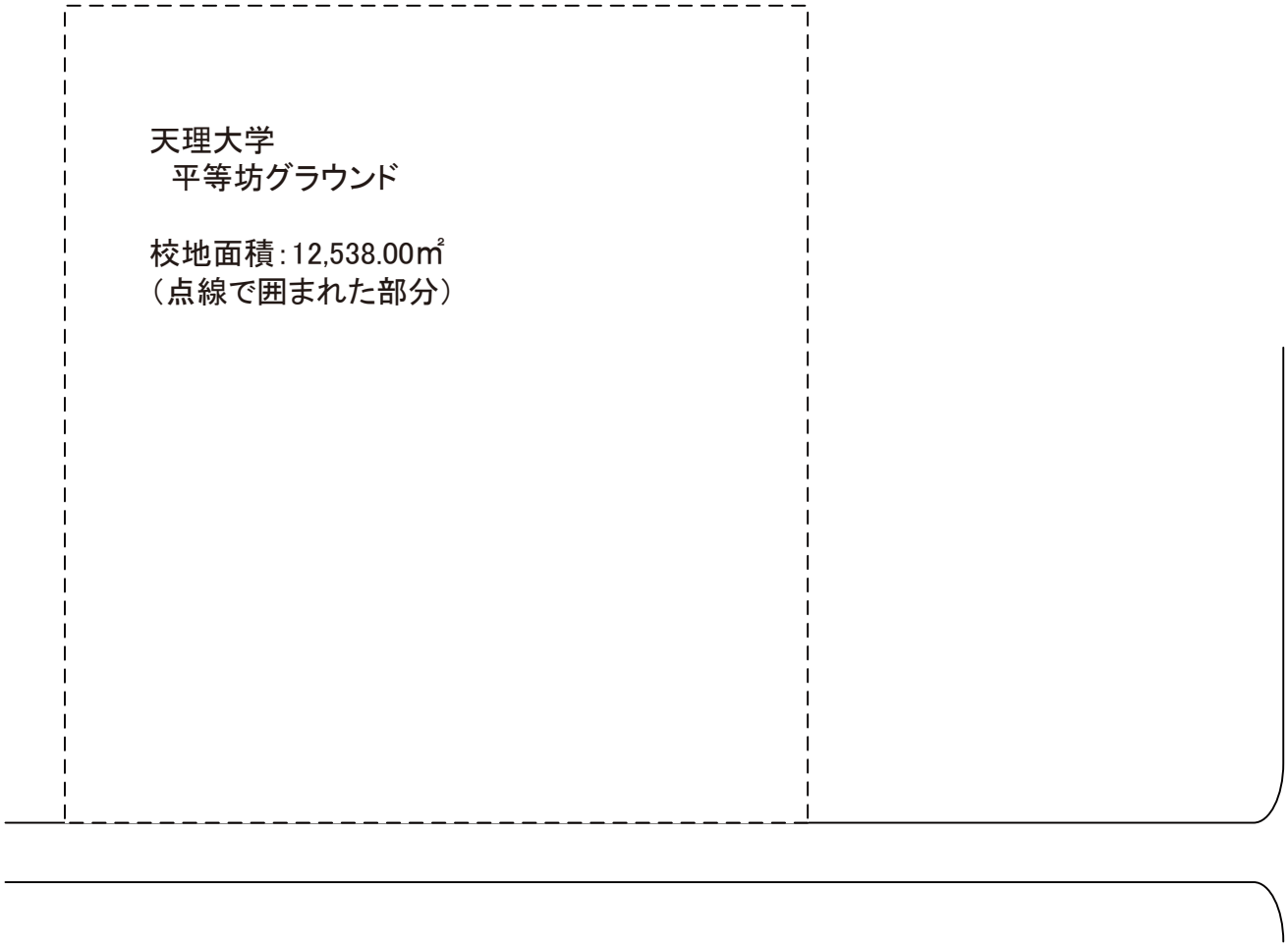
校地面積：54,273.99㎡
校舎面積：5,973.74㎡



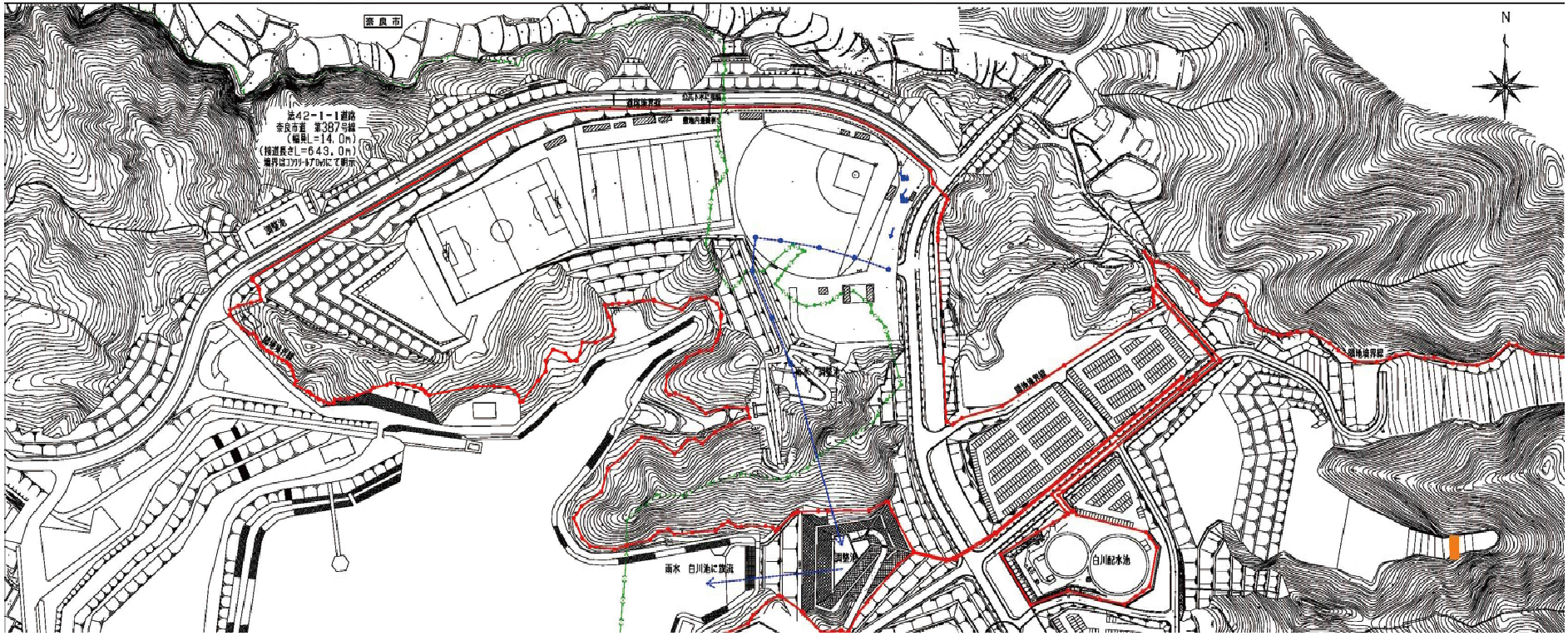
（３）校舎、運動場等の配置図
別所キャンパス



（３）校舎、運動場等の配置図
平等坊グラウンド



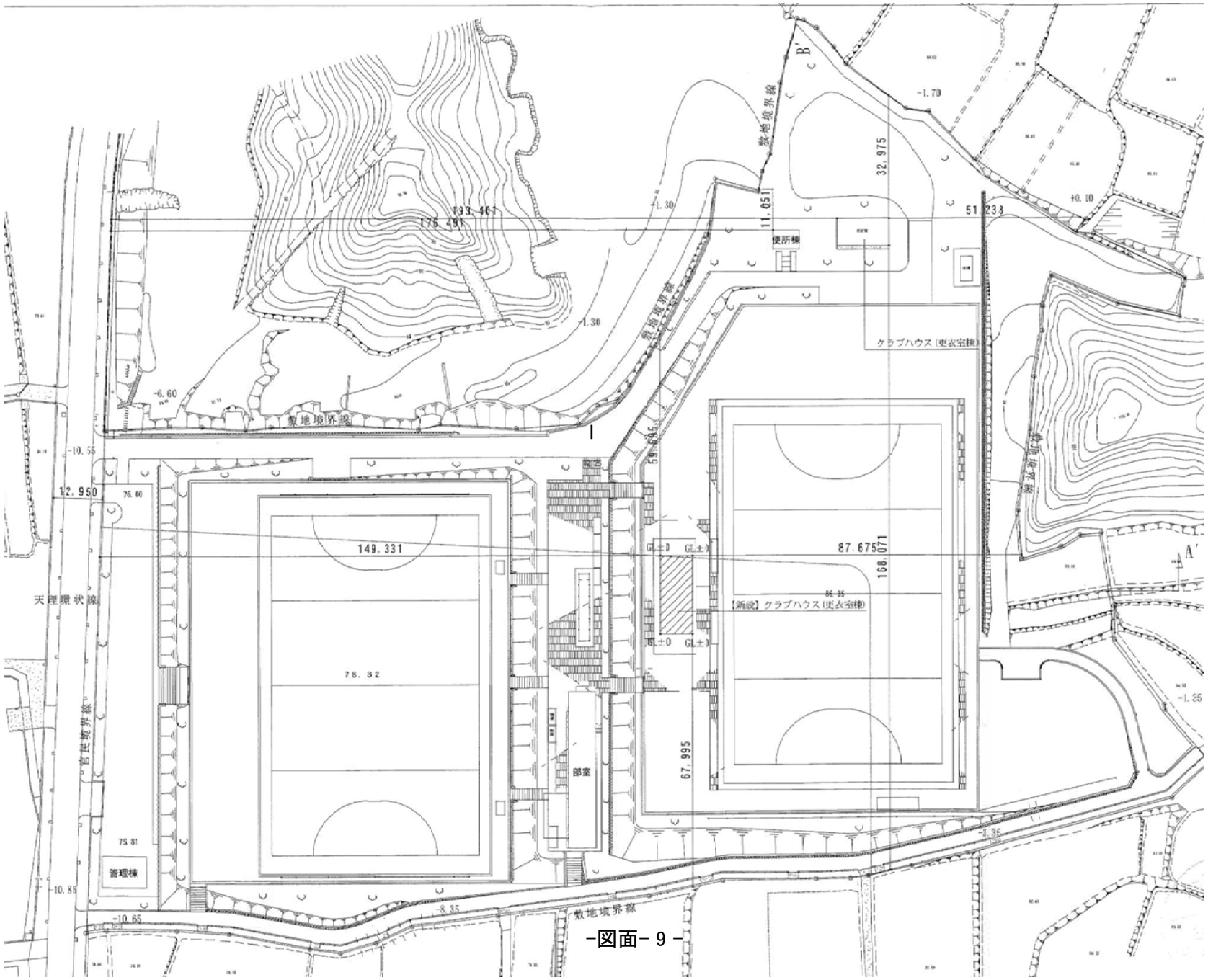
（３）校舎、運動場等の配置図
白川グラウンド



校地面積：60,638.00㎡

（３）校舎、運登場等の配置図
親里ホッケー場

校地面積：24,300.00㎡



天理大学学則（案）

令和６年４月改正

第　１　章　　総　　則

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。

第１条の２　本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う。

２　前項の点検評価項目及び実施体制に関する規程は、別に定める。

第１条の３　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を行う。

第２条　本大学に、人文学部・国際学部・体育学部及び医療学部を置く。

２　人文学部に、次の学科を置く。

(1) 宗　教　学　科
(2) 国文学国語学科
(3) 歴史文化学科
(4) 心理学科
(5) 社会教育学科
(6) 社会福祉学科

３　国際学部に、次の学科を置く。

(1) 韓国・朝鮮語学科
(2) 中国語学科
(3) 英米語学科
(4) 外国語学科
(5) 国際文化学科
(6) 日本学科

４　体育学部に、次の学科を置く。

体育学科

５　医療学部に、次の学科を置く。

(1) 看護学科
(2) 臨床検査学科

第２条の２　各学部、学科の教育研究上の目的は、別表第１のとおりとする。

第２条の３　本大学に、大学院を置く。

２　大学院に関する規程は、別に定める。

第３条　本大学の収容定員は、次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
人文学部	宗 教 学 科	２０名	８０名
	国文学国語学科	４０名	１６０名
	歴史文化学科	５０名	２００名
	心理学科	４０名	１６０名
	社会教育学科	４０名	１６０名
	社会福祉学科	５０名	２００名
国際学部	韓国・朝鮮語学科	４０名	１６０名
	中国語学科	４０名	１６０名
	英米語学科	６０名	２４０名

	外国語学科	６０名	２４０名
	国際文化学科	５０名	２００名
	日本学科	４０名	１６０名
体育学部	体育学科	２４０名	９６０名
医療学部	看護学科	７０名	２８０名
	臨床検査学科	３０名	１２０名

第４条　本大学各学部の修業年限は、４年とする。
第５条　本大学に全学教育推進機構を置く。
第５条の２　本大学に国際交流センターを置く。
２　本大学に情報ライブラリーを置く。

第　２　章　　職員組織

第６条　本大学に学長を置く。
２　学長は、校務を掌り所属職員を統督する。
３　学長は、学内の諸会議体の審議結果を参酌した上で、法律が定める事項及び理事会から委任された教育・研究に関する事項を決定し実行する責任を負う。
第７条　本大学に副学長を置くことができる。
２　副学長は、学長を助け、命を受けて校務を掌る。
第８条　本大学に学部長を置く。
２　学部長は、当該学部の教授会を代表し、学部の運営にあたる。
第９条　本大学の学科及び課程にそれぞれ主任を置き、主任は学科及び課程の事務を処理する。
第 10 条　本大学に教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。
２　本大学に必要に応じ、特任教授、特任准教授、特任講師を置く。
３　教員及び事務職員に関する規程は、別に定める。
第 11 条　事務組織は、事務職員によることを原則とするが、その事務の性質上、教員がこれを兼務することがある。
第 12 条　本大学各学部及び附属おやさと研究所に教授会を置く。
２　教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く）をもって組織する。
３　各学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項
(2) 学部学生の学位授与に関する事項
(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
４　各教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　各学部教授会及び附属おやさと研究所教授会に関する規程は、別に定める。
第 13 条　本大学に、全学協議会を置く。
２　全学協議会は、次の構成員をもって組織する。
(1) 学長

(2) 副学長
(3) 各学部長
(4) 各大学院研究科長
(5) 附属天理図書館長、附属おやさと研究所長及び附属天理参考館長
(6) 各学部より選出された　教授　各１名
(7) 事務局長
(8) 事務部門の長のうち学長の指名する者２名

３　全学協議会は、全学的な教育研究及び運営に関わる次の事項について審議する。
(1) 学生の入学及び卒業の方針に関する事項
(2) 学位授与の方針に関する事項
(3) 大学の研究組織、施設の設置・廃止及び制度、機構の整備・改変に関する事項
(4) 学則その他重要な規程の制定及び改廃に関する事項
(5) 名誉教授に関する事項
(6) 大学の教育研究上の目的を達成するための予算、人事等の基本計画に関する事項
(7) 教育課程編成の基本方針に関する事項
(8) 教育内容及び授業方法の改善に関する事項
(9) 学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項
(10) 大学の自己点検・評価に関する事項
(11) その他大学の教育研究及び運営に関する重要事項

４　全学協議会に関する規程は、別に定める。

第　３　章　　学年・学期及び休業日

第 14 条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終る。

第 15 条　学年を次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月３０日まで
秋学期　１０月１日から翌年３月３１日まで

第 16 条　休業日は、次のとおりとする。
(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和２３年法律第１７８号)に規定する休日
(2) 天理教祭日　　４月１８日　１０月２６日　１月２６日
(3) 創立記念日　　４月２３日

２　夏期休業、冬期休業、春期休業については、学長が全学協議会の議を経て定めることができる。

３　学長は、必要があると認めたときは、前２項に掲げる休業日を変更することができるほか、臨時に休業日を置くことができる。

４　学長は、必要があると認めたときは、休業日であっても授業を実施することができる。

第　４　章　　教 育 課 程

第 17 条　本大学の授業科目の区分は、総合教育科目及び専門教育科目とする。

第 18 条　本大学の授業科目及び単位は別表第２に定めるとおりとし、天理大学履修規則によって履修しなければならない。

第 18 条の２　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、３５週にわたることを原則とする。

第19条　授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間とし、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、１５時間から３０時間の授業をもって１単位とする。

(2) 実験・実習及び実技については、３０時間から４５時間の授業をもって１単位とする。

(3) １の授業科目について、講義、演習、実験・実習及び実技のうち２以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮した時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の１単位の計算基礎となる授業時間については、教授会及び全学協議会の議を経て、学長がこれを決定する。

第20条　授業科目を履修し試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第21条　授業科目の試験の成績は、Ａ＋・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆの５種の評語をもって表わし、Ａ＋・Ａ・Ｂ・Ｃを合格とする。

第22条　本大学が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、６０単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、本大学の協定又は認定する外国の大学又は短期大学に留学する場合及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第22条の２　本大学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第23条　本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第２２条第１項及び第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第24条　本大学を卒業し、教育職員免許法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、下表に示す教育職員免許状を取得することができる。

学部名	学科名	免許状の種類	
		種類	免許教科
人文学部	宗教学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	宗教
	国文学国語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語

	歴史文化学科	中学校教諭一種免許状	社　　会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
国 際 学 部	韓国・朝鮮語学科	高等学校教諭一種免許状	韓国・朝鮮語
	中国語学科	高等学校教諭一種免許状	中 国 語
	英米語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英　　語
	外国語学科	高等学校教諭一種免許状	スペイン語
	国際文化学科	中学校教諭一種免許状	社　　会
		高等学校教諭一種免許状	公　　民
体 育 学 部	体育学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育

第 25 条　本大学を卒業し、図書館法及び同施行規則に定める図書館に関する科目、単位を修得した者は、図書館司書となる資格を取得することができる。

第 26 条　教育職員免許状を取得した者で、学校図書館司書教諭講習規程に定める科目、単位を修得した者は、学校図書館司書教諭となる資格を取得することができる。

第 27 条　本大学を卒業し、博物館法及び同施行規則に定める博物館に関する科目、単位を修得した者は、博物館学芸員となる資格を取得することができる。

第 28 条　社会教育法及び社会教育主事講習等規程に定める社会教育に関する科目、単位を修得した者は、社会教育主事となる資格及び社会教育士の称号を取得することができる。

第 29 条　人文学部社会福祉学科を卒業し、社会福祉士及び介護福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、社会福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 30 条　人文学部社会福祉学科を卒業し、精神保健福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を取得した者は、精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 31 条　医療学部看護学科を卒業し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める科目、単位を取得した者は、看護師国家試験受験資格を取得することができる。

第 32 条　医療学部臨床検査学科を卒業し、臨床検査技師等に関する法律に規定する学校として指定を受けた科目、単位を取得した者は、臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができる。

第　5　章　　入学・留学・休学及び退学

第 33 条　入学期は、学年の始めとする。

第 34 条　第１年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 高等学校を卒業した者（中等教育学校の後期課程を含む）

(2) 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）

(3) 外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5) 文部科学大臣の指定した者
(6) 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者
(7) その他本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者

第 35 条　入学志願者に対しては、別に定めるところによって、選考を行なう。

第 36 条　入学志願者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、別に定める検定料を納入しなければならない。

第 37 条　入学試験に合格した者で、指定の期日までに所定の誓約書（本人及び保証人の署名捺印を要す）等を提出し、入学金・授業料・教育設備充実費・その他を納入した者は、入学を許可する。

２　前項の保証人は、父母（父母なき者はこれに代わる親族等）とする。

第 38 条　別に定めるところによって選考のうえ、編入学を認めることがある。

第 39 条　本大学在学中は、他学科に転ずることはできない。

第 40 条　学生が、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学するときは、別に定めるところにより願い出なければならない。

第 40 条の２　外国の大学に籍を置く外国人学生の受入れ及びその取扱いについては、別に定める。

第 41 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により２ヵ月以上欠席するときは、本人及び保証人連署のうえ、学部長に願い出てその許可を得て休学することができる。ただし、疾病の場合は医師の診断書を添付しなければならない。

２　前項の事由のある場合において、特に必要があると認めた者には、休学を命ずることができる。

３　休学期間は当該年度以内とし、特別の事由がある場合は、別に定めるところによってその期間延長を認めることができる。ただし、通算４年を超えることができない。

第 42 条　学生は、８年を超えて在学することはできない。

２　前条の休学期間は、原則として在学年数に通算しない。

第 43 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により退学するときは、本人及び保証人連署のうえ、学長に願い出て、その許可を得なければならない。

第　６　章　　卒業及び学位

第 44 条　４年以上在学し、次の各号に定める単位について、天理大学履修規則に定めるところにより修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、卒業証書を授与し、あわせて学士の学位を授与する。

(1) 人　文　学　部　　１２４単位以上
(2) 国　際　学　部　　１２４単位以上
(3) 体　育　学　部　　１２４単位以上
(4) 医　療　学　部　　１２４単位以上

第 45 条　卒業期は、学年の終りとする。

第 46 条　本大学が授与する学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次の各号に定める

とおりとする。

（1）	人文学部	宗教学科	宗教学
		国文学国語学科	国文学
		歴史文化学科	歴史文化学
		心理学科	心理学
		社会教育学科	社会教育学
		社会福祉学科	社会福祉学
（2）	国際学部	韓国・朝鮮語学科	韓国・朝鮮語
		中国語学科	中国語
		英米語学科	英語
		外国語学科	タイ語
			インドネシア語
			ドイツ語
			フランス語
			ロシア語
			スペイン語
			ブラジルポルトガル語
		国際文化学科	国際文化学
		日本学科	日本学
（3）	体育学部	体育学科	体育学
（4）	医療学部	看護学科	看護学
		臨床検査学科	臨床検査学

第７章　科目等履修生・特別聴講学生及び委託学生

第 47 条　本大学の学生以外の者で一又は複数の授業科目の履修を希望する者（「科目等履修生」という）がある時は、当該授業科目所属の学科（課程を含む）において適当と認められた者につきこれを許可する。ただし、第３４条の各号の一に該当する者に限る。

第 48 条　科目等履修生の願い出は学期始めとし、科目等履修生の就学期間は原則として、当該年度末までとする。

２　年度を超えて引き続き科目等履修生として授業科目の履修を希望する者は、改めて願い出なければならない。

第 49 条　科目等履修生であって所定の科目試験に合格し単位認定を受けた場合は、請求により単位修得証明書を交付する。

第 50 条　科目等履修生のうち、次の各号に該当する者は、希望の授業科目を指定し、所定の手続きを経て許可を受けなければならない。

(1) 教育職員免許法第５条に規定する基礎資格を有し、教育職員免許法及び同施行規則により教育職員免許状を得ようとする者

(2) 学士の学位を有し、図書館法第５条第１項第１号の規定による司書となる資格を得ようとする者

(3) 教育職員免許状を有し、学校図書館司書教諭講習規程第３条及び附則第３項の規定による学校図書館司書教諭となる資格を得ようとする者

(4) 学士の学位を有し、博物館法第５条第１項第１号の規定による学芸員となる資格を得ようとする者

(5) 社会教育法第９条の４第１項第３号の規定による社会教育主事となる資格を得ようとする者

第 50 条の２　他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該大学に在学中の学生で本大学の授業科目の履修を希望する者がある時は、別に定めるところにより、特別聴講学生としてこれを認めることができる。

第 51 条　官庁又は公共団体から、1 年以上を在学期間として受講科目を定めて入学を願い出た場合は、選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

第 52 条　委託学生であって、所定の科目を修めその試験に合格した者には、修了証書を授与する。

第 53 条　科目等履修生、特別聴講学生及び委託学生には、別に定めるものを除くほか本学則を準用する。

第　８　章　　入学金・授業料・教育設備充実費・その他

第 54 条　入学金・授業料・教育設備充実費は別表第３に定めるとおりとし、その納入及びその他については別に定める。

第 55 条　前条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、「大学等における修学の支援に関する法律」による授業料等減免対象者と認定された者については、別に定める。

第 56 条　既に納入した第５４条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は返還しない。ただし、前条に定める授業料等減免対象者と認定された入学者については、減免対象となる入学金・授業料を返還する。

第 57 条　休学を許可された者及び命ぜられた者についての授業料・教育設備充実費・その他は別に定める。

第 58 条　学年の途中において退学する者は、退学の日の属する学期分の授業料・教育設備充実費・その他を納入しなければならない。

第 59 条　正当な理由なく第５４条に定める授業料・教育設備充実費・その他を所定の期日までに納入しない者は除籍する。

第　９　章　　賞　　罰

第 60 条　学生で優秀な研究をした者、又は他の学生の範となるべき行為をした者に対して、学長は、教授会及び全学協議会の意見を徴し、これを褒賞することができる。

第 61 条　学生にその本分に反する行為のあったときは、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が懲戒する。

２　懲戒は、譴責、停学、退学とする。

第 62 条　次の各号の一に該当する者には、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が退学を命ずることがある。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第１０章　　別　　科

第 63 条　本大学に別科（日本語課程、外国語課程）を置く。

２　別科に関する規程は、別に定める。

第 １１ 章　　附 属 施 設

第 64 条　本大学に天理図書館、おやさと研究所及び天理参考館を付設する。
２　附属施設に関する規程は、別に定める。
第 65 条　学寮を設け一部学生を入寮させる。

第 １２ 章　　公 開 講 座

第 66 条　地域社会への研究成果の還元と文化の向上に資するため、本大学に公開講座を開設することができる。

附　則

本学則は、昭和２４年４月１日から施行する。

附　則

朝鮮文学朝鮮語学科は、昭和２５年４月から開設する。

附　則

司書養成課程は、昭和２６年４月から実施する。

附　則

学部学科の変更に伴う学則の改正は、昭和２７年から実施する。

附　則

選科生に関する規程は、昭和２７年４月から実施する。

附　則

体育学部体育学科は、昭和３０年４月から開設する。

附　則

本学則は、昭和３２年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３３年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３５年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３７年４月から施行する。ただし、第３１条ただし書については、昭和３８年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４０年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４３年１０月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４４年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、なお従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４６年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４８年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４９年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、昭和５０年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５１年４月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５２年４月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５６年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和５８年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和６２年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、昭和６３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、平成２年度に第１年次に入学した学生を除き従前の例による。

附　則

本学則は、平成３年１２月５日から施行する。

附　則

１　本学則は、平成４年４月１日から施行する。

２　本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。

３　第３条の規定にかかわらず、平成４年度から平成１１年度までの入学定員は、つぎのとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
体育学部	体育学科	２２０名

附　則

本学則は、平成５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した

学生の授業科目の履修及び単位の修得については、平成４年度に第１年次に入学した学生を除き従前の例による。

附　則

本学則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成６年５月１８日から施行する。

附　則

本学則は、平成７年４月１日から施行する。ただし、第１８条別表第１については、平成３年度以前に入学した学生は従前の例による。

附　則

１　本学則は、平成７年１１月１７日から施行する。

２　第３５条の規定にかかわらず、平成３年度以前に入学した文学部宗教学科及び外国語学部各学科の学生については、別に定めるところにより、他学部・学科・専攻に転ずることができる。

附　則

本学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成９年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成９年６月５日から施行する。

附　則

本学則は、平成１０年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

１　本学則は、平成１２年４月１日から施行する。

２　第３条の規定にかかわらず、平成１２年度から平成１５年度までの入学定員及び平成１２年度から平成１８年度までの収容定員は、つぎのとおりとする。

学　　部	学　　科	年　　度	入学定員	収容定員
体育学部	体育学科	１２年度	２１０名	８７０名
		１３年度	２００名	８５０名
		１４年度	１９０名	８２０名
		１５年度	１８０名	７８０名
		１６年度	１７０名	７４０名
		１７年度	１７０名	７１０名
		１８年度	１７０名	６９０名

３　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修および単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１５年５月１４日から施行する。

附　則

本学則は、平成１６年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１７年４月１日から施行する。ただし、平成１４年度以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、従前の例による。

附　則

本学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２１年度以前入学生にあっては、従前の例による。

附　則

本学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

文学部歴史文化学科の収容定員の変更に係る改正学則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

言語教育研究センターの廃止並びに教育設備充実費の改定に係る改正学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

本学則は、令和２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

１　本学則は、令和３年４月１日から施行する。

２　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

３　本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

1　本学則は、令和４年４月１日から施行する。
2　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
3　本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

附　則

本学則は、令和５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した医療学部学生の学納金（授業料及び教育設備充実費（令和５年４月１日付で天理医療大学から転籍した学生においては教育充実費を読み替えるものとする。））については、従前の例による。

附　則

1　本学則は、令和６年４月１日から施行する。
2　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
3　本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

別表第１（第２条の２関係）

学　　部 学　　科	目　　的
人文学部	宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系の成果を教授することにより、他者に献身できる教養と態度を身につけ、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動できるとともに、国内外で「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神の具現化に資する人材を養成することを目的とする。
人文学部 宗教学科	宗教学及び天理教学の枠組みに基づく歴史的、理論的かつ実践的な学習をふまえ、現代世界をとりまく多様な宗教状況を広く学ぶことを通して、ものごとに多面的に対応できる資質と能力を修得させ、同時に、建学の精神にもとづき、国の内外で社会に貢献する実践的意欲をそなえた人材を養成することを目的とする。
人文学部 国文学国語学科	国文学ならびに国語学の知識を基礎から高度な専門領域まで段階的・組織的に修得し、文学作品や言語資料の考察を通して日本の文化を幅広く理解するとともに、国際社会のなかでみずからの知見を主体的に発信できる人材を養成することを目的とする。
人文学部 歴史文化学科	歴史学・考古学・民俗学に立脚しながら、地域に根ざした歴史認識を養い、国際的視野に立った社会や文化の理解をめざす。また、歴史文化に関わる資料の調査・記録能力を修得し、自主的に学び正しく伝える力を身につける。これらの知識や能力を活用し、歴史文化に学びつつ現代社会に貢献する教養ある社会人を育成し、教育や文化財に関わる仕事を通して地域社会に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 心理学科	現代社会に起きているさまざまな心の現象を幅ひろい視点から理解するために必要な心理学の基礎知識と実践のための能力を修得させることを通じて、諸問題の解決に向けた社会活動に実践的に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会教育学科	社会教育の基礎となる知識と技術を修得し、地域社会の持続的な発展に資する多様な学習支援の在り方を実践的に体験・探求していくことで、誰もが主体的に参画できる生涯学習社会の形成に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会福祉学科	社会福祉のプロフェッショナルとして必要な、理念への理解、現場に関する専門的知識、福祉活動をめぐる諸技能等を修得させ、福祉への視点と理解をもつ市民をひろく育成するとともに、社会福祉施設や機関、団体、病院等で活躍できる人材を養成することを目的とする。

学　　部 学　　科	目　　的
国際学部	現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。そのために、国際人に必須の高度な語学力の修得に重点を置く「韓国・朝鮮語学科」「中国語学科」「英米語学科」「外国語学科」と、現代社会の仕組みと国内外の文化の多様性について学際的に学び、その多様性がおりなす共生社会に自ら参加して行動できる力を養う「国際文化学科」、確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本の社会・文化について学び、その学びを社会や地域で活用する力を養う「日本学科」の５学科を設ける。利他の精神を身につけた真の国際人として世界に雄飛し「陽気ぐらし」世界の建設に寄与する人材を養成することを目的とする。
国際学部 韓国・朝鮮語学科	本学創設当初からの長い歴史の中で培われてきた韓国・朝鮮語教育プログラムにもとづき、体系的かつ実践的な韓国・朝鮮語教育を行う。また、韓国・朝鮮語の修得にとどまらず、同時に韓国・朝鮮地域の歴史や文化・社会に関する知識を身につけ、韓国・朝鮮に対する深い理解を得るようにする。さらに、韓国・朝鮮に対する知識を土台に、自国の文化や自分自身を相対化して考える力を涵養し、他者を尊重しつつ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 中国語学科	国際的な視野を有し、国際社会に対応できる人材の育成をはかるための実践的な中国語教育を行う。学習レベルに応じて体系化したカリキュラムにもとづき、高度な中国語運用能力を養成する。さらに実り豊かな留学・海外語学実習を通じて、異文化理解の能力を身につけさせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 英米語学科	今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて英米語圏の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 外国語学科	タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、ブラジルポルトガル語をコース言語とする７言語コースを設け、本学が蓄積してきた外国語の教育・研究資源を活用し、語学力を徹底して鍛えることに主眼を置く。さらに、関連地域の文化や社会についての理解を深めさせ、高度な内容のコミュニケーションを可能にする知識と異文化理解能力を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 国際文化学科	国の内外における多文化共生社会を実現するために、現代社会の仕組みを学際的に理解し、自ら行動し指導・協働することができる人材、公共に資する市民としての「公民」を育成することを目的とする。そのため、ひと・もの・価値（観）が国境を越えて行き来することで生み出される国の内外の文化の多様性について学び、その多様性が織りなす共生社会に自らが参加して行動することのできる人材を養成することを目的とする。

国際学部 日本学科	入学時の語学力に応じた日本語のクラスを通じて身につけた確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本について社会・文化を幅広く学ぶ。また、「日本という国のはじまり」である奈良の地域的特性について深く学び、グローバルな視点から日本や奈良の地理と歴史の理解を深める。既存の知識を単に修得するだけではなく、経営的な視点も加え、社会や地域が伝統文化や新しい文化をどのように導入し、活用していくことができるのかという、今日求められる実学的知識を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。

学　　部 学　　科	目　　的
体育学部 体育学科	「陽気ぐらし」世界の建設に寄与せんとする建学の精神を具現化するために、「他者への献身」の精神を涵養し、身体についての科学的な認識を深めるとともに、国際的な視野に立ってスポーツの意義や可能性を探求することのできる以下のような人材を育成することを目的とする。 ①スポーツにおける高度な競技能力・指導能力を有する人材 ②子ども達への深い理解をもった教育能力の高い教員となる人材 ③スポーツの新たな可能性を追求し、スポーツ文化の創造に寄与できる人材 ④人々の健康の維持・増進に貢献できる人材 ⑤日本の伝統文化である武道を正しく継承し、世界に発信できる人材

学　　部 学　　科	目　　的
医療学部	人に尽くすことを自らのよろこびとするという天理教の理念を基調として、社会人としての豊かな知識を持ち、医療に関わる専門性の高い技術・技能を修得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材を養成することを目的とする。
看護学部 看護学科	看護の対象である個人・家族・地域の人々のそれぞれの成長発達段階と健康段階に応じた看護を実践できる能力、技術、態度を身に着けた医療人の育成をするために、 ①ヒューマニティとアートの統合としての「人に尽くす」看護の探究 ②サイエンスとアートを統合し、あらゆる健康レベル、看護ニーズに応じた看護実践力の育成 ③異なる学科、学年との協働的学習による関連多職種と協働する能力の育成 以上の３つをあげ、幅広い教養、深い専門的素養、科学的な看護学の知識、看護実践能力、ケアの心を兼ね備えた看護師を養成することを目的とする。
看護学部 臨床検査学科	臨床検査学科として探究し教育する学問分野は、形態検査（血液検査、病理検査など）、生物化学分析検査（生化学検査、遺伝子検査、尿・体液検査など）、病因・生体防御検査（免疫検査、微生検査、輸血・移植検査など）等の検体検査、そして患者さんから直接的に生体情報を収集する超音波検査、心電図検査、脳波検査、ＭＲ検査等の生体機能検査がある。また、臨床検査を実践するために必要な情報処理、精度保証、検査情報システム、医用工学等のいわゆる検査総合管理学、そして検査データの判読方法（病態解析）、臨床研究の方法、感染対策・栄養管理等への臨床検査の応用についても学ぶ。卒業後に、医療施設、検査センター、試薬・機器の製造開発メーカー、研究所等でも活躍ができるような基本的知識と技能を身につけた人材を養成することを目的とする。

別表第２（第１８条関係）

（１）総合教育科目

天理スピリット科目群

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理教概説１	2	
天理教概説２	2	
天理教学１		2
天理教学２		2
建学の精神と天理大学のあゆみ	2	
英語１	1	
英語２	1	
韓国・朝鮮語１		1
韓国・朝鮮語２		1
中国語１		1
中国語２		1
教養アカデミック英語１		1
教養アカデミック英語２		1
実践アカデミック英語１		1
実践アカデミック英語２		1
アカデミック英語上級		1
多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）		2
多文化理解と言語（中国語）		2
多文化理解と言語（英語）		2
多文化理解と言語（タイ語）		2
多文化理解と言語（インドネシア語）		2
多文化理解と言語（ドイツ語）		2
多文化理解と言語（フランス語）		2
多文化理解と言語（ロシア語）		2
多文化理解と言語（スペイン語）		2
多文化理解と言語（ポルトガル語）		2
多文化理解と言語（日本語）		2
日本事情１		2
日本事情２		2
健康スポーツ科学１		2
健康スポーツ科学２		2
国際社会におけるスポーツの役割		2
保健医療の仕組みと健康づくり		2
ローカリーアクト天理ＳＤＧｓ　森に生きる入門編		1
ローカリーアクト天理ＳＤＧｓ　森に生きる実践編		1
国際協力入門		2
国際協力実習		2
国際協力演習１		2
国際協力演習２		2
国際ボランティア論		2
天理大学特別講義１		2
天理大学特別講義２		2
天理大学特別講義３		2
天理大学特別講義４		2
天理異文化伝道		2

キャリア教育科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
キャリアプランニング		2
キャリアデザイン１		2
キャリアデザイン２		2
インターンシップ１		1
インターンシップ２		2
海外インターンシップ１		1
海外インターンシップ２		2

基礎リテラシー科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
基礎ゼミナール１	2	
基礎ゼミナール２		2
データサイエンス・ＡＩ入門		2
データサイエンス・ＡＩ応用		2
データリテラシー		2
コンピュター入門		2
情報処理		2
基礎からわかるレポート作成		2
基礎からわかる近代史		2
基礎からわかる現代社会		2
基礎からわかる数学		2
基礎からわかる生物・化学		2

一般教養教育科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
生活の中の科学		2
地球環境論		2
科学と現代		2
数学と論理		2
統計学１		2
統計学２		2
経営学１		2
経営学２		2
地理学１		2
地理学２		2
日本国憲法		2
法学		2
経済学１		2
経済学２		2
政治学		2
社会学		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
民法１		2
民法２		2
行政法１		2
行政法２		2
哲学概論１		2
哲学概論２		2
倫理学１		2
倫理学２		2
心理学１		2
心理学２		2
ジェンダー・セクシャリティ		2
近現代の遺産と未来		2
宗教と芸能		2
労働と社会		2
障害学		2
世界の文学１		2
世界の文学２		2
カルチュラルスタディーズ		2
宗教と現代社会		2
人権と差別１		2
人権と差別２		2
日本手話Ａ		2
日本手話Ｂ		2
アウトドアスポーツ		1
レクリエーショナルスポーツ		1
ニュースポーツ		1

（２）専門教育科目

共通科目

国際学部

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本文化概論		2
国際文化論		2
日本と国際社会		2
グローバル文化論		2
アジア地域文化論		2
オセアニア地域文化論		2
ヨーロッパ地域文化論		2
スラヴ・ユーラシア地域文化論		2
アフリカ地域文化論		2
アメリカス地域文化論		2
世界の歴史と社会		2
アジアの歴史と社会		2
オセアニアの歴史と社会		2
ヨーロッパの歴史と社会		2
スラヴ・ユーラシアの歴史と社会		2
アフリカの歴史と社会		2
アメリカスの歴史と社会		2
世界の英語		2
異文化コミュニケーション１		2
異文化コミュニケーション２		2
英語音声学１		2
英語音声学２		2
英語学概論		2
社会言語学１		2
社会言語学２		2
言語学概論１		2
言語学概論２		2
College English Grammar Ａ		1
College English Grammar Ｂ		1
Business Communication		1
TOEFL Academic English		1
Japanese Culture and Society		2
Japanese History		2
Japanese Religions		2
観光地理学		2
観光デザイン論		2
観光業界論		2
世界遺産論		2
ホスピタリティー観光研究１		2
ホスピタリティー観光研究２		2
国内旅行実務		2
海外旅行実務		2
国際スポーツ協力論		1
国際スポーツ交流実習		1

医療学部

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
臨床心理学	2	
コミュニケーション演習	1	
現代家族論		2
教育学概論１		2
医療英語Ａ		1
医療英語Ｂ		1
体のしくみⅠ	2	
体のしくみⅡ	2	
分子医学の基礎	2	
生化学		2
微生物学		1
疾病の成り立ちと治療Ⅰ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅱ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅲ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅳ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅴ	2	
病理学		1
薬理学・臨床薬理学	2	
栄養学・臨床栄養学	2	
保健医療概論	2	
公衆衛生学	2	
保健医療福祉行政論	2	
現代社会と福祉１	2	
医療安全管理学	2	
情報科学演習	1	

専攻科目
人文学部
宗教学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理教学概論１	2	
天理教学概論２	2	
天理教教祖伝概説１	2	
天理教教祖伝概説２	2	
宗教史概説１	2	
宗教史概説２	2	
宗教研究基礎演習	2	
宗教学概論１	2	
宗教学概論２	2	
現代宗教を読み解くゼミ１	2	
現代宗教を読み解くゼミ２	2	
伝道実習１		1
伝道実習２		1
伝道実習３		1
伝道実習４		1
天理教原典学１概説		2
天理教原典学２概説		2
天理教原典学３概説		2
天理教学特殊講義１		2
天理教学特殊講義２		2
天理教学特殊講義３		2
天理教史特殊講義１		2
天理教史特殊講義２		2
宗教学特殊講義１		2
宗教学特殊講義２		2
宗教学特殊講義３		2
宗教学特殊講義４		2
宗教史特殊講義１		2
宗教史特殊講義２		2
宗教史特殊講義３		2
宗教史特殊講義４		2
宗教史特殊講義５		2
宗教史特殊講義６		2
宗教科指導法１		2
宗教科指導法２		2
宗教科指導法３		2
宗教科指導法４		2
宗教研究演習１	2	
宗教研究演習２	2	
宗教課題演習１	2	
宗教課題演習２	2	
卒業論文	6	

国文学国語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
国文学基礎演習	2	
国文学概論１	2	
国文学概論２	2	
上代文学講読１		2
上代文学講読２		2
中古文学講読１		2
中古文学講読２		2
中世文学講読１		2
中世文学講読２		2
近世文学講読１		2
近世文学講読２		2
近代文学講読１		2
近代文学講読２		2
上代文学特論１		2
上代文学特論２		2
中古文学特論１		2
中古文学特論２		2
中世文学特論１		2
中世文学特論２		2
近世文学特論１		2
近世文学特論２		2
近代文学特論１		2
近代文学特論２		2
古典文学史１		2
古典文学史２		2
近代文学史１		2
近代文学史２		2
国文学演習（上代）１		2
国文学演習（上代）２		2
国文学演習（中古）１		2
国文学演習（中古）２		2
国文学演習（近世）１		2
国文学演習（近世）２		2
国文学演習（近代）１		2
国文学演習（近代）２		2
国語学基礎演習	2	
国語学概論１	2	
国語学概論２	2	
国語学特論（言語構造）１		2
国語学特論（言語構造）２		2
国語学特論（言語運用）１		2
国語学特論（言語運用）２		2
国語学特論（言語実態）１		2
国語学特論（言語実態）２		2
国語史１		2
国語史２		2
国語学演習（言語構造）１		2
国語学演習（言語構造）２		2
国語学演習（言語運用）１		2
国語学演習（言語運用）２		2
国語学演習（言語実態）１		2
国語学演習（言語実態）２		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
漢文学基礎演習	2	
漢文学特論１		2
漢文学特論２		2
実用国語表現		2
音声言語		2
天理図書館資料論（上代・中古）		2
天理図書館資料論（中世・近世）		2
大和の地域文化論（文学）		2
大和の地域文化論（言語）		2
文章表現１		2
文章表現２		2
書道（書写を中心とする）		1
国語科指導法１		2
国語科指導法２		2
国語科指導法３		2
国語科指導法４		2
卒業論文演習	4	
卒業論文	6	

歴史文化学科

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
歴史学概論	2	
考古学概論	2	
民俗学概論	2	
歴史文化基礎演習	2	
日本史要説		2
東洋史要説		2
西洋史要説		2
日本考古学要説		2
日本民俗学要説		2
くずし字入門		2
人文地理学概論		2
自然地理学概論		2
地誌		2
美術史		2
文化財行政学	2	
文化財科学・保存科学		2
大和の文化遺産を学ぶ１		2
大和の文化遺産を学ぶ２		2
大和の文化遺産を学ぶ３		2
博物館学概論		2
博物館経営総論		2
博物館教育論		2
博物館情報・メディア論		2
博物館展示論		2
博物館資料論		2
博物館資料保存論		2
社会科指導法１		2
社会科指導法２		2
社会・地理歴史科指導法１		2
社会・地理歴史科指導法２		2
英語文献講読１		2
英語文献講読２		2
卒業論文	6	

歴史学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
歴史学研究入門１		2
歴史学研究入門２		2
文化交流史の研究１		2
文化交流史の研究２		2
日本古代史の研究		2
日本中世史の研究		2
日本近世史の研究		2
日本近代史の研究		2
東アジア史の研究		2
古文書学		2
日本古代史料の講読１		2
日本古代史料の講読２		2
日本中世史料の講読１		2
日本中世史料の講読２		2
日本近世史料の講読１		2
日本近世史料の講読２		2
日本近代史料の講読１		2
日本近代史料の講読２		2
歴史学史料実習１		1
歴史学史料実習２		1
歴史学史料実習３		1
歴史学史料実習４		1
日本古代中世史演習１		2
日本古代中世史演習２		2
日本古代中世史演習３		2
日本古代中世史演習４		2
日本近世史演習１		2
日本近世史演習２		2
日本近世史演習３		2
日本近世史演習４		2
日本近代史演習１		2
日本近代史演習２		2
日本近代史演習３		2
日本近代史演習４		2

考古学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
考古学研究入門１		2
考古学研究入門２		2
旧石器・縄文時代の考古学		2
弥生時代の考古学		2
古墳時代の考古学		2
飛鳥・奈良時代の考古学		2
中近世の考古学		2
東アジア考古学		2
西アジア考古学		2
遺跡探査学		2
遺跡の保存と活用		2
考古資料の情報化		2
考古学実習１		1
考古学実習２		1
考古学実習３		1
考古学実習４		1
先史考古学演習１		2
先史考古学演習２		2
先史考古学演習３		2
先史考古学演習４		2
原史考古学演習１		2
原史考古学演習２		2
原史考古学演習３		2
原史考古学演習４		2
歴史考古学演習１		2
歴史考古学演習２		2
歴史考古学演習３		2
歴史考古学演習４		2

民俗学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
民俗学研究入門１		2
民俗学研究入門２		2
民俗学と現代社会		2
生活文化史		2
フィールドワークからみる民俗文化		2
民話と伝承		2
宗教民俗学		2
民俗資料論		2
民俗学実習１		1
民俗学実習２		1
民俗学実習３		1
民俗学実習４		1
歴史民俗学演習１		2
歴史民俗学演習２		2
歴史民俗学演習３		2
歴史民俗学演習４		2
現代民俗学演習１		2
現代民俗学演習２		2
現代民俗学演習３		2
現代民俗学演習４		2

心理学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
心理学概論	2	
臨床心理学概論	2	
公認心理師の職責		2
心理学研究法		4
心理学統計法		2
多変量解析法		2
心理学実験法		4
知覚・認知心理学		2
学習・言語心理学		2
感情・人格心理学		2
神経・生理心理学		2
社会・集団・家族心理学		2
発達心理学		2
障害者・障害児心理学		2
心理的アセスメント１		4
心理的アセスメント２		4
心理学的支援法		2
健康・医療心理学		2
福祉心理学		2
教育・学校心理学		2
司法・犯罪心理学		2
産業・組織心理学		2
人体の構造と機能及び疾病		2
精神疾患とその治療１		2
精神疾患とその治療２		2
関係行政論		2
精神分析学		2
ユング心理学		2
投影法演習		4
対人スキル演習		4
臨床心理学課題演習		2
対人社会課題演習		2
心理演習		2
心理実習		2
心理学入門演習	2	
心理学研究演習１	2	
心理学研究演習２	2	
卒業課題研究	4	

社会教育学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
生涯学習概論１	2	
生涯学習概論２	2	
教育学概論１		2
社会教育基礎演習１	2	
社会教育基礎演習２	2	
生涯学習支援演習１	2	
生涯学習支援演習２	2	
生涯学習支援論１	2	
生涯学習支援論２	2	
社会教育経営論１		2
社会教育経営論２		2
社会教育経営論３		2
社会教育経営論４		2
文化スポーツ支援論１		2
文化スポーツ支援論２		2
社会教育特講１		2
社会教育特講２		2
社会教育特講３		2
社会教育特講４		2
生涯学習特論１		2
生涯学習特論２		2
生涯学習特論３		2
生涯学習特論４		2
生涯学習特論５		2
生涯学習特論６		2
生涯学習特論７		2
生涯学習特論８		2
図書館情報学概論		2
図書館サービス概論		2
図書館マネージメント論		2
図書館情報学基礎特論		2
図書館とメディアの歴史		2
文化政策学概論		2
地域産業論		2
地域金融論		2
広報・PR論		2
臨地文化施設実習	1	
野外教育実習		1
プロジェクト実習１		1
プロジェクト実習２		1
プロジェクト実習３		1
プロジェクト実習４		1
プロジェクト実習５		1
プロジェクト実習６		1
地域協働実習		1
社会教育実習１		2
社会教育実習２		2
社会教育演習１（コーディネーター支援）		2
社会教育演習２（コーディネーター支援）		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
社会教育演習１（文化行政）		2
社会教育演習２（地域文化共創）		2
社会教育演習１（文化スポーツ支援）		2
社会教育演習２（文化スポーツ支援）		2
社会教育課題研究１	2	
社会教育課題研究２	2	
卒業課題研究		4
卒業論文		6

社会福祉学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
社会福祉学演習１	2	
社会福祉学演習２	2	
社会福祉学演習３	2	
社会福祉学演習４	2	
社会福祉概論１	2	
社会福祉概論２	2	
人体の構造と機能及び疾病		2
社会学と社会システム		2
社会保障論１		2
社会保障論２		2
社会福祉調査法		2
ソーシャルワーク論１	2	
ソーシャルワーク論２		2
ソーシャルワーク論３		2
ソーシャルワーク論４		2
ソーシャルワーク論５		2
ソーシャルワーク論６		2
地域福祉と包括的支援体制１		2
地域福祉と包括的支援体制２		2
福祉経営論		2
障害者福祉論		2
児童福祉論		2
高齢者福祉論		2
公的扶助論		2
医療福祉論		2
権利擁護を支える法制度		2
刑事司法と福祉		2
ソーシャルワーク演習１		2
ソーシャルワーク演習２		2
ソーシャルワーク演習３		2
ソーシャルワーク演習４		2
ソーシャルワーク演習５		2
ソーシャルワーク実習指導１		2
ソーシャルワーク実習指導２		2
ソーシャルワーク実習指導３		2
ソーシャルワーク実習１		2
ソーシャルワーク実習２		4
地域連携実習		2
天理教社会福祉論	2	
精神医学と精神医療１		2
精神医学と精神医療２		2
現代の精神保健の課題と支援１		2
現代の精神保健の課題と支援２		2
精神保健福祉の原理１		2
精神保健福祉の原理２		2
現代家族論		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門）１		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門）２		2
精神障害リハビリテーション論		2
精神保健福祉制度論		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
精神保健福祉援助演習１		2
精神保健福祉援助演習２		2
精神保健福祉援助演習３		2
精神保健福祉援助実習Ａ		5
精神保健福祉援助実習Ｂ		3
精神保健福祉援助実習指導１		2
精神保健福祉援助実習指導２		2
精神保健福祉援助実習指導３		2
卒業論文	6	

国際学部
韓国・朝鮮語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
韓国・朝鮮語Ａ（文法）	3	
韓国・朝鮮語Ａ（会話）	2	
韓国・朝鮮語Ａ（発音）	1	
韓国・朝鮮語Ｂ（文法）	3	
韓国・朝鮮語Ｂ（会話）	2	
韓国・朝鮮語Ｂ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（文法）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（文法）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（表現）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（表現）	1	
韓国・朝鮮語Ｇ（総合）	1	
韓国・朝鮮語Ｈ（総合）	1	
実践韓国・朝鮮語Ａ		1
実践韓国・朝鮮語Ｂ		1
映像で学ぶ韓国・朝鮮語		1
韓国・朝鮮語古典講読		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語Ａ		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語Ｂ		1
応用韓国・朝鮮語Ａ		1
応用韓国・朝鮮語Ｂ		1
伝道韓国・朝鮮語１		1
伝道韓国・朝鮮語２		1
韓国・朝鮮語学概論１		2
韓国・朝鮮語学概論２		2
韓国・朝鮮文学概論１		2
韓国・朝鮮文学概論２		2
韓国・朝鮮史１		2
韓国・朝鮮史２		2
韓国・朝鮮社会文化論１		2
韓国・朝鮮社会文化論２		2
韓国・朝鮮文化交流史１		2
韓国・朝鮮文化交流史２		2
韓国・朝鮮事情１		2
韓国・朝鮮事情２		2
韓国・朝鮮語科指導法１		2
韓国・朝鮮語科指導法２		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
韓国・朝鮮入門	2	
韓国・朝鮮語演習１	2	
韓国・朝鮮語演習２	2	
韓国・朝鮮語演習３	2	
韓国・朝鮮語演習４	2	
韓国・朝鮮語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

中国語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
中国語Ａ（文法）	2	
中国語Ａ（発音）	2	
中国語Ａ（リスニング）	2	
中国語Ｂ（文法）	2	
中国語Ｂ（発音）	2	
中国語Ｂ（リスニング）	2	
中国語Ｃ（文法）	2	
中国語Ｃ（会話１）	1	
中国語Ｃ（会話２）	1	
中国語Ｄ（読解）	2	
中国語Ｄ（会話１）	1	
中国語Ｄ（会話２）	1	
中国語Ｅ（通訳１）	1	
中国語Ｅ（通訳２）	1	
中国語Ｅ（読解）	2	
中国語Ｆ（通訳１）	1	
中国語Ｆ（通訳２）	1	
中国語Ｆ（読解）	2	
中国語Ｇ（総合）	1	
中国語Ｈ（総合）	1	
伝道中国語１		1
伝道中国語２		1
広東語Ａ		1
広東語Ｂ		1
台湾語Ａ		1
台湾語Ｂ		1
ボランティア中国語Ａ		1
ボランティア中国語Ｂ		1
スピーチ中国語Ａ		1
スピーチ中国語Ｂ		1
ビジネス中国語		1
中国語学概論１		2
中国語学概論２		2
中国文学概論１		2
中国文学概論２		2
中国史１		2
中国史２		2
中国文化史１		2
中国文化史２		2
台湾社会文化論１		2
台湾社会文化論２		2
近代中国と国際政治１		2
近代中国と国際政治２		2
中国語科指導法１		2
中国語科指導法２		2
中国語圏研究入門	2	
中国語演習１	2	
中国語演習２	2	
中国語演習３	2	

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
中国語演習４	2	
中国語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

英米語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
英語Ａ（Reading）	1	
英語Ａ（Writing）	1	
英語Ａ（Grammar）	1	
英語Ａ（Oral Communication１）	1	
英語Ａ（Oral Communication２）	1	
英語Ａ（Integrated English）	1	
英語Ｂ（Reading）	1	
英語Ｂ（Writing）	1	
英語Ｂ（Grammar）	1	
英語Ｂ（Oral Communication１）	1	
英語Ｂ（Oral Communication２）	1	
英語Ｂ（Integrated English）	1	
英語Ｃ（Reading）	1	
英語Ｃ（Writing）	1	
英語Ｃ（Oral Communication１）	1	
英語Ｃ（Oral Communication２）	1	
英語Ｃ（Presentation）	1	
英語Ｃ（Integrated English）	1	
英語Ｄ（Reading）	1	
英語Ｄ（Writing）	1	
英語Ｄ（Oral Communication１）	1	
英語Ｄ（Oral Communication２）	1	
英語Ｄ（Presentation）	1	
英語Ｄ（Integrated English）	1	
英語Ｅ（Writing）	1	
英語Ｅ（Presentation）	1	
英語Ｅ（Integrated English）	1	
英語Ｆ（Writing）	1	
英語Ｆ（Presentation）	1	
英語Ｆ（Integrated English）	1	
観光英語		1
ビジネス英語		1
英米文学概論		2
伝道英語１		1
伝道英語２		1
英米語概論１		2
英米語概論２		2
英米語概論３		2
英米語概論４		2
英米語概論５		2
Content Based English１		2
Content Based English２		2
Content Based English３		2
Content Based English４		2
Content Based English５		2
英語科指導法１		2
英語科指導法２		2
英語科指導法３		2
英語科指導法４		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
ガイド英語		1
時事英語		1
通訳		1
翻訳		1
英米語演習１	2	
英米語演習２	2	
英米語演習３	2	
英米語演習４	2	
英米語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

外国語学科

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
外国語演習１	2	
外国語演習２	2	
外国語演習３	2	
外国語演習４	2	
海外語学実習		4
卒業課題研究		2
卒業論文		4

タイ語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
タイ語Ａ（表記）		2
タイ語Ａ（会話）		2
タイ語Ａ（リスニング）		1
タイ語Ａ（文法・表現）		1
タイ語Ｂ（表記）		2
タイ語Ｂ（会話）		2
タイ語Ｂ（リスニング）		1
タイ語Ｂ（文法・表現）		1
タイ語Ｃ（講読１）		1
タイ語Ｃ（講読２）		1
タイ語Ｃ（会話）		1
タイ語Ｃ（作文）		1
タイ語Ｄ（講読１）		1
タイ語Ｄ（講読２）		1
タイ語Ｄ（会話）		1
タイ語Ｄ（作文）		1
タイ語Ｅ（講読１）		1
タイ語Ｅ（講読２）		1
タイ語Ｅ（会話）		1
タイ語Ｅ（作文）		1
タイ語Ｆ（講読１）		1
タイ語Ｆ（講読２）		1
タイ語Ｆ（会話）		1
タイ語Ｆ（作文）		1
タイ語Ｇ（翻訳）		1
タイ語Ｈ（通訳）		1
伝道タイ語１		1
伝道タイ語２		1
タイ語で学ぶ日本文化		1
観光タイ語		1
映像で学ぶタイ語		1
時事タイ語		1
タイ研究入門		2
タイ史		2
タイ社会文化論		2
タイ言語文化論		2
タイと日本		2

インドネシア語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
インドネシア語Ａ（文法）		2
インドネシア語Ａ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ａ（語彙・表現）		2
インドネシア語Ｂ（文法）		2
インドネシア語Ｂ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｂ（語彙・表現）		2
インドネシア語Ｃ（文法・読解）		2
インドネシア語Ｃ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｄ（文法・読解）		2
インドネシア語Ｄ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｅ（総合）		2
インドネシア語Ｅ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｆ（総合）		2
インドネシア語Ｆ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｇ（総合）		1
インドネシア語Ｈ（コミュニケーション）		1
伝道インドネシア語１		1
伝道インドネシア語２		1
インドネシア語で学ぶ日本文化		1
通訳インドネシア語		1
観光インドネシア語		1
時事インドネシア語		1
インドネシア研究入門		2
インドネシア史		2
インドネシア社会文化論		2
インドネシア言語文化論		2
インドネシアと日本		2

ドイツ語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ドイツ語Ａ（文法・読解）		2
ドイツ語Ａ（コミュニケーション）		2
ドイツ語Ａ（語彙・発音）		1
ドイツ語Ａ（リスニング）		1
ドイツ語Ｂ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｂ（コミュニケーション）		2
ドイツ語Ｂ（語彙・発音）		1
ドイツ語Ｂ（リスニング）		1
ドイツ語Ｃ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｃ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｃ（作文）		1
ドイツ語Ｄ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｄ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｄ（作文）		1
ドイツ語Ｅ（文法・読解）		1
ドイツ語Ｅ（総合）		1
ドイツ語Ｅ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｅ（作文）		1
ドイツ語Ｆ（文法・読解）		1
ドイツ語Ｆ（総合）		1
ドイツ語Ｆ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｆ（作文）		1
ドイツ語Ｇ（総合）		1
ドイツ語Ｈ（総合）		1
伝道ドイツ語１		1
伝道ドイツ語２		1
ドイツ語で学ぶ日本文化		1
観光ドイツ語		1
映像で学ぶドイツ語		1
時事ドイツ語		1
ドイツ語圏研究入門		2
ドイツ語圏史		2
ドイツ社会文化論		2
ドイツ言語文化論		2
ドイツと日本		2

フランス語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
フランス語Ａ（文法・読解）		2
フランス語Ａ（コミュニケーション）		2
フランス語Ａ（語彙・発音）		1
フランス語Ａ（リスニング）		1
フランス語Ｂ（文法・読解）		2
フランス語Ｂ（コミュニケーション）		2
フランス語Ｂ（語彙・発音）		1
フランス語Ｂ（リスニング）		1
フランス語Ｃ（文法・読解）		2
フランス語Ｃ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｃ（作文）		1
フランス語Ｄ（文法・読解）		2
フランス語Ｄ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｄ（作文）		1
フランス語Ｅ（総合）		1
フランス語Ｅ（読解）		1
フランス語Ｅ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｅ（作文）		1
フランス語Ｆ（総合）		1
フランス語Ｆ（読解）		1
フランス語Ｆ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｆ（作文）		1
フランス語Ｇ（総合）		1
フランス語Ｈ（総合）		1
伝道フランス語１		1
伝道フランス語２		1
フランス語で学ぶ日本文化		1
観光フランス語		1
通訳フランス語		1
翻訳フランス語		1
フランス語圏研究入門		2
フランス語圏史		2
フランス社会文化論		2
フランス言語文化論		2
フランスと日本		2

ロシア語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ロシア語Ａ（文法）		2
ロシア語Ａ（会話）		2
ロシア語Ａ（リスニング）		1
ロシア語Ａ（語彙・発音）		1
ロシア語Ｂ（文法）		2
ロシア語Ｂ（会話）		2
ロシア語Ｂ（リスニング）		1
ロシア語Ｂ（語彙・発音）		1
ロシア語Ｃ（文法）		1
ロシア語Ｃ（講読）		1
ロシア語Ｃ（会話１）		1
ロシア語Ｃ（会話２）		1
ロシア語Ｄ（文法）		1
ロシア語Ｄ（講読）		1
ロシア語Ｄ（会話１）		1
ロシア語Ｄ（会話２）		1
ロシア語Ｅ（講読）		1
ロシア語Ｅ（翻訳）		1
ロシア語Ｅ（会話）		1
ロシア語Ｅ（作文）		1
ロシア語Ｆ（講読）		1
ロシア語Ｆ（翻訳）		1
ロシア語Ｆ（会話）		1
ロシア語Ｆ（作文）		1
ロシア語Ｇ（総合）		1
ロシア語Ｈ（総合）		1
伝道ロシア語１		1
伝道ロシア語２		1
ロシア語で学ぶ日本文化		1
観光ロシア語		1
映像で学ぶロシア語		1
時事ロシア語		1
ロシア研究入門		2
ロシア史		2
ロシア社会文化論		2
ロシア言語文化論		2
ロシアと日本		2

スペイン語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
スペイン語Ａ（文法）		2
スペイン語Ａ（コミュニケーション・表現）		3
スペイン語Ａ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｂ（文法）		2
スペイン語Ｂ（コミュニケーション・表現）		3
スペイン語Ｂ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｃ（文法）		1
スペイン語Ｃ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｃ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｄ（文法）		1
スペイン語Ｄ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｄ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｅ（文法・理解）		2
スペイン語Ｅ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｆ（文法・理解）		2
スペイン語Ｆ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｇ（総合）		1
スペイン語Ｈ（総合）		1
伝道スペイン語１		1
伝道スペイン語２		1
スペイン語で学ぶ日本文化		1
観光スペイン語		1
時事スペイン語		1
映像で学ぶスペイン語		1
翻訳スペイン語		1
通訳スペイン語		1
スペイン語圏研究入門		2
スペイン語圏史１		2
スペイン語圏史２		2
スペイン語学１		2
スペイン語学２		2
スペイン語圏と日本		2
スペイン語圏文学１		2
スペイン語圏社会文化論１		2
スペイン語圏文学２		2
スペイン語圏社会文化論２		2
スペイン語科指導法１		2
スペイン語科指導法２		2

ブラジルポルトガル語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ブラジルポルトガル語Ａ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ａ（コミュニケーション）		2
ブラジルポルトガル語Ａ（語彙・発音）		1
ブラジルポルトガル語Ａ（リスニング）		1
ブラジルポルトガル語Ｂ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｂ（コミュニケーション）		2
ブラジルポルトガル語Ｂ（語彙・発音）		1
ブラジルポルトガル語Ｂ（リスニング）		1
ブラジルポルトガル語Ｃ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｃ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｃ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｄ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｄ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｄ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（総合１）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（総合２）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（総合１）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（総合２）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｇ（総合）		1
ブラジルポルトガル語Ｈ（総合）		1
伝道ブラジルポルトガル語１		1
伝道ブラジルポルトガル語２		1
ブラジルポルトガル語で学ぶ日本文化		1
観光ブラジルポルトガル語		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ通訳		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ翻訳		1
ブラジル研究入門		2
ブラジル史		2
ブラジル社会文化論		2
ブラジル言語文化論		2
ブラジルと日本		2

国際文化学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
やさしい日本語	2	
異文化理解入門ゼミナール１		2
異文化理解入門ゼミナール２		2
多文化共生入門ゼミナール１		2
多文化共生入門ゼミナール２		2
国際事情入門ゼミナール１		2
国際事情入門ゼミナール２		2
歴史文化入門ゼミナール１		2
歴史文化入門ゼミナール２		2
異文化理解ゼミナール１		2
異文化理解ゼミナール２		2
多文化共生ゼミナール１		2
多文化共生ゼミナール２		2
国際事情ゼミナール１		2
国際事情ゼミナール２		2
歴史文化ゼミナール１		2
歴史文化ゼミナール２		2
社会調査法入門		2
社会調査法１		2
社会調査法２		2
社会調査法実践Ａ		2
社会調査法実践Ｂ		2
質的調査研究		2
宗教学		2
社会学概論		2
多文化共生学		2
国際法		2
国際政治学		2
国際関係論		2
国際経済史		2
経済学概論		2
環境政治論		2
地域統合論		2
比較宗教学		2
文化人類学概論		2
ボランティアネットワーク論		2
異文化理解論		2
多文化共生論		2
国際事情論		2
歴史文化論		2
国際文化演習１	2	
国際文化演習２	2	
国際文化演習３	2	
国際文化演習４	2	
社会・公民科指導法１		2
社会・公民科指導法２		2
多文化体験活動１		1
多文化体験活動２		1
卒業論文	4	

日本学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本研究入門	2	
ナラロジー研究入門	2	
文化人類学入門	2	
日本文化入門	2	
言語学入門	2	
フィールドワークの方法	2	
世界史のなかの日本	2	
日本表現文化概論		2
交通地理学概論		2
日本多文化共生概論		2
日本精神文化概論		2
ナラロジー概論		2
日本生活文化概論		2
社会言語学概論		2
日本表現文化特論		2
経営人類学特論		2
日本情報文化特論		2
日本環境文化特論		2
観光地理学特論		2
ナラロジー特論		2
日本生活文化特論		2
入門日本語Ａ（会話）		1
入門日本語Ａ（講読）		1
入門日本語Ａ（文法Ａ）		1
入門日本語Ａ（文法Ｂ）		1
入門日本語Ａ（作文）		1
入門日本語Ａ（表記）		1
入門日本語Ａ（総合）		1
入門日本語Ｂ（会話）		1
入門日本語Ｂ（講読）		1
入門日本語Ｂ（文法Ａ）		1
入門日本語Ｂ（文法Ｂ）		1
入門日本語Ｂ（作文）		1
入門日本語Ｂ（表記）		1
入門日本語Ｂ（総合）		1
基礎日本語Ａ（会話）	1	
基礎日本語Ａ（講読）	1	
基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1	
基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1	
基礎日本語Ａ（作文）	1	
基礎日本語Ａ（表記）	1	
基礎日本語Ａ（総合）	1	
基礎日本語Ｂ（会話）	1	
基礎日本語Ｂ（講読）	1	
基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1	
基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1	
基礎日本語Ｂ（作文）	1	
基礎日本語Ｂ（表記）	1	
基礎日本語Ｂ（総合）	1	

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
ビジネス日本語１		2
ビジネス日本語２		2
日本語実践研究１		2
日本語実践研究２		2
日本研究演習１	2	
日本研究演習２	2	
日本研究演習３	2	
日本研究演習４	2	
日本文化体験実習１		2
日本文化体験実習２		2
卒業課題研究		2
卒業論文		4

体育学部
体育学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理スポーツ学	2	
スポーツ学概論	2	
健康学概論	2	
武道学概論	2	
体育・スポーツ原論（体育原理、学校体育史を含む）	2	
スポーツデータサイエンス	2	
スポーツ運動学（運動方法学を含む）		2
解剖学		2
体力学（体力診断の理論と体力測定法を含む）		2
生理学（運動生理学を含む）		2
スポーツ心理学		2
スポーツ経営学		2
保健体育科指導法１		2
保健体育科指導法２		2
アダプテッド・スポーツ論		2
スポーツプログラミング（運動処方論及びメディカルチェックの基礎を含む）		2
学校保健（学校安全を含む）		2
救急看護法		2
健康・スポーツ統計学		2
パフォーマンス分析		2
体育学演習１	2	
体育学演習２	2	
健康運動処方論（実習を含む）		2
体育学特別演習		2
卒業研究	4	
スポーツトレーニング論		2
スポーツバイオメカニクス		2
スポーツコーチ論		2
スポーツカウンセリング		2
スポーツ栄養学		2
スポーツコンディショニング論		2
スポーツマッサージ（テーピングを含む）		2
スポーツ教育学		2
野外教育論		2
保健科教育法		2
学校体育特論		2
保健体育科指導法３		2
保健体育科指導法４		2
スポーツ方法（アダプテッド・スポーツ）		1
スポーツ文化論		2
生涯スポーツ論（スポーツ政策を含む）		2
身体コミュニケーション		2
スポーツマネジメント		2
スポーツ社会学		2
スポーツ人類学		2
スポーツメディア論		2
心身健康論		2
スポーツ医学		2

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
健康栄養学		2
健康運動論		2
健康管理学（小児保健を含む）		2
衛生学（公衆衛生学を含む）		2
発育発達・老化論		2
精神保健		2
柔道論		2
剣道論		2
柔道史		2
剣道史		2
武道思想史		2
武道国際事情		2
柔道特別実習１（柔の形１）		1
柔道特別実習２（柔の形２）		1
柔道特別実習３（投の形１）		1
柔道特別実習４（投の形２）		1
柔道特別実習５（古式の形１）		1
柔道特別実習６（古式の形２）		1
柔道特別実習７（極の形１）		1
柔道特別実習８（極の形２）		1
剣道特別実習１（剣道の基本動作）		1
剣道特別実習２（技と技術の構造）		1
剣道特別実習３（古流剣術の形１）		1
剣道特別実習４（古流剣術の形２）		1
剣道特別実習５（日本剣道形）		1
剣道特別実習６（剣道五行之形）		1
剣道特別実習７（審判法）		1
剣道特別実習８（指導法）		1
スポーツ方法（体つくり運動・集団行動）		1
スポーツ方法（器械運動）		1
スポーツ方法（陸上競技）		1
スポーツ方法（水泳）		1
スポーツ方法（柔道）		1
スポーツ方法（剣道）		1
スポーツ方法（ダンス）		1
スポーツ方法（バスケットボール）		1
スポーツ方法（ハンドボール）		1
スポーツ方法（サッカー）		1
スポーツ方法（ラグビー）		1
スポーツ方法（バレーボール）		1
スポーツ方法（テニス）		1
スポーツ方法（バドミントン）		1
スポーツ方法（卓球）		1
スポーツ方法（ソフトボール）		1
スポーツ方法（ホッケー）		1
スポーツ外国語会話		1
健康・体力づくり運動（トレーニング）		1
健康・体力づくり運動（エアロビック・エクササイズ）		1
健康・体力づくり運動（レクリエーショナルスポーツ）		1
競技力向上・支援活動		1

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
スポーツボランティア（実習を含む）		1
スポーツ特別活動１		1
スポーツ特別活動２		1
スポーツ特別活動３		1
スポーツ特別活動４		1

医療学部
看護学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
看護学概論	2	
看護早期実習	1	
看護過程論	1	
看護方法論Ⅰ	2	
看護援助論	2	
看護方法論Ⅱ	2	
ヘルスアセスメント	2	
看護基礎実習	2	
地域の暮らしと看護	1	
地域・在宅看護学	2	
地域看護方法論	1	
在宅看護方法論	1	
在宅看護学実習	2	
地域共生マネジメント方法論	1	
地域共生マネジメント実習	1	
成人看護学	2	
成人看護援助論	2	
慢性期看護方法論	1	
慢性期（在宅移行）看護学実習	3	
急性期看護方法論	1	
急性期看護学実習	2	
高齢者看護学	2	
高齢者看護方法論	2	
高齢者看護学実習Ⅰ	1	
高齢者看護学実習Ⅱ	2	
小児看護学	2	
小児看護方法論	2	
小児看護学実習	2	
母性看護学	2	
母性看護方法論	2	
母性看護学実習	2	
精神看護学	2	
精神看護方法論	2	
精神看護学実習	2	
地域健康教育方法論	1	
地域健康教育実習	1	
家族看護論		1
ストレスマネジメント論		1
看護学研究方法論	1	
看護学研究	2	
看護管理論	2	
看護統合実習	2	
臨床判断能力の探求	1	
国際看護論	1	
災害看護論	1	
緩和ケア論		1
がん看護論		1
ウィメンズヘルスケア論		1
クリティカルケア論		1

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
グリーフケア論		1
高齢者健康増進看護論		1

臨床検査学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
医用工学	2	
医用工学実習	1	
血液検査学Ⅰ	2	
血液検査学Ⅱ	1	
血液検査学実習	1	
病理検査学Ⅰ	2	
病理検査学Ⅱ	1	
病理検査学実習Ⅰ	1	
病理検査学実習Ⅱ	1	
臨床一般検査学	2	
臨床一般検査学実習	1	
医動物検査学	1	
生化学検査学	2	
生化学検査学実習	1	
免疫検査学	2	
免疫検査学実習	1	
遺伝子関連・染色体検査学	1	
遺伝子関連・染色体検査学実習	1	
輸血・移植検査学	2	
輸血・移植検査学実習	2	
微生物検査学Ⅰ	2	
微生物検査学Ⅱ	2	
微生物検査学実習	2	
基礎生理検査学	2	
循環機能検査学	2	
神経感覚機能検査学	2	
超音波検査学	2	
生理検査学実習	2	
臨床検査総合管理学Ⅰ	2	
臨床検査総合管理学Ⅱ	1	
臨床検査総合管理学Ⅲ	1	
臨床検査総合管理学Ⅳ	1	
臨床病態検査学	1	
臨地実習前総合演習	1	
病理検査学臨地実習	1	
血液検査学・輸血移植検査学臨地実習	2	
生化学・免疫検査学臨地実習	1	
微生物検査学臨地実習	1	
生理検査学臨地実習	4	
検査総合管理学臨地実習	2	
専門的臨床検査実習	1	
臨床検査基礎演習	1	
臨床検査学研究Ⅰ	1	
臨床検査学研究Ⅱ	6	
臨床検査学研究Ａ	1	
臨床検査学研究Ｂ		1
臨床検査学総合演習Ａ		1
臨床検査学総合演習Ｂ		1
臨床検査学総合演習Ｃ		1
臨床検査学総合演習Ｄ		1

資格科目

天理教学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
伝道実習１		1
伝道実習２		1
伝道実習３		1
伝道実習４		1

人文科学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本語学入門		2
日本語教育入門		2
日本語語彙論		2
日本語文法論１		2
日本語文法論２		2
日本語音声学		2
言語の対照研究		2
日本語教授法１		2
日本語教授法２		2
第二言語習得論		2
日本語指導法		2
日本語教育評価法		2
日本語教育実習		2

社会科学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
図書館情報システム論		2
情報サービス論		2
児童・ＹＡサービス論		2
情報サービス演習１		2
情報サービス演習２		2
図書館情報資源概論		2
情報資源組織論		2
情報資源組織演習１		2
情報資源組織演習２		2
図書館情報資源特論		2
図書館情報学特論		2
博物館実習１		2
博物館実習２		1
矯正概論		2
更生保護概論		2
矯正保護教育（施設参観を含む）		2
矯正保護支援実践論		2
犯罪被害者支援論		2

教職に関する専門教育科目

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
教職論		2
教育原理		2
教育史		2
教育課程論		2
学校教育心理学		2
学校教育社会学		2
道徳の理論及び指導法		2
教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）		2
教育相談の理論及び方法		2
生徒指導・進路指導の理論及び方法		2
教育実習講義		1
介護等体験		1
教職実践演習（中・高）		2
教育実習１		2
教育実習２		2
人権教育論１		2
人権教育論２		2
特別な支援の必要な生徒の理解		2
学校教育支援		1
特別活動・総合的な学習の時間の指導法		2
教育史特論		2
臨床教育学特論		2

別表第３（第５４条関係）

科目＼学部		人文学部	国際学部	体育学部	医療学部
入　学　金		100,000	100,000	100,000	100,000
授業料	春学期	380,000	380,000	400,000	545,000
	秋学期	380,000	380,000	400,000	545,000
	年　額	760,000	760,000	800,000	1,090,000
教育設備充実費	春学期分	110,000	110,000	125,000	237,500
	秋学期分	110,000	110,000	125,000	237,500
	年　額	220,000	220,000	250,000	475,000

人文学部、国際学部及び体育学部の教育設備充実費については、２年目以降は５万円増とする。

医療学部の令和５年度以降入学生の教育設備充実費については、２年目以降は10万円増とする。

医療学部令和４年度以前入学生の教育設備充実費は250,000円とする。

過年度在学生

費目	区分＼学部	令和６年度入学生
		年　　額
授業料	人文学部 国際学部 体育学部	360,000円 ＋ （20,000円×年間登録単位数）
	医療学部	----------
教育設備充実費	人文学部 国際学部	270,000円
	体育学部	300,000円
	医療学部	----------

天理大学国際学部教授会規程

第１条　本大学に、天理大学学則（以下「学則」という。）第 12 条の規定により、国際学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

第２条　教授会は、学則第 12 条第２項に規定する国際学部専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く。）をもって組織する。

第３条　教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

ア　教員の教育研究業績の審査に関する事項

イ　学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項

ウ　学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項

エ　全学協議会委員及び各種委員会委員等の選出に関する事項

オ　学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項

カ　学部の自己点検・評価に関する事項

キ　教育内容及び授業方法の改善に関する事項

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項

(2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項

(3) 学部教員の賞罰に関する事項

(4) その他、学部の教育研究に関する事項

第４条　教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

２　学部長事故あるときは、あらかじめ指定する順序により教授がこれに代わる。

第５条　教授会は、定例及び臨時の２種とする。

２　定例教授会は、毎月１回開催する。

３　臨時教授会は、学部長が必要と認めるとき、又は構成員総数の３分の１以上の要求があったときに開催する。

第６条　学長及び副学長が必要と認めるときは、教授会に出席して発言することができ

る。また教授会の招集を学部長に要請することができる。

第７条　教授会は、構成員総数の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第８条　教授会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。

２　可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第９条　教授会の出席者の身上に関する事項を議する場合には、議長は当該者の退席を求めることができる。

第10条　議長は、必要と認めるとき構成員以外の者を会議に出席させ、報告又は意見を求めることができる。

第11条　教授会は、必要と認めるとき専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会は、教授会から付託された事項について審議し、結果を報告するものとする。

第12条　教授会に、幹事及び書記を置く。

２　幹事及び書記は、学部長が指名する。

第13条　議事録は、書記が作成し、学部長が保管する。

第14条　この規程の改廃は、教授会及び全学協議会の議を経るものとする。

附　則

この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

「天理大学国際文化学部教授会規程」は、平成２２年３月３１日をもって廃止する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

覚　書

１　第３条第１項第１号の卒業に関する事項については、学長、副学長、各学部長及び学則第９条第１項に定める主任並びに学務部長でもって、卒業資格判定会議を組織し、認定するものとする。

２　第３条第１項第３号アの教員の教育研究業績の審査に関する事項については、別に定める「天理大学教員資格審査規程」に基づき審議する。

３　平成２２年４月１日以降は、国際文化学部教授会に関する審議事項については、国際学部教授会で審議することとする。

設置の趣旨等を記載した書類
（国際学部日本学科）

目 次

１．設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

２．学部・学科の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

３．学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・　4

４．教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・　4

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・　6

６．取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

７．入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

８．教員組織の編制の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・　11

９．研究の実施についての考え方、体制、取り組み・・・・・・　11

10．施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

11．管理運営及び事務組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

12．自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

13．情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

14．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・　19

15．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・　20

設置の趣旨等を記載した書類

１．設置の趣旨及び必要性

（１）日本学科を設置する理由

天理大学の留学生を対象とした日本語の教育の歴史は、大正 14（1925）年に創設された天理外国語学校にさかのぼる。当時日本の植民地も含む世界各地から来た留学生が多くあった。特に昭和 11（1936）年には別科特修科が設置され、日系二世や外国人に日本語を教授することが始まった。

戦後、昭和 24（1949）年の天理大学開学以降には、昭和 33（1958）年に選科日本語科が設置され、外国人に日本語を教授することが再開された。

そして、平成４（1992）年に外国語学部が国際文化学部に改組されると同時に日本学科が創設された。交流協定を結んだ外国の協定校から短期留学生（交換留学生）を受け入れ、学部の正課の日本語・日本文化の科目を学部生とともに交換留学生が履修することも始まった。

その後、天理大学国際学部の改組の過程のなかで、国際文化学部アジア学科日本語コース、国際学部外国語学科日本語専攻として日本語の教育を中心とするコースとなったが、平成 29（2017）年には国際学部地域文化学科日本研究コースとして、日本語とともに日本の社会と文化にも重きを置いて教育するプログラムを整備した。その結果日本研究コースでは、日本で日本企業に就職することを希望するベトナム人留学生をはじめ、各国からの入学生が多くあった。

そのため、この日本研究コースのすぐれたカリキュラムにもとづき、国際学部の改組に合わせて、留学生の需要と日本社会の需要に応える新学科を設置することとなった。

（２）日本学科で養成する人材像

日本学科では、１年次に日本語の基礎を学ぶ科目を置き、日本語の運用のための確かな知識と技術について、４年間を通じ基礎から修得することができる。一方で、日本語教員養成課程の日本語学・日本語教育学についての専門的な科目の履修も可能となっており、日本語教員、通訳、翻訳業など、日本語を専門的に使って日本の内外で活躍できる人材を養成する。また、日本の社会と文化についての諸科目の履修を通じ、運輸業、宿泊業、商社等の一般企業に日本国内で就職したり、日本の内外で自身が起業したりするなど、社会の即戦力として活躍できる人材も養成する。特に、グローバル化時代の奈良について学ぶ諸科目を通じて奈良県についての理解を深めることから、卒業後に県内の地域社会のなかで活躍できる人材も養成する。

（３）日本学科の３ポリシー

日本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を以下のように定め、これらを備えた学生に学士（日本学）の学位を授与する。

①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化につい

ての豊かな知識を身につけている（技術・知識・思考）
②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる（意欲）
③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる（態度）
④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる（行動）

また、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）については、１年次では日本語科目と日本の社会・文化を学ぶために基礎となる学問分野に関する入門科目、２年次では日本研究の概論科目と日本文化を体験的に学ぶ実習科目、３年次ではより専門性の高い特論科目を設けている。さらに、学修の総まとめとしての卒業論文・卒業課題研究レポートの作成に向けた演習を、３年次と４年次に配置したカリキュラムを編成している。

上記を踏まえ、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を以下のように定め、教育目標を達成し、日本学科の「養成する人材像」へと向かうことのできる入学者を受入れることとする。

① 高等学校で学習する国語や外国語、また日本語学校で学習する日本語を中心にして、論理的思考力やコミュニケーション能力を養い、地理や歴史について総合的な基礎学力を備えている人（技術・知識・思考）
② 日本語や日本の社会・文化、さらに地域社会の地理・歴史に興味をもち、それら文化的資源の社会での活用に深い関心がある人（意欲）
③ 高度な日本語能力を身につけ、日本に関係した仕事に将来従事したい人（態度・行動）

上記の、養成する人材像及び３つのポリシーの整合性を図で表したものは別紙の通り。【資料１】

（４）組織として研究対象とする中心的な学問分野

日本語を学修するための基礎的な学問分野として言語学を位置づけ、日本語学、日本語教育学、社会言語学を中心的な学問分野とする。また、日本の社会と文化を学修するための基礎的な学問分野として文化人類学を位置づけ、文化人類学、経営人類学、人文地理学を中心的な学問分野とする。

２．学部・学科の特色

日本学科は、日本語の確かな知識と運用能力を基礎にして、日本の社会と文化について幅広く学び、卒業後に日本語を使って日本と関係した様々な仕事に従事し、活躍のできる人材が育つように計画されている。他大学にはあまり類例のない、対象を留学生に特化させた授業を行うことで、自国の言語・文化と日本の言語・文化を比較しながら学修する。そのことによって、日本語及び日本の社会・文化についての理解を深めるだけではなく、世界の諸地域・諸民族の言語や文化を比較して研究するための基礎的な理論や方法を学ぶ

ことも可能になっている。また、天理大学の立地を生かし、日本国の始まりの地である奈良県について「ナラロジー（グローバル化時代の奈良研究）」という名称のもとで奈良に関係した教育研究を積極的に行い、奈良県内の地域社会の事例を実地調査も含めて具体的に学修することで、日本社会に対する理解がより深まり、卒業後も日本で生活していくための実際的な知識が積み重ねられるように工夫している。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

学部の名称は現行の「国際学部」とし、英語名称は Faculty of International Studies とする。学科の名称は、既設の地域文化学科日本研究コースの設置の趣旨や理念、教育研究を継承することから「日本学科」とする。英語名称は「Department of Japanese Studies」とする。

学位は「学士（日本学）」とし、英語名称は、「B.A. in Japanese Studies」とする。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

国際学部の教育課程は、教養科目としての「総合教育科目」と専門科目としての「専門教育科目」の大きく２つの科目群から編成する。「総合教育科目」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として「天理スピリット科目群」と、職業教育科目として「キャリア科目群」、大学生としての基本的な学修態度や基礎的な学問分野のリテラシーを修得する科目、データサイエンス能力を習得するための科目などからなる「基礎リテラシー科目群」、及び専門教育科目修得においてその基盤となる周辺領域の科目等を含む「一般教養教育科目群」からなる。

「専門教育科目」は、各学科における専門教育に必要な「専攻科目」を配置する。「専攻科目」は４年間の体系的な科目履修を通して、必要な知識とスキルを修得することが可能になるように配慮し、年次を追って、基礎的科目から各学問分野の基幹科目、基幹科目から発展科目を履修するように、体系的な教育課程を編成している。

（１）総合教育科目

「総合教育科目」は、本学の育成する人間像の基盤となる知識やスキルを修得する科目群であるとともに、専門教育の周辺領域の知識やスキル、及び中央教育審議会答申などで示されている文理融合を目指す科目を含め、「天理スピリット科目群」、「キャリア教育科目群」、「基礎リテラシー科目群」、「一般教養教育科目群」の４つの科目群から編成されている。

１）天理スピリット科目群

本学では「宗教性」「国際性」「貢献性」の３つの柱を教育の中心としているが、「天理スピリット科目群」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として配置する。まず、

本学の精神的基盤でもある天理教の歴史と教えを学ぶ「天理教概説１・２」（各２単位）を必修科目とする。そのほかにも自校史教育として、「建学の精神と天理大学の歩み」（２単位)を必修科目とする。また、国際学部で語学教育を行う 10 言語を対象に、個別の言語文化圏を当該の言語を通して学ぶ「多文化理解と言語」（２単位）を必修科目とする。そして、日本の事情を理解するための科目「日本事情１・２」（各２単位）を選択必修科目とする。さらに、天理教の教えに関連して、身体的な鍛錬の科目である「健康スポーツ科学１・２」（各２単位）を置き、寄付講座の科目として、地域社会・企業との連携や本学の独自性を活かす「天理大学特別講義１～４」（各２単位）を配置する。

２）キャリア教育科目群

初年次から「将来になりたい姿」を学生自らが考えることができるように「キャリア教育科目群」を配置する。初年次には、キャリアを考えることの意義や社会で貢献することの重要性について学ぶ科目を配置する。2 年次では、各業界で活躍している人々をゲストスピーカーとして招き、社会人としての基礎力についても併せて考える科目を設ける。また、初年次から関心ある業界を経験するため、インターンシップを設定しているが、本学の海外の拠点（サテライト・キャンパス）や海外大学協定校の協力も得て、「海外インターンシップ」科目も配置する。

３）基礎リテラシー科目群

「基礎リテラシー科目群」は、初年次教育として全学必修の「基礎ゼミナール１・２」（各２単位）を配置し、データサイエンスに関する技術を段階的に修得するために「データサイエンス・AI 入門」「データサイエンス・AI 応用」「データリテラシー」の３科目（各２単位）を配置する。また、社会人基礎力の学び直しができるように、近代史や数学、生物・化学などのリメディアル科目を配置する。

４）一般教養教育科目群

「一般教養教育科目群」は、リベラルアーツ及びサイエンス科目を中心に本学の独自性を活かせる科目を配置する。「一般教養教育科目群」は、学生が自らの関心にもとづいて選択する科目群であるが、「専門教育科目」との連携を意識し、専門教育において基盤となる科目を修得するように指導する科目群である。

（２）専門教育科目

専門教育科目は「国際学部共通科目」「日本学科専攻科目」で構成する。「国際学部共通科目」は、現在も国際学部に配置されている授業科目である。

「国際学部共通科目」では、世界各地の言語や文化に対する知識と教養を身につけ、国際社会及び地域社会が抱える複合的な問題を理解し、分析する力を養うための講義科目が配置されている。また「国際スポーツ協力論」「国際スポーツ交流実習」等の国際協力・国際スポーツ関係科目、「観光地理学」「観光デザイン論」「観光業界論」「ホスピタリティー観光研究１・２」等の観光関係科目を配置する。

語学力とコミュニケーション力を養うための選択必修科目としては「世界の英語」「異文

化コミュニケーション１・２」、選択科目として「Business Communication」や「TOEFL Academic English」を配置し、TOEIC スコアの向上や留学試験対策のための科目を配置する。

「日本学科専攻科目」は、大学レベルの日本語の運用能力を身につけるための日本語科目と、日本の社会や文化等についての専門性の高い知識を身につけるための講義科目、日本研究をより高度に探求するための演習科目、及び卒業論文・卒業課題研究等の科目を体系的に配置する。

外国人留学生のみで構成されている日本学科では、学生が卒業するにはある程度日本人学生と一緒に授業を履修する必要があるため、日本語能力を高めるのが第一の課題である。そのため、１・２年次には量の多い36単位の日本語及び日本語関連の科目を用意する。たとえば「日本語（会話）」の授業ではＣＡＬＬ教室を利用するように、授業内容に合わせて教授法や施設を選ぶ。また、直接に日本文化に触れて、地域社会に即した研究と応用を体験するために、２年次から４年次にかけて「日本文化体験実習」を設け、自然と文化財に恵まれたキャンパスの特性を生かし、週１回２時間連続の授業時間のなかで、近隣地域の諸施設・団体を訪問し、調査の実習を行う。

３年次と４年次に配置された必修科目「日本研究演習１～４」（計８単位）では、以上のような学修を通じて得た知識とスキルを活かして研究テーマを深めることによって、課題の発見及び解明や解明方法の探究能力（問題解決能力）を修得する。

４年次では、学修の総まとめとして「卒業論文」（４単位）あるいは「卒業課題研究」（2単位）に取り組むことで、研究の成果を論理的に発表できる表現能力を涵養する。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（１）授業の内容に応じた授業方法

学期中に集中的に日本語を学び、練習を繰り返してその運用能力を身につけるために、日本語科目は１週間に７科目７時間設け、一年を通して共通の教科書を用いた授業を行う。「入門日本語」、「基礎日本語」のセットについて、専任教員がコーディネーターをつとめ、７科目の担当教員がそれぞれの授業の進行や履修学生の様子について、密に情報交換をしながら授業運営を行う。そのことによって、学生たちが体系的に日本語を学ぶことが可能になる。

（２）授業方法に適した学生数の設定

本学では少人数教育によるきめ細かな指導により、学習成果の向上を図っている。たとえば、大学や社会で求められる「読む・書く・聞く・話す」能力の獲得を目標とする初年次教育プログラムである総合教育科目「基礎ゼミナール」では、各クラス 20～30 名程度の演習形式をとっている。

総合教育科目・専門教育科目の「語学科目」については、オーラル・コミュニケーションをはじめとする多角的な運用能力を身につけさせるために上限を 40 名程度と定めて、建学以来培ってきた実践的かつ高度な外国語教育を行う。

総合教育科目全般についても可能な限り過大クラスを回避し、上限を 100 名程度に抑える方策を講じ、きめ細かい指導に向けて充実を図る。

（３）配当年次の設定

入学生をプレースメントテストによって「初級」と「中級」に分ける。初級の学生は１年次に日本学科専攻科目の「入門日本語A」と「入門日本語B」の合計14単位を履修し、中級の学生は１年次に本学科専攻科目の「基礎日本語A」と「基礎日本語B」の合計14単位を履修する。なお毎年度、中級にプレースされる学生と前年度の初級の学生が一緒に「基礎日本語」を履修することになり、「基礎日本語A」と「基礎日本語B」のどの科目も受講生が多くなるため、２クラスに分けて実施する。中級を学ぶ学生は２年次以降、概論科目から８単位を履修し、さらに３年次以降、特論科目から８単位を履修する。これらの科目を通して、学生は多角度から日本を理解し、さらに、その理解をより専門的に修得する「日本研究演習」及び「卒業論文」「卒業課題研究」と繋げていく。

（４）卒業要件

本学に４年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計 28 単位以上（天理スピリット科目群 12 単位以上、キャリア科目群２単位以上、基礎リテラシー科目群 10 単位以上、一般教養教育科目群４単位以上)、国際学部共通科目２単位以上、日本学科専攻科目計 56 単位以上（必修科目 36 単位、選択科目は選択必修科目の必要単位を含め 20 単位以上)、国際学部共通科目、日本学科専攻科目を併せて計 70 単位以上、総合教育科目、国際学部共通科目、日本学科専攻科目、他学部・学科の開放科目を併せて合計 124 単位以上修得すること。

（５）履修モデル

履修指導については「天理大学履修規則」を定めて、『キャンパスライフ（履修の案内)』や Web に公開されている「シラバス」、及びクラス担任の指導に基づいて行う。

基本となる履修モデルとして、日本の一般企業で活躍できる人材養成モデルを示しておく。【資料２】

（６）メディアの利用

日本語の科目では、会話の授業を中心に、適宜 CALL 教室を利用しながら授業を展開していく。日本の社会と文化を学ぶ講義科目では、教室に備えられた PC とプロジェクターを活用し、パワーポイント等を使用して作成した視覚教材を用いるほか、インターネット上で公開されている音声・映像資料や関係機関の公式ホームページ、統計資料なども積極的に取り入れる。

（７）履修科目の年間登録上限や、他大学における授業科目の履修等

１）履修科目の登録の上限

登録科目の学習成果を確実なものにするために、各学期に 24 単位を超える登録及び年度内合計が 48 単位を超えない登録を原則とする。なお、直前学期のＧＰＡまたは直前学

期までの通算ＧＰＡにより上限に追加枠を設ける。
　専門教育科目、一部の総合教育科目の登録については、履修前提条件を設定し、履修をするまでに修得すべき科目を学生に示す。

２）他大学における授業履修について
　２年次生以上で単位互換協定の単位の修得を目的とする者を対象として、奈良県内大学間単位互換協定に基づく単位互換制度を設けている。県内 7 大学における履修を 1 年間 12 単位まで認めているが、この履修単位数は、本学での各学期に履修登録できる単位数に含まれる。
　海外の大学での履修に関しては、本大学と留学生交換協定を締結、もしくは本学が留学先として認めた機関での留学については、30 単位まで留学先での修得単位認定を認めている。また、本学入学前に他大学や短期大学において履修した科目の修得単位を、60 単位を超えない範囲（ただし、編入学の場合は制限なし）で本学での履修単位として認めている。

３）留学生への対応
　海外からの入学者については、入学前に国際交流センター室職員がサポートをしつつ、出入国在留管理庁に必要書類を提出し、査証取得に向けたサポートを行っている。すでに査証を取得している学生については、有効期限が切れることのないように国際交流センター室職員がサポートを行っている。入学後の履修指導については、各学科学年のクラス担任が学期はじめにオリエンテーションを行い、日本語のレベルに合わせた履修科目や履修クラスの指導を行っている。生活指導については、天理警察署の協力を得て、海外との交通ルールなどの違いを説明し、留学生が事故、事件に巻き込まれないように指導を行っている。

６．取得可能な資格

　日本学科では、卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能となる。
　①図書館司書　〔国家資格〕
　②博物館学芸員　〔国家資格〕
　なお、これらの資格取得は、卒業の要件ではない。

７．入学者選抜の概要
（１）アドミッション・ポリシーと入学者選抜
　本学科において、下記に示すアドミッション・ポリシーを定めている。

　教育目標を達成するために、日本学科は次のような人を求めています。
　①高等学校で学習する国語や外国語、また日本語学校で学習する日本語を中心にして、

論理的思考力やコミュニケーション能力を養い、地理や歴史について総合的な基礎学力を備えている人（技術・知識・思考）

②日本語や日本の社会・文化、さらに地域社会の地理・歴史に興味をもち、それら文化的資源の社会での活用に深い関心がある人（意欲）

③高度な日本語能力を身につけ、日本に関係した仕事に将来従事したい人（態度・行動）

入学者選抜の実施においては、アドミッション・ポリシーに沿い、以下の選抜を計画している。

総合型選抜においては、「⑤自己実現への強い意志がある人」を求めるとともに、「④現代社会におけるさまざまな課題に対して、関心を持っている人」ならびに「③多様な他者との相互理解に努め、積極的に社会とかかわる意欲をもつ人」を、面接やプレゼンテーションにより、適正さや学修意欲、地域社会への貢献する意欲を確認し、選抜を行う。

学校推薦型においては、高校時代の調査書を応募基準とし、人物・成績とも優れているということで推薦されている志願者の「知識・技能」を中心に、基礎学力問題や課題小論文によって、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人」ならびに「②国際学部で学ぶ領域への深い関心と一定の知識を備え、知的体系を意欲と主体性を持って学ぶことができる人」を基本に、選抜を行う。

一般選抜においては、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人」を基本に、選抜を行う。

（２）入学者の選抜方法及び募集人員の概要

入学者選抜については、「天理大学入学者選抜規程」に従って実施しており、また、入試委員会、天理スポーツ推進委員会に加え、令和２（2020）年度末に学長を本部長とする入学志願者戦略本部会議を設け、志願者募集にあわせて、入試委員会とも緊密に連携しながら、入学者選抜についても検討をしている。入学者選抜の公正かつ円滑な実施をはかり、入学者選抜に関わる者の責務を明確にするために、「天理大学入学選抜実施ガイドライン」を定めている。

また、選抜方法については、学科のアドミッション・ポリシーにもとづき、学校教育法第 30 条第２項が定める学校教育において重視すべき三要素」すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を考慮しつつ、本学が独自に実施する小論文、面接、出願時の書類（出身学校調査書、志願理由書など）の評価などを活用して、公正かつ妥当な方法で合否判定を行う。

本学の建学の精神や教育理念、教育研究の目的に合致し、多様な資質を持った学生を受け入れられるよう、総合型選抜、学校推薦型選抜で、以下の入学者選抜を通して入学者を選抜する。

総合型選抜では、外国人留学生を対象とする「日本学科留学生（国内在留）選抜」、「日本学科留学生（国外在留）選抜」、スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める「天理アスリート選抜」がある。

学校推薦型選抜では、学科が特定の高等学校及び日本語学校を指定して生徒の推薦を依頼する「指定校推薦」がある。

上記以外の入学者選抜として、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所及び国連 UNHCR 協会との協働によって実施される難民高等教育事業「UNHCR 難民高等教育プログラム（Refugee Higher Education Program – RHEP)」のパートナー大学として学生の受け入れを実施する。

本学が実施する入学者選抜の概要と、各選抜での日本学科の募集定員は以下の通りである（募集定員は括弧内)。

総合型選抜（36 名）

○「日本学科留学生（国内在留）選抜」(32 名)
日本国内に在留する外国籍を有する者を対象とする選抜

○「日本学科留学生（国外在留）選抜」(4 名)
日本国外に在留する外国籍を有する者を対象とする選抜

○「天理アスリート選抜」(若干名)
スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める選抜

学校推薦型選抜（ 4 名)

○「指定校推薦」(4 名)
学科が指定した高等学校及び日本語学校の生徒のみが学校長の推薦を受けて志願できる選抜

（3）入学者選抜の実施体制

入学者選抜においては学長を議長とする「入試実施本部」を設置し、実施体制の確認、配布資料の確認など、入学者選抜にかかるすべてを統括し、常に入試実施マニュアルを整備し、チェック体制を強化することにより、入試に係るミスの防止に努めている。また、入学者選抜制度の立案から実施までを所管する学内組織としては入試委員会がある。

入学者選抜の実施にあたっては、入試委員を中心とする「入試実施委員会」を設置し、各選抜実施に万全を期す。なお、大学入学センターと協同で実施する「大学入学共通テスト」については、別途「大学入学共通テスト実施委員会」を組織して実施にあたる。各入学者選抜の実施に関する事務部局として、入学部長を入試事務局長とする入試事務局を編成し、全学の事務職員が選抜事務を担当する。

入学者の合否判定にあたっては、データ処理及び採点についてのチェックシステムを導入して万全を期するとともに、各選抜方式に応じて合否判定のための資料を作成する。合否判定は「合否判定大綱」にのっとって慎重に行う。「合否判定大綱」の作成においては、まず入試委員会で判定大綱素案を策定し、学長を議長とする合否判定会議で判定大綱を承認したあと、各学部教授会において判定大綱を確認する。

合否判定においては、上の合否判定大綱に基づいて各学部教授会で合否判定原案を決定し、同原案を全学の合否判定会議で確認のうえ、入学者の合否を最終決定することとしており、公平な合否判定業務を実施する体制を確立している。

８．教員組織の編制の考え方及び特色

（１）教員組織

日本学科では言語系の教員３名、文化系の教員３名、計６名の専任教員を近い将来にそろえる計画である。言語系の教員３名の研究分野は、日本語学・日本語教育学が２名、社会言語学が１名である。文化系の教員３名の研究分野は、文化人類学が１名、経営人類学が１名、人文地理学が１名である。１年次に配当されている入門の講義科目や、２年次以降に配当されている概論・特論の講義科目、そして実習や演習、卒業論文と卒業課題研究の指導は専任教員に限る。日本語の科目の多くは非常勤講師が担当する予定であるが、日本研究に関わる重要な科目を、専門分野について十分な研究業績のある専任教員が担当することで、学生が単に日本語の運用を学ぶのではなく、学問の理論と方法を学び、日本研究を修めるということが可能になる。

（２）附帯事項に対しての対応

「学校法人天理大学就業規則」において大学教員の停年は 60 歳となっているが、停年後も引き続き雇用を希望すれば、満 65 歳に達する日の年度末まで継続雇用すると定めている。

また、別途定めた天理大学再雇用規程においても満 65 歳の年度末まで専任教員として勤務することができると定めている。同規程では、65 歳を超えて教学上特に必要と認める停年後教員を特別嘱託教授として再雇用すること、特別嘱託教授の期間の限度は満 68 歳の年度末と定めている。

専任教員の高齢化は今後の教員組織においてふさわしい状況とは言い難いが、新学部学科の完成年度（令和９年度末）までの教員採用計画については既に確定をしている。完成年度以降については、引き続き、定年規程の趣旨を踏まえつつ、教育研究の継続性と年齢構成を考慮して、退職者の後任人事を補充していく。

９．研究の実施についての考え方、体制、取り組み

本学の研究支援体制については、「天理大学ビジョン 2025」の「確かな教育力の基盤は、優れた研究（力）にあるとの考えから、外部研究資金の獲得を含む、研究支援体制を強化する。さらに、研究プロセスを明示化するとともに、研究成果を積極的に公表し、研究の発信力を高める。」を基本的な考え方としている。その体制及び取組みについては以下の通りである。

（１）研究支援体制

学務部教育研究支援課では、科学研究費をはじめとする外部研究資金の獲得を含む教員の研究活動へのサポートを行っている。科学研究費については、応募時期に合わせ数度の説明会を開催しており、採択率は令和３（2021）年度を除き、ここ数年は全国平均を上回っている。また、採択後の諸手続きや補助金の使用方法等については、関連するガイドブ

ックを作成し、補助金の獲得にとどまらず補助金使用についてもさまざまな形で支援しており、令和４（2022）年度からは、研究者の利便性を高めるとともに不正防止にも繋がるように、コーポレートカードを導入した。さらに、令和５（2023）年度からは、バイアウト制度の導入も行い、研究者がより一層、研究活動に専念できる体制を整備している。

また、コロナ禍により急速に伸展したオンライン研究会等への対応として、学務部情報システム課の職員がネットワーク環境の整備などの技術的サポートを行っている。

（２）情報ライブラリー

情報ライブラリーには､司書資格を有する専任職員を配置するとともに業者委託を行い、図書館専門スタッフがレファレンス業務を担うことで、学生、教員の研究活動に大いに貢献している。

また、OPAC は、国立情報学研究所が提供する CiNii Books･CiNii Research や IRDB へのリンク、また国立国会図書館の NDL サーチへのリンクを備えており、学外資料へのアクセスや ILL(相互貸借)の促進を通じた教育研究に関する幅広い資料提供に寄与している。また、情報ライブラリー本館は国立国会図書館デジタルコレクションの有料送信サービス対象館となっており、卒業論文や卒業研究のための資料調査など、教育研究のための資料アクセスの機会を広げる効果に繋がっている。さらに、令和３（2021）年度からは韓国国立中央図書館とも契約をし、同館所蔵のデジタル資料の閲覧も可能になったことで、教員や学生の教育研究活動において利便性が向上した。また、学術情報リポジトリ（機関リポジトリ）に搭載する学術情報の拡充とシステムの整備を図ることにより、社会の発展に資するよう教員の研究成果物の発信を積極的に進めている。

（３）研究制度

各教員には、個人研究費に加え、研究旅費が配分されている。また、その他にも研究活動への支援として、天理大学学術・研究・教育活動助成制度や天理大学学術出版助成制度など、資金面で支援を行う制度のほか、天理大学特別研究員制度やバイアウト制度など、教員が研究活動に専念できる環境整備も行っている。

（４）研究倫理体制

「天理大学における公的研究費の管理・監査に関するガイドライン」や「天理大学研究者等の行動規範」､「天理大学における公的研究費の不正使用防止計画」などを制定するとともに､毎年､コンプラインアンス研修を含む研究倫理教育研修会を開催し､全専任教員、大学院生及び担当事務職員に参加を義務づけており、研究者の高い倫理観を醸成し、公正な研究活動を推進する機会としている。また、万が一、研究不正等が疑われる事案が発生した際には､「天理大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」に基づき、迅速かつ公正な対応が行える環境を整えている。

（５）研究活動の公表

本学ホームページにおいて、専任教員の研究活動実績等を公開し、また、採択された科学研究費の状況を公表している。さらに、年度末に発行している『天理大学学報』におい

て、全専任教員が 1 年間の研究活動を報告し、『天理大学学報』を学術情報リポジトリ（機関リポジトリ）に搭載することで、広くその内容を公表している。

10. 施設、設備等の整備計画

（1）校地，運動場の整備計画

国際学部は、4 年間、杣之内キャンパスで教育を行う。杣之内キャンパスは校地面積 151,091.22 ㎡を有しており、運動場や学科会の活動スペースとしての心光館などを確保している。既に整備をされているので改めて整備をする予定はない。

（2）校舎等施設の整備計画

図面の通り、二～四号棟に教室、PC 教室、PC 自習室を共用施設として確保している。また、五号棟には、教員の個人研究室、学科学生の専有の共同研究室、共用施設として演習を行うことのできる教室を確保している。ほとんどの教室はマルチメディア対応となっている。学生の 4 年間の教育、教員の研究活動も支障をきたさないため、改めての整備計画はたてていない。

（3）図書等の資料及び図書館の整備計画

附属天理図書館は約 150 万冊を所蔵し、和漢洋の貴重書（国宝 6 点、重要文化財 87 点、重要美術品 66 点）、大和を中心とした古文書類も所蔵しており、また、国内外の逐次刊行書としては約 1 万 6000 タイトルを所蔵している。附属天理図書館では、閉架式の資料提供だが、新収資料を中心に参考資料など約 3 万 5000 冊は開架式で提供している。

情報ライブラリーは約 61 万冊を所蔵し、本学の学問分野の教育研究に資する蔵書構成を基本としつつも、教養図書館として幅広い分野の基本資料を所蔵している。あわせて、基本資料を中心とした各種データベースを提供している。蔵書は情報ライブラリー本館、分室及び各学科の共同研究室に設置された共同研究室･書庫に排架され管理されているが、原則開架式を採用し、利用者が活用しやすい環境となっている。また、遠隔利用も容易な e-Book、e-Journal などの導入を進め、学術情報の充実に努めている。

国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備について、附属天理図書館及び情報ライブラリーとも、蔵書目録の作成・提供には国立情報学研究所の「目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）」に参加し、あわせて「相互貸借サービス（NACSIS-ILL）」にも参画している。

図書等の資料及び図書館既に整備され、教育・研究上に問題がないため、新たな整備計画はたてていない。

11. 管理運営及び事務組織

（1）管理運営体制

本学では、学部ごとに独立した教授会が教授、准教授、講師、助教によって組織され、「天理大学学則」第12条及び各学部「教授会規程」に基づいて、毎月１回開催され、適切に運営されている。

教授会規程

第３条　教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

ア　教員の教育研究業績の審査に関する事項

イ　学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項

ウ　学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項

エ　全学協議会委員及び各種委員会等の選出に関する事項

オ　学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項

カ　学部の自己点検・評価に関する事項

キ　教育内容及び授業方法の改善に関する事項

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項

(2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項

(3) 学部教員の賞罰に関する事項

(4) その他、学部の教育研究に関する事項

この規程の下、学部内の教育、研究、教員人事などの学部に関する審議事項と、学長の選任、教育、研究、学則などの全学に関する審議事項を整理し、学部内の審議事項についての最終判断が可能となり、学部内の意思形成を円滑に図ることができる。

学部長と教授会の関係については、学則第８条で学部長は教授会の代表と位置づけられている。教授会規程では学部長が議長となる。教授会に専門委員会を置くことができる。

また、学部長と学部教授会より選出された教授１名が全学協議会に出席し、学部教授会と全学協議会との連携による教学組織における全学的な意思形成の迅速化を図るようにしている。

（２）事務組織体制

事務組織については、法人事務局に３部、５課・室、大学事務局に７部・室、13課・室を設置している。各部署には、適切な人員を配置して円滑な運営を図っている。

事務組織は、業務内容の多様化に対応し、迅速かつ着実に執行できる大学運営組織となるように改編を行っており、近年の改編は以下のとおりとなっている。

平成28(2016)年に学生部内の「留学生支援課」を事務局直下の「国際交流センター室」

に改編した。平成 29（2017）年にＩＲ体制を強化するため、学長室に「ＩＲ推進課」を新設した。さらに平成 30（2018）年には学長室に「企画課」を新設し、入試広報部内の「広報課」を学長室内の「広報・社会連携課」に改編した。学生の入口と出口を強化するために「入試部」を「入学部」、学生部内の「キャリア支援課」を課から部へ改め「キャリア支援部」として設置した。教務部と教育支援部を合併して「学務部」へと改編した。また、令和５（2023）年には、医療学部の開設に伴い、「別所事務室」を設置した。

業務内容の多様化、専門化に対応するため、外部研修も含めた人材育成に努めている。また、カウンセリングルーム、学生相談室には臨床心理士（公認心理師）、情報ライブラリーには図書館司書の有資格者を配置しており、ＣＡＬＬ教室の運営には専門の職員が常駐している。

学生の厚生補導を行うための部署としては、学生部、国際交流センター室、及びキャリア支援部がその任務に当たっている。学生部は課外活動を含む学生の諸活動のサポート、奨学金や保険のサポート、また障がいのある学生へのサポートなどを行っている。国際交流センター室は、外国人留学生の受け入れ及び学生生活支援、及び学生の海外留学や語学実習、インターンシップ、ボランティアなどのサポートに当たっている。キャリア支援部は、進路支援及び就職の斡旋、進路ガイダンスなどを行っている。

12. 自己点検・評価

天理大学学則第１条の２において「本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため､本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う」と定めている。また、天理大学自己点検評価運営規程を定め、同規程では､「自己点検評価委員会を設置する」とし、自己点検評価委員会を設置している。同委員会は天理大学自己点検評価委員会規程に基づき、自己点検評価の基本方針の策定、自己点検評価の実施、大学認証評価機関による大学評価に関すること等について審議している。

平成 10（1998）年より自己点検評価委員会を立ち上げ、自己点検評価活動を実施しているが、平成 29（2017）年には、点検評価活動の進捗を統括的に管理し、内部質保証システムをより円滑に機能させるため、新たに企画評価会議を設置した。同会議は天理大学企画評価会議規程に基づき、学長が議長を務め、各学部長、各研究科長、事務局長、各事務部長、自己点検評価委員会委員長で構成している。内部質保証の改善案をはじめ、自己点検評価報告書案、自己点検・評価に関する情報公開など、内部質保証に関する事項について協議を行っている。

また、天理大学自己点検評価運営規程において「外部評価委員会を設置する」と定め、天理大学外部評価委員会を平成 30（2018）年に設置した。同委員会は天理大学外部評価委員会規程に基づき、本学の設置目的に理解のある学外有識者で構成し、本学自己点検評価の結果について、検証及び評価を求め、教育研究等の向上に資する提言を求めている。

これらの自己点検活動を円滑に稼働させるため、天理大学内部質保証に関する方針を制定している。同方針では、内部質保証の体制として､「学部、学科、専攻、研究科及び事務部署等の各組織は、毎年度自己点検評価を行います。各組織の評価結果は、自己点検評価

委員会で審議し取りまとめて、学外の有識者による評価を受け、全学的な企画評価会議に報告します。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成します。改善案は全学協議会で審議し実行されます。実行された事業については、担当部署で自己点検評価を行うことで、ＰＤＣＡサイクルを回し内部質保証の体制を確立します。」と定め、方針に準じて活動を展開している。

なお、先述した同方針の内部質保証の体制に示した学部、学科、専攻、研究科及び事務部署等の各組織は、毎年度の自己点検評価の実施については、つぎの通りとなる。各組織は大学基準協会が定める大学基準に基づき設定された「点検・評価項目」について「自己点検・評価のためのチェックシート」を用いて、点検評価を実施し、各組織の評価結果は、自己点検評価委員会で審議し取りまとめて、企画評価会議に報告をする。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成し、改善案は全学的な教育研究、運営にかかわる事項の審議機関である全学協議会で審議する。

認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を令和４（2022）年度に受審し、令和５（2023）年３月に大学基準に適合していると認定された。認定期間は、令和５（2023）年４月１日から令和 12（2030）年３月 31 日までとなった。

自己点検・評価結果の公表については、本学のホームページにおいて、第３期認証評価の「自己点検報告書 2022（令和４）年度」「大学評価（認証評価）結果」、第２期認証評価の「改善報告書」「改善報告書検討結果」等を公開している。

https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html

13. 情報の公表

本学における教育研究活動等の状況に関する情報の公表は、「教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表する」と定める学校教育法第 113 条の趣旨に従い、天理大学公式ホームページを中心に周知している。このホームページは学長室広報・社会連携課が管理・運用を行い、広報・社会連携委員会での審議のもと、情報発信等の一括管理を行っている。

入試関係についても、所管部署である入学部入学課と緊密な連携をとりながら、大学としての一元管理のもと、正確かつ迅速な情報発信を行っている。ホームページ及び従来の新聞広告や交通広告等に加えて SNS 等、時代に即した広報活動を強化し、さらには本学の建学の精神の柱の一つである社会貢献に関する活動を広報展開する等、情報提供体制の強化を図っている。

下記の項目については、以下のとおり公式ホームページに掲載している。

（１）大学の教育研究上の目的及び３つのポリシー
（建学の精神）（教育目標）
http://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞

（教育研究上の目的及び３ポリシー）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_8
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞大学の教育研究上の目的＞

（２）教育研究上の基本組織に関すること
（組織図）
http://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k000000049j.html
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞組織図

（３）教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
（教職員数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html
ホーム＞教員・研究員一覧＞

（各教員・研究者が有する学位及び業績）
http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html
ホーム＞教員・研究員一覧＞教員組織、各教員・研究者が有する学位及び業績

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
（アドミッション・ポリシー）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_10
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞天理大学のアドミッション・ポリシー

（学部在籍学生数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞４．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること＞入学定員、収容定員、在学者数

（学位授与数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞４．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること＞学位授与数

（進路・就職等の状況）
https://www.tenri-u.ac.jp/career/dv457k0000000fnf.html

ホーム＞大学概要＞進路・資格・就職情報＞進路・資格・就職の支援について＞進路・就職状況

（５）授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/prog/index.html
ホーム＞教育・研究＞天理大学の学び

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞６．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞７．校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

（８）授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
（学費・入学金）
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞８．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/
ホーム＞天理大学 STORIES 入学情報サイト＞納付金

（学部学費一覧）
https://www.tenri-u.ac.jp/clife/dv457k00000007w1.html
ホーム＞教育情報の公表＞８．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること＞学費について

（学生納付金に関する情報）
https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/
ホーム＞天理大学 STORIES 入学情報サイト＞納付金

（９）大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
（キャリアサポート）
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.htmll
ホーム＞教育情報の公表＞９．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

（10）その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果等）

（自己点検・評価活動）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html
ホーム＞大学概要＞大学評価＞天理大学の自己点検・評価活動

（自己点検・評価結果）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n99.pdf
ホーム＞大学概要＞大学評価＞2022 年度大学評価＞天理大学自己点検・評価報告書 2021（令和３）年度

（認証評価）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n98.pdf
ホーム＞大学概要＞大学評価＞2022 年度大学評価＞天理大学に対する大学評価（認証評価）結果

※上記はまとめて「教育情報の公表」としてもホームページに掲載
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）実施体制

学務部教育研究支援課で FD 委員会を所管し、委員会での決定事項を受けて、さまざまな形で FD 活動を組織的かつ多面的に実施することによって、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げている。

（２）実施内容

１）オープンクラス

平成 29（2017）年度から、全専任教員を対象としてオープンクラスを実施しており、期間を定めて全専任教員に対し、授業公開及び授業参観を義務づけている。平成 30（2018）年度からは、教育研究支援課で Web システムを利用した事前準備及び期間中の管理等を行っており、参加状況を把握することで、全専任教員が必ず参加する体制を整えている。また、Web システム上で、公開教員と参加教員が相互に意見交換をし、教員同士がさまざまな気づきを得られるようにしている。なお、コロナ禍では、オンライン授業もオープンクラスの対象とし、大学全体で情報を共有しながら、学生の学びの機会を保証すべく、オンライン授業の質の向上を目指した。結果としてオープンクラスは、オンライン、オフラインを問わず、授業改善及び教育の質保証に繋がる機会となった。

２）授業評価アンケート

「学生による授業評価」アンケートを行い、その結果を学長室に伝えている。その結果をもとに、学部長会においてベストティーチャーを選出し、組織的に教員の授業改善へのモチベーションの向上に繋げている。また、「学生による授業評価」アンケートの結果は、大学のホームページにおいて公表することで、外部からの評価も授業改善に繋げられるようにしている。

３）ティーチング･ポートフォリオ

令和３（2021）年度より、教員が自らの授業や指導において取り組んだ教育努力を可視化し、教育改善に役立てるために、ティーチング・ポートフォリオを導入している。ティーチング・ポートフォリオについては、教育研究支援課が、グループウェアを利用した学内での共有に関するサポートを行っている。

４）FD 活動報告書

学内の FD 活動に関する報告書を毎年公表することで、大学としての FD 活動を体系的に整理し、今後の教育内容等の改善を図っている。

５）教員活動報告

年度末に発行する『天理大学学報』にて、全専任教員が１年間の研究活動、教育活動及び社会活動を報告することになっている。各教員の活動を可視化することで、教員同士が相互に情報交換をするとともに、刺激し合える環境を整えている。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内の取組みについて

建学の精神を具現化する教育の柱の一つとして「貢献性」を掲げる本学では、社会における貢献の基盤としてキャリア教育を重視し、総合教育科目の中にキャリア教育科目群７科目を置いている。ほとんどの学科でこれらの科目群を必修科目としており、入学年から自分自身のこれまでの活動を振り返るとともに、卒業後の進路に対する意識付けを行っている。

１年次配当の「キャリアプランニング」では、社会人として必要な労働の形態や法律に関する基礎知識を学ぶ。そして、自己を分析し、社会に貢献するために自らに必要な能力が何かを考え、各自の職業意識の醸成へとつなげる。「キャリアデザイン１・２」では、教員・公務員・企業・ＮＧＯ、ＮＰＯなどの各業種から多彩なゲストスピーカーを招き、就職活動への進め方を学ぶことで、「インターンシップ」へとつないでいく。さらに、海外留学を志す学生のために、「海外インターンシップ」を体験するプログラムも用意し、国際的視野に立った人材の育成にも力を入れている。

また、総合教育科目天理スピリット科目群では、林業を体験実習として学ぶ「ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる」や、海外でのボランティアをとおして学ぶ国際参加プロ

ジェクト（「国際協力入門」「国際ボランティア論」「国際協力実習」等）などを用意し、さまざまな視点から現代の世界や社会に貢献できる人材養成をめざしている。

（２）教育課程外の取組みについて

学生が、本学の育成する人間像「揺るぎない信条を基盤に（宗教性）、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち（国際性）、積極的に他者に貢献し（貢献性）、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間」に成長できるよう、教育課程外の取組みとして「キャリアアップ講座」を実施している。これは、現代社会に対応できる能力と資格、及び豊かな人間性を育むために展開するものである。

（３）適切な体制の整備について

適切な体制の整備については、「天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則」を制定している。【資料３】

設置の趣旨等を記載した書類
（国際学部日本学科）

資料目次

資料１．３つのポリシーの整合性・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

資料２．履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

資料３．天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則・・・・・　4

国際学部日本学科　アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

日本学科の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

①高等学校で学習する国語や外国語、また日本語学校で学習する日本語を中心にして、論理的思考力やコミュニケーション能力を養い、地理や歴史について総合的な基礎学力を備えている人（技術・知識・思考）

②日本語や日本の社会・文化、さらに地域社会の地理・歴史に興味をもち、それら文化的資源の社会での活用に深い関心がある人（意欲）

③高度な日本語能力を身につけ、日本に関係した仕事に将来従事したい人（態度・行動）

総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜　　**入学試験**

入　学

日本学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

1年次では、日本語科目と日本の社会・文化を学ぶために**基礎となる学問分野に関する入門科目**、2年次では日本研究の**概論科目**と日本文化を体験的に学ぶ**実習科目**、3年次では、より専門性の高い**特論科目**を設けています。さらに学修の総まとめとしての**卒業論文・卒業課題研究**レポートの作成に向けた演習を3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

履　修　取　得

総合教育科目

天理スピリット科目群

キャリア教育科目群

基礎リテラシー科目群

国際学部共通科目

資格科目

天理教部門

人文科学部門

社会科学部門

教職に関する専門教育科目

日本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー ＼ 学　年		1年次（入門）		2年次（基礎）		3年次（展開）		4年次（研究）	
DP1	①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている（技術・知識・思考）	入門日本語A（会話） 入門日本語A（講読） 入門日本語A（文法A） 入門日本語A（文法B） 入門日本語A（作文） 入門日本語A（表記） 入門日本語A（総合） 入門日本語B（会話） 入門日本語B（講読） 入門日本語B（文法A） 入門日本語B（文法B） 入門日本語B（作文） 入門日本語B（表記） 入門日本語B（総合）	基礎日本語A（会話） 基礎日本語A（講読） 基礎日本語A（文法A） 基礎日本語A（文法B） 基礎日本語A（作文） 基礎日本語A（表記） 基礎日本語A（総合） 基礎日本語B（会話） 基礎日本語B（講読） 基礎日本語B（文法A） 基礎日本語B（文法B） 基礎日本語B（作文） 基礎日本語B（表記） 基礎日本語B（総合） 日本研究入門 ナラロジー研究入門 日本文化入門 世界史のなかの日本	ビジネス日本語1 日本語実践研究1	ビジネス日本語2 日本語実践研究2				卒業課題研究／卒業論文
DP2	②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる（意欲）		フィールドワークの方法	交通地理学概論 日本生活文化概論 日本文化体験実習1	日本精神文化概論 日本文化体験実習2	日本環境文化特論 日本生活文化特論	ナラロジー特論		
DP3	③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる（態度）		文化人類学入門 言語学入門	日本表現文化概論 社会言語学概論	ナラロジー概論	経営人類学特論 日本研究演習1	日本情報文化特論 日本研究演習2	日本研究演習3 卒業課題研究 卒業論文	日本研究演習4
DP4	④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる（行動）			日本多文化共生概論		日本表現文化特論	観光地理学特論		

学士（日本学）取　得

履修モデル

日本の一般企業で活躍できる人材養成モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群					**天理教概説１**	**2**	**天理教概説２**	**2**								
						建学の精神と天理大学のあゆみ	**2**										
		多文化理解と言語（日本語）	*2*			*日本事情１*	*2*	*日本事情２*	*2*								
		健康スポーツ科学1	*2*														
	キャリア教育科目群					キャリアプランニング	2										
	基礎リテラシー科目群	**基礎ゼミナール１**	**2**	**基礎ゼミナール２**	**2**												
		データサイエンス・AI入門	**2**														
						基礎からわかるレポート作成	2	基礎からわかる現代社会	2								
	一般教養科目群									生活の中の科学	2	ジェンダー・セクシャリティ	2				
国際学部共通科目						国際文化論	2	日本と国際社会	2	観光業界論	2	世界遺産論	2	世界の歴史と社会	2	アジアの歴史と社会	2
						世界の英語	2										
日本学科専攻科目		**日本研究入門**	**2**	**ナラロジー研究入門**	**2**	*日本表現文化概論*	*2*	*日本多文化共生概論*	*2*	*交通地理学概論*	*2*	*社会言語学概論*	*2*	*観光地理学特論*	*2*	*経営人類学特論*	*2*
		文化人類学入門	**2**	**日本文化入門**	**2**	*日本精神文化概論*	*2*	*ナラロジー概論*	*2*	*日本表現文化特論*	*2*	*日本情報文化特論*	*2*				
		言語学入門	**2**	**フィールドワークの方法**	**2**	*日本生活文化概論*	*2*			*日本環境文化特論*	*2*	*ナラロジー特論*	*2*				
		世界史のなかの日本	**2**							*日本生活文化特論*	*2*						
		基礎日本語Ａ（会話）	**1**	**基礎日本語Ａ（聴読）**	**1**					**日本研究演習１**	**2**	**日本研究演習２**	**2**	**日本研究演習３**	**2**	**日本研究演習４**	**2**
		基礎日本語Ａ（文法Ａ）	**1**	**基礎日本語Ａ（文法Ｂ）**	**1**	日本語実践研究１	2	日本語実践研究２	2	ビジネス日本語１	2	ビジネス日本語２	2	**卒業論文**	**4**		
		基礎日本語Ａ（作文）	**1**	**基礎日本語Ａ（表記）**	**1**	日本文化体験実習１	2	日本文化体験実習２	2								
		基礎日本語Ａ（総合）	**1**														
		基礎日本語Ｂ（会話）	**1**	**基礎日本語Ｂ（聴読）**	**1**												
		基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	**1**	**基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）**	**1**												
		基礎日本語Ｂ（作文）	**1**	**基礎日本語Ｂ（表記）**	**1**												
		基礎日本語Ｂ（総合）	**1**														
他学部・他学科開放科目																	
資格科目（含卒業要件）																	
単位数（累計）		38（38）				40（78）				30（108）				16（124）			

資格科目																	

赤　ゴシックは必修科目
斜体は選択必修科目
青　明朝体は推奨科目

天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則

（趣旨）

第１条　本大学キャリア支援課が開講する就職支援・資格取得講座（以下「講座」という）に関する事項は、本規則の定めるところによる。

（受講対象）

第２条　本講座の受講生は、本大学学生・大学院生及び卒業生に限るものとする。

（受講申込手続き）

第３条　本講座の受講を希望する者は、所定期間内に別表に定める講座受講料を納入の上、受講申込書に必要事項を記入してキャリア支援課へ提出するものとする。

２．一旦納入された講座受講料は返還しない。ただし講座申込者数が開講予定者数に達しない場合、および第４条第２項についてはこの限りでない。

（受講申込講座の変更及び取消し）

第４条　受講申込手続の完了した講座については、変更及び取消しを認めない。

２．前項の規定にかかわらず、疾病など、その事情をキャリア支援課がやむを得ないものと判断した場合は、講座の変更及び取消しを認めることがある。

（講座の開講期間）

第５条　本講座の開講期間は、講座募集要項に記載するものとする。

（受講生証）

第６条　本講座受講生には、「受講生証」を交付する。

２．受講生は、受講の際には常に受講生証を携帯し、担当講師または教職員が提示を求めたときは、提示しなければならない。

３．受講生証の提示がない場合には、当該講座を受講することができない。

（不正受講の禁止）

第７条　受講生は、受講申込手続きの完了した講座以外の講座を、受講することはできない。

２．受講生が申込以外の講座を受講したことが判明した場合は、当該受講生が申込手続きを完了している講座についても、受講を取り消すことがある。

（規則の改廃）

第８条　本規則の改廃は、進路・キャリア教育支援委員会の議を経るものとする。

附　則

１　この規程は、平成 15 年５月 28 日から施行する。

２　「天理大学パーソナルコンピューター講習規程」は、平成 15 年５月 27 日をもって廃止する。

３　改正規則は、平成 17 年４月１日から施行する。

４　改正規則は、平成 24 年４月１日から施行する。

５　改正規則は、平成 26 年４月１日から施行する。

学生の確保の見通し等を記載した書類
（国際学部日本学科）

目 次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・ 2

ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析・・ 2

イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等・・・・・・・・・・・・ 2

エ．学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・・・・・・・・・ 5

（２）人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（要約）・・・・・・ 6

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである
ことの客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

学生の確保の見通し等を記載した書類

（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

国際学部全体としては、新型コロナウイルス感染症の流行によって日本から外国への渡航に困難が生じた結果、外国語や地域研究の学科を志望する日本人生徒の数が近年減少しているという問題がある。しかしそのなかで、日本学科は留学生のみを対象としているため、今後日本に来る留学生の人数がコロナ禍以前の状況にまで回復すれば、十分に学生が確保できると考えられる。

イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析

独立行政法人日本学生支援機構では「外国人留学生在籍状況調査」を行っており、日本の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、日本の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設、及び日本語教育機関における外国人留学生の在籍状況を公表している。

令和元年（2019 年）5 月 1 日現在の留学生の総数は、312,214 人で、30 万人を超えていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行によってその後は年々数を減らし、令和 4 年（2022 年）5 月 1 日の留学生の総数は 231,146 人となっている。【資料 1】

この 4 年間の推移を学校の種類ごとに細かく見ると、日本学科の潜在的な受験生が多く在籍する日本語学校にあたる日本語教育機関では、令和 3 年（2021 年）5 月 1 日の在籍者数が 40,567 人であるのに対し、令和 4 年（2022 年）5 月 1 日では 49,405 人となっており、前年よりも人数では 8,838 人、割合では 21.8%増加している。

日本では令和 4 年（2022 年）10 月以降、「水際措置」が緩和され、国際的な人の往来を再開するように政策が推移してきている。その流れのなかで、日本語学校で学ぶために来日する外国人の数は、令和 5 年（2023 年）以降にも毎年増加していくものと見込まれる。

ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1）趣旨と目的

平成 4 年（1992 年）に国際学部の前身である国際文化学部が設置された際に、日本学科が設置されている。その後、この学科は日本語を中心に教える専攻へと 2 度改組されたが、平成 29 年（2017 年）には日本語を基礎に国際的な視野をもって日本学を推進することを目的に、1990 年代の「日本学科」の復活を目指す「日本研究コース」が国際学部地域文化学科に設置された。そして今回申請する国際学部日本学科は、この国際学部地域文化学科日本研究コースを拡充し、教育内容をより豊富なものに発展させた学科となる。

2）教育内容

国際学部日本学科の教育内容は、言語学と文化人類学を基礎にして日本語及び日本の社会と文化について幅広く学び、日本で企業に就職することを目指す留学生と、日本の大学で確かな知識を身につけた留学生を受け入れたい日本企業の、両者の需要に合致した内容

になっている。特に「ナラロジー（グローバル化時代の奈良研究）」の科目群では、奈良県の地域社会や産業について国際的な視野から学ぶことができ、留学生の奈良県内での就職活動にも資する内容となっている。

３）定員

定員 30 名の国際学部地域文化学科日本研究コースが、新型コロナウイルス流行前には多くの受験者を集めて定員を充足していたことから、国際学部日本学科の定員は 40 名としている。

４）入学金、授業料

学生納付金は、既存の人間学部、文学部、国際学部と同額とし、つぎの通りとする。入学金 100,000 円、授業料 760,000 円、教育設備充実費 220,000 円（２年目以降 270,000 円）となり、初年度学生納付金額合計は 1,080,000 円となる。また、４年間の学生納付金額合計は 4,170,000 円（実習費、委託徴収諸会費を除く）となる。

なお、学生納付金について、日本私立大学団体連合会による「入学初年度年間納付金平均額」の文科系（令和４年度）の金額及び「在学期間納付金平均額」の文科系（令和４年度）の金額と比較をした。初年度年間納付金平均額は 1,262,803 円、在学期間納付金平均額は 4,450,092 円で、本学の学生納付金は、概ね平均より低額となっており、近隣大学の類似学部、学科の学生納付金と比較をしても、もっとも低額に抑えられている。これにはまず前提として、大阪府や京都府など、人口数や経済状況において一般的に奈良県よりもその数値が高いという実情がある。また、奈良県下における類似の学部を有する競合校と比較しても、入学初年度年間納付金額の総額は４～10 万円ほど低額に抑えている。これは特に、学生の経済的負担の軽減、及び学生募集における競争力の確保を総合的に精査した結果である。さらに、本学は天理教を母体とする大学であるため、比較的低額の学生納付金でも、持続的かつ安定的な大学運営の担保がある程度は見込めるという利点を有している。【資料２】

エ．学生確保の見通し

A．学生確保の見通しの調査結果

平成 29 年（2017 年）に開設された国際学部地域文化学科日本研究コースの定員は 30 名であり、今までの入学者は、平成 29 年（2017 年）21 名、平成 30 年（2018 年）37 名、平成 31 年（2019 年）47 名（加えて２名の編入学生）、令和２年（2020 年）41 名（加えて２名の編入学生）、令和３年（2021 年）33 名（加えて１名の編入学生）、令和４年（2022 年）15 名、令和５年（2023 年）12 名である。

日本研究コースの初年度の入学生数は定員に満たなかったが、その後は新型コロナウイルス流行まで４年続けて定員を大きく上回る入学者があった。

その理由のひとつには、日本研究コースのカリキュラムが、日本語の能力を確実に高めて日本の大学を卒業し、日本で企業に就職することを目指すベトナム人留学生などの、多くの留学生にとって魅力的であったことがある。

日本研究コースのカリキュラムと少人数クラスでの個々の学生に対応した授業は、ベト

ナム人留学生だけではなく、留学生に特化した日本語・日本文化の授業を受けたいという、多くの国からの留学生のニーズに合うものと考えられる。

B．新設学部等の分野の動向

令和４年（2022 年）度には摂南大学（大阪府）に国際学部国際学科が新設されている。また、令和５年（2023 年）度には、東北学院大学（宮城県）に国際学部国際教養学科、関西外国語大学（大阪府）に国際共生学部国際共生学科がそれぞれ新設された。これら３大学の国際学部や国際共生学部が受け入れを想定しているのは主に日本人生徒であって、留学生ではない。

関西外国語大学の場合には、日本人学生と留学生とが、英語を使用言語とした授業に出ることが計画されている。(https://www.kansaigaidai.ac.jp/academics/cge/sge/)

これは本学の国際学部日本学科が日本語を使用言語として日本語・日本文化を学ぶという方法を採用することとは対照的である。

現行の本学国際学部地域文化学科日本研究コースの場合には、本学に進学するまでに英語を使用言語とした学校で中等教育を受けたという学生は少数であり、多くの学生にとって、英語を使用言語とした授業よりも日本語を使用言語とした授業のほうが、言語学や文化人類学を学ぶうえで効果が高い。加えて日本研究の場合には、対象に近い日本語を使用言語として授業が行われることはきわめて有効である。

そうした点を考慮すれば、本学の日本学科は、日本の他大学の国際学部や関連学部のなかではたいへんユニークな教育を行う学科であり、そこには一定の受験生の市場があるものと考えられる。

C．中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

総務省統計局の『世界の統計　2023』によると、2005 年の出生率（人口 1,000 人に対する出生者数）は、世界全体で 20.7 人であり、日本は 8.6 人である。この数字は他国と比べてかなり低く、18 年前のこの時点で日本の少子高齢化と 18 歳人口の減少が、すでに世界のなかでとりわけて大きく進んでいることがわかる。一方、現在日本に多くの留学生を送り出している近隣の国々の 2005 年の出生率を見てみると、中国が 12.8 人、ベトナム 17.5 人、韓国が 9.0 人、インドネシアが 20.7 人となっており（現在では、これらの国々に加えてネパールからの留学生も多いが、『世界の統計　2023』にはネパールの出生率の記載がない)、日本に比べてそれほど出生率は低くない。そのため、これらアジアの近隣の国々の若年者が今後も日本を留学先として選んで渡航して来るならば、その人数は少なくないと予想できる。【資料３】

D．競合校の状況

現行の国際学部地域文化学科日本研究コースが日本語学校生徒の募集に関して一年を通じて参加している、大阪市内などで開催される進学説明会では、近隣の羽衣国際大学（大阪府)、大阪国際大学（大阪府)、大阪産業大学（大阪府)、東大阪大学（大阪府)、京都橘大学（京都府）などと会場で一緒になることが多い。これらの大学は、日本語学校生徒の受け入れに熱心で、本学と同様に、外国人留学生を対象とした入試を特別に用意している。

しかしながら、現行の本学国際学部地域文化学科日本研究コースのような、外国人留学生に特化したコースや学科を擁してはいない。そのため近畿圏で、留学生が日本人向けではなく、留学生向けの日本研究のカリキュラムのある学科を志望する場合には、本学国際学部日本学科が選ばれる可能性は大いにある。

Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

本学の体育学部と医療学部では､例年定員を上回る学生を確保している｡しかしながら、人間学部、文学部、国際学部では学生確保がむずかしく、ここ数年の収容学生数は定員を下回っている。国際学部日本学科の設立に合わせ、文学部と人間学部は人文学部に再編され、国際学部のなかでは日本学科以外にも新しく学科が設置され、再編される予定になっている。この再編によって学生募集の状況は改善するものと期待できる。

Ｆ．その他、申請者において検討・分析した事項

法務省が 2023 年 5 月 10 日現在の速報値として公表している日本の各都道府県におけるウクライナ避難民の人数を見ると、奈良県にはウクライナ避難民は 13 人しかいない。しかし、この 13 人のうちの 9 人は天理市が受け入れており、本学で日本語を学んでいる。【資料４】

奈良県に居住するウクライナ避難民の人数は少ないが、近隣の大阪府や兵庫県では 100 人を超える人数があり、日本全体では 2,211 人のウクライナ避難民が居住している。

現行の国際学部地域文化学科日本研究コースには、2023 年 3 月現在奈良県外に居住し、2023 年度に入学したウクライナ人学生が 1 名いる。今後、この学生のほかにも、ウクライナ避難民が日本に滞在するあいだに、本学の日本学科で日本語と日本文化を専門的に学ぶという選択をする可能性は大いにあると考えられる。本学はロシア語教育の歴史をもち、現在ウクライナ語を専門とする教員を擁しているため、ウクライナ避難民にとって望ましい条件を備えている。

ウクライナからの避難民に限らず、政情不安定な自国から逃れて日本に来る外国人に対して、日本語と日本文化を教授する本学の日本学科は、外国人の日本社会への適応にとって有用であり、国際社会全体にとっても大きな意義を持つものと考えられる。

オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学は独自に日本語教員養成課程のプログラムを設け、その歴史は 40 年以上の長きにわたる。当初は文学部国文学国語学科にその課程の教員が配置されていたが、近年は国際学部地域文化学科日本研究コースに配置され、そのプログラムは日本研究コースの留学生も含めて、全学部全学科の学生が資格課程として選択できるようになっている。

近隣の日本語学校の日本語教師になっている卒業生は多く、自校の生徒に母校である本学への進学を勧めるという事例も多い。また、日本語教員養成課程担当教員は、日本語教員養成課程の教育実習の実習先として近隣の日本語学校と連携しており、密に当該学校を訪問して関係者と親交を深めている。これらの教育関係業務は学生確保に向けた日常的な取り組みともなっており、日本語学校から直接に要請されて日本研究コースの教員が出張する日本語学校主催の進学説明会の参加とともに、きわめて効果の高い取り組みとなって

いる。

新設の日本学科では、6人の専任教員のうち2名を日本語学･日本語教育学の専門とし、日本語教員養成課程も担当する。今後はこの2名を中心に6名全員で密に日本語学校との連携を深めることで、学生確保に努める。

また、本学の経営母体である宗教法人天理教は、前世紀に日本の宗教教団のなかでは突出して国外への布教に力を入れていた。現在においても、天理教教会本部の海外部は海外に拠点を多数もっている(https://kaigai.tenrikyo.or.jp/)。また、日本の各教会のなかにも、海外に住まいを定めて活動する布教師が多数いる。これら天理教の海外コネクションのなかで、天理市に来て本学に入学し、日本語・日本文化を学ぶことを志す外国人が紹介されるという事例は多い。なかには正課の授業ばかりではなく、天理教関連施設で行われている課外活動のスポーツにも期待して本学への留学を決める学生もいる。今後も海外の天理教の拠点に日本学科について積極的に知らせることから、国外入試の受験者の確保を目指す。

（2） 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（要約）

日本学科では、日本語の運用のための確かな知識と技術について、4年間を通じて基礎から修得することができる。また、日本語教員養成課程の日本語学・日本語教育学についての専門的な科目の履修も可能となっており、日本語教員、通訳、翻訳業など、日本語を専門的に使って日本の内外で活躍できる人材を養成する。そして同時に、日本の社会と文化について、地域社会での応用など、経営学的視点も含めて学ぶことができる。そのことから、運輸業、宿泊業、商社等の一般企業に日本国内で就職したり、日本の内外で自身が起業したりするなど、社会の即戦力として活躍できる人材の養成も目指す。特にグローバル化時代の奈良について学ぶ「ナラロジー」の諸科目を通じては、奈良県についての理解を深める。それよって、卒業後に県内の地域社会のなかで活躍できる人材も養成する。そして卒業後に本学や他大学の大学院に進学し、さらに専門的な知識を増やしていくにも十分な能力をもった人材が育っていく。これらの職種で活躍する外国人人材は、今日の日本では高い需要があると言える。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

文部科学省では、平成28（2016）年の閣議決定を受けて、外国人留学生の日本国内での就職率を3割から5割に向上させることを目指した「留学生就職促進教育プログラム認定制度」を設け、令和4（2022）年まで毎年実施している。そのプログラムでは「日本語」「キャリア教育」「インターンシップ」の連携が提唱されている。【資料5】

この「日本語」の習得と「キャリア教育」･「インターンシップ」との連携は、日本学科の人材育成にも通じる。現行の日本研究コースでは、「ナラロジー」を学ぶことで奈良の企業を知り、その企業の経営者の面識を得たり、さらにはそこでの仕事を実地に見たりすることなどをきっかけに、奈良県内の企業に就職したという例もある。特に令和4（2022）

年３月に卒業したベトナム人留学生のなかには、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の奨学金を受給し、奈良県内のロータリークラブの例会に出席することで県内企業への理解を深め、県内の優良企業に就職した学生が２名いる。

また、日本学科で養成する人材は、現在日本政府が積極的に日本社会に取り込もうと施策を行っている「高度外国人材」の、いわば「予備軍」にあたるとも考えられる。

日本貿易振興機構（ジェトロ）のホームページでは、「高度外国人材」について、次の３つの条件を同時に満たす人材として定義されている。

１．在留資格「高度専門職」と「専門的・技術的分野」に該当するもののうち、原則、「研究」、「技術・人文知識・国際業務」、「経営・管理」、「法律・会計業務」に該当するもの。

２．採用された場合、企業において、研究者やエンジニア等の専門職、海外進出等を担当する営業職、法務・会計等の専門職、経営に関わる役員や管理職等に従事するもの。

３．日本国内または海外の大学・大学院卒業同等程度の最終学歴を有しているもの。

【資料６】

日本の大学生全体としては、令和２（2020）年卒業生と令和３（2021）年卒業生の就職率は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて、2 年連続で悪化している。【資料７】

一方、本学の留学生については目立った悪化はなく、むしろ近年好転してきており、日本の他大学の大学院へ進学する者も、近年には毎年複数いる。

本学ホームページ（https://www.tenri-u.ac.jp/career/dv457k0000000fnf.html）に公開されている数値では、外国人留学生の就職率は、平成 31（2019）年３月卒業生では 87.5%、令和２（2020）年３月卒業生では 66.7%、令和３（2021）年３月卒業生では 75.0%、令和４（2022）年３月卒業生では 90.5%になる。外国人留学生の大学院進学者数は、平成 31（2019）年３月卒業生では０人、令和２（2020）年３月卒業生では２人、令和３（2021）年３月卒業生では２人、令和４（2022）年３月卒業生では２人になる。

学生の確保の見通し等を記載した書類
（国際学部日本学科）

資料目次

資料１．外国人留学生在籍状況調査結果・・・・・・・・・・・・・　2

資料２．納付金平均額、納付金比較表・・・・・・・・・・・・・・　3

資料３．出生率の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

資料４．都道府県別ウクライナ避難民在留者数・・・・・・・・・・　6

資料５．留学生就職促進教育プログラム認定制度・・・・・・・・・　7

資料６．高度外交人材とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

資料７．令和４年３月大学等卒業予定者の就職内定状況・・・・・　9

１．書類の題目
外国人留学生在籍状況調査結果

２．出典
（独）日本学生支援機構
留学生に関する調査
外国人留学生在籍状況調査

３．引用範囲
2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果
2022（令和４）年度外国人留学生在籍状況調査結果
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2019.html
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2022.html

納付金平均額、納付金比較表

1. 学部　入学初年度年間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校527大学＞

A. 入学初年度年間納付金平均額

イ. 昼　間　部　　（単位：円）

区　分	合　計		入　学　金		授　業　料		施 設・設備費		そ　の　他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文　科　系	1,262,803	1,260,152	222,458	223,781	818,349	811,349	129,463	133,026	92,533	91,996
理 工 科 系	1,663,418	1,663,588	244,476	247,580	1,092,706	1,071,214	173,697	183,465	152,539	161,329
医 歯 科 系	5,854,833	6,094,395	953,112	961,412	2,824,927	2,838,672	711,658	809,843	1,365,135	1,484,467
薬　科　系	2,169,802	2,177,840	332,963	335,945	1,440,938	1,436,182	293,371	302,013	102,530	103,700
そ の 他 系	1,448,022	1,449,323	235,345	237,807	912,826	905,473	165,750	172,143	134,101	133,900
全　平　均	1,459,431	1,465,506	239,902	242,450	933,810	926,492	157,532	164,744	128,186	131,820

2. 学部　在学期間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校490大学＞

A. 在学期間納付金平均額

イ. 昼　間　部　　（単位：円）

区　分	合　計		入　学　金		授　業　料		施 設・設備費		そ　の　他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文　科　系	4,450,092	4,436,241	222,509	223,020	3,259,855	3,251,437	556,627	559,907	411,101	401,877
理 工 科 系	6,129,313	6,119,915	244,714	245,451	4,442,307	4,407,459	714,179	728,471	728,113	738,535
医 歯 科 系	28,907,186	29,232,077	989,605	992,274	17,877,509	17,721,048	4,005,619	4,390,593	6,034,452	6,128,162
薬　科　系	11,710,155	11,744,371	335,100	338,174	8,665,196	8,643,391	1,840,988	1,886,671	868,871	876,136
そ の 他 系	5,150,589	5,145,416	236,937	238,556	3,636,637	3,630,687	689,586	706,078	587,429	570,094
全　平　均	5,419,770	5,435,618	241,582	243,016	3,893,329	3,891,722	692,018	709,013	592,842	591,867

（出典：日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」＜令和4年＞）
※本学で必要箇所を抜粋して作成

1．学部（昼間部）初年度納付金額および在学期間納付金総額

（単位：円）

大学名	学部名	学科名	専攻・コース名	入学初年度年間納付金額							在学期間（4・6ヵ年間）納付金総額						
				総額	内訳						総額	内訳					
					入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他		入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他
天理大学	文学部	国文学国語学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	文学部	歴史文化学科	全専攻共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	宗教学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	臨床心理専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	社会福祉専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,263,000	100,000	3,040,000	0	93,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	韓国・朝鮮語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,439,000	100,000	3,040,000	0	269,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,535,000	100,000	3,040,000	0	365,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	英米語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,445,000	100,000	3,040,000	0	275,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	中国語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,392,000	100,000	3,040,000	0	222,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	地域文化学科	全コース共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
大谷大学	文学部	文学科	日本文学コース、現代文芸コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	歴史学科	日本史コース、世界史コース、歴史ミュージアムコース、京都探究コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	仏教学科	仏教思想コース、現代仏教コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	社会学部	現代社会学科	現代社会学コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	国際学部	国際文化学科	英語コミュニケーションコース、欧米文化コース、アジア文化コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
京都外国語大学	外国語学部	中国語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	日本語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都産業大学	外国語学部	英語学科	英語専攻、イングリッシュ・キャリア専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	アジア言語学科	中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、日本語・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	ヨーロッパ言語学科	ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻、メディア・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	文化学部	国際文化学科	*	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,236,000	200,000	874,000	0	0	162,000	0	4,938,000	200,000	3,505,000	0	0	1,233,000	0
京都文教大学	臨床心理学部	臨床心理学科	*	1,410,000	150,000	960,000	0	0	300,000	0	5,447,720	150,000	3,840,000	0	77,720	1,380,000	0
同志社大学	心理学部	心理学科	*	1,366,000	200,000	973,000	0	25,000	168,000	0	5,126,000	200,000	4,000,000	0	200,000	726,000	0
同志社大学	神学部	神学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
同志社大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
花園大学	文学部	日本文学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	日本史学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	仏教学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	臨床心理学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
立命館大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,467,600	200,000	1,267,600	0	0	0	0	5,255,200	200,000	5,055,200	0	0	0	0
龍谷大学	文学部	臨床心理学科	臨床心理学専攻	1,021,000	260,000	761,000	0	0	0	0	4,084,000	260,000	3,044,000	780,000	0	0	0
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	*	1,076,000	260,000	806,000	0	10,000	0	0	4,304,000	260,000	3,224,000	780,000	40,000	0	0
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	全コース共通	1,196,000	200,000	996,000	0	0	0	0	4,304,000	200,000	4,104,000	0	0	0	0
関西大学	文学部	総合人文学科	心理学専修	1,190,000	260,000	930,000	0	0	0	0	4,390,000	260,000	4,130,000	0	0	0	0
関西大学	外国語学部	外国語学科	*	1,516,000	260,000	1,256,000	0	0	0	0	5,677,000	260,000	5,417,000	0	0	0	0
関西外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語キャリア学部	英語キャリア学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語国際学部	英語国際学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西福祉科学大学	心理科学部	心理科学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
関西福祉科学大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
近畿大学	文芸学部	文学科	日本文学、英語英米文学専攻	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	文芸学部	文化・歴史学科	*	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	国際学部	国際学科	グローバル専攻、東アジア専攻	1,550,000	250,000	1,280,000	0	0	0	20,000	5,490,000	250,000	5,160,000	0	0	0	80,000
摂南大学	国際学部	国際学科	*	1,280,000	250,000	980,000	0	0	50,000	0	4,670,000	250,000	3,920,000	0	0	500,000	0
桃山学院大学	社会学部	社会学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	国際教養学部	英語・国際文化学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
関西福祉大学	社会福祉学部	社会福祉学科	全コース共通	1,210,000	200,000	780,000	0	0	230,000	0	4,040,000	0	3,120,000	0	0	920,000	0
関西学院大学	神学部	神学科	全コース共通	1,110,000	200,000	728,000	0	0	182,000	0	4,440,000	200,000	3,422,000	0	0	818,000	0
帝塚山大学	心理学部	心理学科	*	1,232,000	180,000	860,000	0	20,000	172,000	0	4,388,000	180,000	3,440,000	0	80,000	688,000	0
帝塚山大学	文学部	日本文化学科	*	1,182,000	180,000	860,000	0	0	142,000	0	4,188,000	180,000	3,440,000	0	0	568,000	0
奈良大学	文学部	国文学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0
奈良大学	文学部	史学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0

（出典：日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」＜令和4年＞）
※本学で必要箇所を抜粋して作成

１．書類の題目
出生率の推移

２．出典
総務省統計局
世界の統計 2023

３．引用範囲
第 2 章人口
2-13 出生率の推移　48 ページ
https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html#c02
https://www.stat.go.jp/data/sekai/pdf/2023al.pdf

１．書類の題目
都道府県別ウクライナ避難民在留者数

２．出典
出入国在留管理庁
在留支援
外国人在留支援センター(FRESC／フレスク)
ウクライナ避難民に関する情報

３．引用範囲
現在のウクライナ避難民の在留者数（都道府県別）
https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/01_00234.html
https://www.moj.go.jp/isa/content/001373694.pdf

１．書類の題目
留学生就職促進教育プログラム認定制度

２．出典
文部科学省
高等教育局学生・留学生課留学生交流室留学交流支援係
「留学生就職促進教育プログラム認定制度」の公募について
（令和 4 年 6 月 30 日受付開始）

３．引用範囲
3.実施要項等　概要資料
「留学生就職促進教育プログラム認定制度」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1386454_00010.htm
https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt_gakushi02-000023602-1.pdf

１．書類の題目
高度外交人材とは

２．出典
JETRO 日本貿易振興機構（ジェトロ）
高度外国人材活躍推進ポータル

３．引用範囲
企業の方に　高度外国人材とは
https://www.jetro.go.jp/hrportal/forcompanies/about.html

１．書類の題目
令和４年３月大学等卒業予定者の就職内定状況

２．出典
厚生労働省
報道発表資料
2022 年 11 月

３．引用範囲
令和４年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査
https://www.mhlw.go.jp/stf/0000184815_00036.html
https://www.mhlw.go.jp/content/11805001/001013226.pdf

別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ナガオ ヒナオ 永尾　比奈夫 ＜令和５年４月＞		Master of Arts in Religious Studies （米国）		天理大学 学長 （令和５．４～令和７．３）

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（国際学部日本学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 ＜令和6年4月＞		教育学修士 ※		日本事情１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	5日
							日本事情２	1･2･3･4後	2	1		
							基礎ゼミナール１	1前	4	2		
							基礎ゼミナール２	1後	4	2		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本文化体験実習１	2･3･4休	2	1		
2	専	教授	スミハラ ノリヤ 住原 則也 ＜令和6年4月＞		Ph.D (米国)		ナラロジー研究入門	1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	5 日
							世界史のなかの日本	1･2後	2	1		
							基礎日本語Ａ（作文）	1･2前	1	1		
	兼任	講師	スミハラ ノリヤ 住原 則也 ＜令和7年4月＞				ナラロジー研究入門	1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (令和7年3月まで)	―
							世界史のなかの日本	1･2後	2	1		
							ナラロジー概論	2･3･4前	2	1		
							経営人類学特論	3･4後	2	1		
							日本環境文化特論	3･4後	2	1		
							基礎日本語Ａ（作文）	1･2前	1	1		
							ビジネス日本語１	2･3前	2	1		
							ビジネス日本語２	2･3後	2	1		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本研究演習３	4前	2	1		
							日本研究演習４	4後	2	1		
							日本文化体験実習１	2･3･4休	2	1		
3	専	教授 (学科主任)	セリザワ サトヒロ 芹澤 知広 ＜令和6年4月＞		博士 (人間科学)		文化人類学入門	1･2前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成31年4月)	5 日
							日本文化入門	1･2後	2	1		
							フィールドワークの方法	1･2前	2	1		
							交通地理学概論	2･3･4前	2	1		
							日本精神文化概論	2･3･4後	2	1		
							日本生活文化概論	2･3･4前	2	1		
							日本情報文化特論	3･4後	2	1		
							観光地理学特論	3･4前	2	1		
							ナラロジー特論	3･4後	2	1		
							日本生活文化特論	3･4後	2	1		
							基礎日本語Ａ（作文）	1･2前	1	1		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本研究演習３	4前	2	1		
							日本研究演習４	4後	2	1		
							日本文化体験実習２	2･3･4休	2	1		
							卒業課題研究	4休	2	1		
							卒業論文	4休	4	1		
4	専	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 ＜令和6年4月＞		修士 (言語学) ※		基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1･2前	1	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	5 日
							基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1･2前	1	1		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本研究演習３	4前	2	1		
							日本研究演習４	4後	2	1		
							日本文化体験実習２	2･3･4休	2	1		
							日本語学入門	1前	2	1		
							日本語文法論１	2前	2	1		
							日本語文法論２	2後	2	1		
							日本語音声学	2後	2	1		
							言語の対照研究	3前	2	1		
							日本語指導法	4前	2	1		
							日本語教育実習	4休	2	1		
5	専	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語（日本語）	1･2･3･4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育研究センター 准教授 (令和3年4月)	5日
							言語学入門	1･2前	2	1		
							日本表現文化概論	2･3･4前	2	1		
							日本多文化共生概論	2･3･4後	2	1		
							社会言語学概論	2･3･4前	2	1		
							日本表現文化特論	3･4後	2	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2後	1	1		
							日本語実践研究１	2･3前	2	1		
							日本語実践研究２	2･3後	2	1		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本研究演習３	4前	2	1		
							日本研究演習４	4後	2	1		
							日本文化体験実習１	2･3･4休	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
6 ①	専	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 ＜令和6年4月＞		修士 (言語教育情報学)		日本研究入門	1前	4	2	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	5日
							入門日本語Ｂ（文法Ａ）	1後	1	1		
							入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	1後	1	1		
							基礎日本語Ａ（会話）	1･2前	1	1		
							日本語教育入門	1前	2	1		
							日本語語彙論	2後	2	1		
	兼任	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 ＜令和8年4月＞				基礎日本語Ａ（会話）	1･2前	1	1	天理大学 国際学部講師 (令和8年3月まで)	―
							基礎日本語Ａ（表記）	1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（講読）	1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（表記）	1･2後	2	2		
6 ②	兼任	講師	キン シュ 金 珠 ＜令和6年4月＞		博士 (日本語・日本文化)		基礎日本語Ａ（表記）	1･2前	1	1	大阪大学 日本語日本文化教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	―
							基礎日本語Ｂ（講読）	1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（表記）	1･2後	2	2		
	専	准教授	キン シュ 金 珠 ＜令和8年4月＞				日本研究入門	1前	4	2	大阪大学 日本語日本文化教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	5日
							入門日本語Ｂ（文法Ａ）	1後	1	1		
							入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	1後	1	1		
							日本研究演習１	3前	2	1		
							日本研究演習２	3後	2	1		
							日本文化体験実習２	2･3･4休	2	1		
							日本語教育入門	1前	2	1		
							日本語語彙論	2後	2	1		
							日本語教授法１	3前	2	1		
							日本語教授法２	3後	2	1		
							第二言語習得論	3前	2	1		
							日本語教育評価法	4後	2	1		
7	兼担	教授	ノ ゼウォン 魯 ゼウォン ＜令和6年4月＞		博士 (社会学)		カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	5日
							アジア地域文化論	2･3･4後	2	1		
8	兼担	教授	シマダ タクジ 島田 拓司 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	5日
							異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後	2	1		
							Business Communication	1･2･3･4前	1	1		
9	兼担	教授	モリシタ サブロウ 森下 三郎 ＜令和6年4月＞		博士 (伝道学) (イタリア)		Japanese Religions	1･2･3･4後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成12年4月)	5日
10	兼担	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 ＜令和6年4月＞		M.A. (タイ)		多文化理解と言語（タイ語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	5日
							日本と国際社会	1･2･3･4後	2	1		
11	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		多文化理解と言語（インドネシア語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	5日
							キャリアデザイン２	2･3･4後	2	1		
12	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 ＜令和6年4月＞		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語（フランス語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	5日
							天理異文化伝道	2･3･4前	2	1		
13	兼担	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 ＜令和6年4月＞		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語（スペイン語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	5日
14	兼担	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 ＜令和6年4月＞		修士 (地域研究)		多文化理解と言語（ポルトガル語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	5日
15	兼担	教授	ハツタニ ジョウジ 初谷 譲次 ＜令和6年4月＞		修士 (国際学)		グローバル文化論	2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (昭和63年4月)	5日
							アメリカス地域文化論	2･3･4後	2	1		
							アメリカスの歴史と社会	3･4前	2	1		
							観光デザイン論	2･3･4前	2	1		
	兼任	講師	ハツタニ ジョウジ 初谷 譲次 ＜令和9年4月＞				グローバル文化論	2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (令和9年3月まで)	―
							アメリカス地域文化論	2･3･4後	2	1		
							アメリカスの歴史と社会	3･4前	2	1		
							観光デザイン論	2･3･4前	2	1		
16	兼担	教授	フジタ アキヨシ 藤田 明良 ＜令和6年4月＞		文学修士 ※		国際文化論	1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	5日
							世界の歴史と社会	3･4前	2	1		
							世界遺産論	2･3･4前	2	1		
17	兼担	教授	タニイ ヨウコ 谷井 陽子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		アジアの歴史と社会	3･4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
18	兼担	教授	イガラシ ノリコ 五十嵐 徳子 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		スラヴ・ユーラシア地域文化論	2･3･4後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	5日
							スラヴ・ユーラシアの歴史と社会	3･4前	2	1		
19	兼担	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 ＜令和6年4月＞		Ph.D (米国)		天理教概説１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							天理教概説２	1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
20	兼担	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 ＜令和6年4月＞		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説１	1･2･3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	－
							天理教概説２	1･2･3･4後	4	2		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
							Japanese History	1･2･3･4前	2	1		
21	兼担	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 ＜令和6年4月＞		文学修士 ※		博物館実習１	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	－
	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 ＜令和9年4月＞				博物館実習１	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	－
22	兼担	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		宗教と芸能	1･2･3･4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	－
23	兼担	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 ＜令和6年4月＞		文学修士		博物館実習１	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	－
24	兼担	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	－
25	兼担	教授	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		情報資源組織論	3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							情報資源組織演習１	3･4後	4	2		
							情報資源組織演習２	3･4後	4	2		
							図書館情報学特論	4前	2	1		
26	兼担	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	－
							ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休	1	1		
							国際協力入門	1･2･3･4前	2	1		
							国際協力実習	1･2･3･4休	2	1		
							国際協力演習１	1･2･3･4前	2	1		
							国際協力演習２	1･2･3･4後	2	1		
							国際ボランティア論	2･3･4後	2	1		
							キャリアプランニング	1･2･3前･後	8	4		
							基礎からわかるレポート作成	1･2･3･4前	2	1		
27	兼担	教授	ソヤマ ノリコ 曽山 典子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		データサイエンス・AI入門	1前･後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							コンピュータ入門	1･2･3･4前･後	12	6		
							情報処理	2･3･4前･後	4	2		
28	兼担	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		天理大学特別講義１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	－
							天理大学特別講義２	1･2･3･4前	2	1		
							天理大学特別講義３	1･2･3･4前	2	1		
							天理大学特別講義４	1･2･3･4前	2	1		
							インターンシップ１	1･2･3休	1	1		
							インターンシップ２	1･2･3休	2	1		
							海外インターンシップ１	2･3･4休	1	1		
							海外インターンシップ２	2･3･4休	2	1		
							教職論	1前･後	10	5		
							教育課程論	3･4前･後	8	4		
							教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前･後	4	2		
							教職実践演習（中・高）	4後	2	1		
29	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	－
							ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休	1	1		
							生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4後	4	2		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）	4後	14	7		
							学校教育支援	2･3･4休	1	1		
							特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前･後	8	4		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		学校教育心理学	2･3･4前･後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	―
							教育相談の理論及び方法	2･3･4前･後	8	4		
							教育実習講義	3後	1	1		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）	4後	2	1		
							教育実習１	4休	2	1		
							教育実習２	4休	2	1		
							学校教育支援	2･3･4休	1	1		
31	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報システム論	2･3･4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	―
							情報サービス論	3･4前	4	2		
							情報サービス演習１	3･4後	4	2		
							情報サービス演習２	3･4後	4	2		
							図書館情報資源概論	2･3･4前	4	2		
							図書館情報資源特論	3･4前	2	1		
32	兼担	教授	ツカモト ジュンコ 塚本 順子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		国際スポーツ協力論	2･3･4休	1	1	天理大学 体育学部教授 (平成9年4月)	―
							国際スポーツ交流実習	2･3･4休	1	1		
33	兼担	教授	オクダ マキコ 奥田 眞紀子 ＜令和6年4月＞		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康づくり	1･2･3･4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	―
34	兼担	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化学	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	―
35	兼担	教授	イノウエ アキヒロ 井上 昭洋 ＜令和6年4月＞		Ph.D (Anthropology) (米国)		オセアニア地域文化論	2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成22年4月)	―
							オセアニアの歴史と社会	3･4後	2	1		
36	兼担	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり ＜令和6年4月＞		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	―
37	兼担	教授	カネコ アキラ 金子 昭 ＜令和6年4月＞		博士 (哲学)		哲学概論１	1･2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	―
							哲学概論２	1･2･3･4後	2	1		
							倫理学１	1･2･3･4前	6	3		
							倫理学２	1･2･3･4後	4	2		
38	兼担	准教授	ヤマモト コウジ 山本 晃司 ＜令和6年4月＞		修士 (英語学) ※		世界の英語	1･2･3･4後	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成28年4月)	5日
							英語音声学１	2･3･4前	2	1		
							英語音声学２	2･3･4後	2	1		
							英語学概論	2･3･4後	2	1		
39	兼担	准教授	ファン ホセ ロペス パソス Juan Jose Lopez Pazos ＜令和6年4月＞		博士 (哲学) (スペイン)		日本文化概論	1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成27年4月)	5日
40	兼担	准教授	ナカネ カツミ 中祢 勝美 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		ヨーロッパ地域文化論	2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成9年4月)	5日
							ヨーロッパの歴史と社会	3･4後	2	1		
41	兼担	准教授	ハットリ シホ 服部 （三浦）志帆 ＜令和6年4月＞		博士 (地域研究)		アフリカ地域文化論	2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成24年4月)	5日
							アフリカの歴史と社会	3･4後	2	1		
42	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 ＜令和6年4月＞		Ph.D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		多文化理解と言語（英語）	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	5日
							世界の文学１	1･2･3･4前	4	2		
							世界の文学２	1･2･3･4後	4	2		
43	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 ＜令和6年4月＞		博士 (英語学)		実践アカデミック英語１	1･2･3･4前･後	2	2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	5 日
							実践アカデミック英語２	1･2･3･4後	1	1		
							アカデミック英語上級	1･2･3･4前･後	2	2		
							言語学概論１	3･4前	2	1		
							言語学概論２	3･4後	2	1		
							College English Grammar A	1･2･3･4前	1	1		
							College English Grammar B	1･2･3･4後	1	1		
44	兼担	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	―
							天理教概説２	1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
45	兼担	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1･2･3･4前･後	4	2	天理大学文学部 准教授 (平成25年4月)	―
46	兼担	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		キャリアプランニング	1･2･3前･後	4	2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	―
							基礎からわかる現代社会	1･2･3･4前･後	4	2		
							社会学	1･2･3･4前･後	4	2		
							哲学概論１	1･2･3･4前	4	2		
							哲学概論２	1･2･3･4後	4	2		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
47	兼担	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる入門編		1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	－
							ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる実践編		2･3･4休	1	1		
							データサイエンス・AI入門		1前･後	8	4		
							データサイエンス・AI応用		2･3･4前･後	4	2		
							データリテラシー		2･3･4前･後	4	2		
							数学と論理		1･2･3･4前･後	4	2		
							統計学１		1･2･3･4前	2	1		
							統計学２		1･2･3･4後	2	1		
48	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	－
							ニュースポーツ		2･3･4前	1	1		
49	兼担	准教授	ウメザキ サユリ 梅﨑 さゆり ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	－
							国際社会におけるスポーツの役割		1･2･3･4前	2	1		
							国際スポーツ協力論		2･3･4休	1	1		
							国際スポーツ交流実習		2･3･4休	1	1		
50	兼担	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	－
							国際社会におけるスポーツの役割		1･2･3･4後	2	1		
51	兼担	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	2	1		
							アウトドアスポーツ		1･2･3･4休	1	1		
52	兼担	准教授	オバタ オサム 小畑 治 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	－
							レクリエーショナルスポーツ		2･3･4前	1	1		
53	兼担	講師	ウッド ジェレミー ジョージ Wood Jeremy George ＜令和6年4月＞		博士 (文化交渉学)		Business Communication		1･2･3･4前	1	1	天理大学 国際学部講師 (令和5年4月)	5日
54	兼担	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 ＜令和6年4月＞		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		
							伝道実習１		1･2･3･4休	1	1		
							伝道実習２		1･2･3･4休	1	1		
							伝道実習３		2･3･4前	1	1		
							伝道実習４		2･3･4後	1	1		
55	兼担	講師	サワイ マコト 澤井 真 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		
							宗教と現代社会		1･2･3･4前･後	4	2		
56	兼担	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		教育原理		2･3･4前･後	8	4	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	－
							教育史		2･3･4前	2	1		
							学校教育社会学		2･3･4前･後	8	4		
							教育実習講義		3後	2	2		
							介護等体験		3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）		4後	2	1		
							学校教育支援		2･3･4休	1	1		
							教育史特論		2･3･4後	2	1		
57	兼担	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		キャリアデザイン１		2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	－
							日本国憲法		1･2･3･4後	8	4		
							法学		1･2･3･4前	10	5		
							行政法１		1･2･3･4前	2	1		
							行政法２		1･2･3･4後	2	1		
58	兼担	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	6	3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	6	3		
59	兼担	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	10	5	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	6	3		
60	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		多文化理解と言語（中国語）		1･2･3･4前･後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	－
61	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga ＜令和6年4月＞		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語（ロシア語）		1･2･3･4前･後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
62	兼任	講師	モリタ ミノル 森田 実 ＜令和6年4月＞		学士 (法学)		観光地理学		2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部 特任准教授 (令和5年4月)	―
							観光業界論		2･3･4前･後	4	2		
							ホスピタリティー観光研究１		2･3･4前･後	4	2		
							ホスピタリティー観光研究２		2･3･4前･後	4	2		
							国内旅行実務		2･3･4前･後	4	2		
							海外旅行実務		2･3･4前･後	4	2		
63	兼任	講師	イケベ アキコ 池辺 明子 ＜令和6年4月＞		博士 (言語学)		基礎日本語Ａ（講読）		1･2前	2	2	―	―
							基礎日本語Ｂ（講読）		1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ａ）		1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）		1･2後	1	1		
64	兼任	講師	イマニシ マリコ 今西 眞理子 ＜令和6年4月＞		文学修士		基礎日本語Ａ（会話）		1･2前･後	2	2	―	―
							基礎日本語Ａ（文法Ａ）		1･2前･後	2	2		
							基礎日本語Ａ（文法Ｂ）		1･2前･後	2	2		
							基礎日本語Ａ（総合）		1･2前･後	2	2		
							基礎日本語Ｂ（総合）		1･2後	1	1		
65	兼任	講師	クゲ エイコ 久下 景子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		入門日本語Ａ（講読）		1前	1	1	―	―
							入門日本語Ａ（文法Ａ）		1前	1	1		
							入門日本語Ａ（文法Ｂ）		1前	1	1		
							入門日本語Ａ（作文）		1前	1	1		
							入門日本語Ｂ（講読）		1後	1	1		
							入門日本語Ｂ（作文）		1後	1	1		
66	兼任	講師	ニガミ マリコ 仁上 真理子 ＜令和6年4月＞		修士 (日本語教育学)		入門日本語Ａ（会話）		1前	1	1	―	―
							入門日本語Ｂ（会話）		1後	1	1		
							基礎日本語Ａ（表記）		1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（会話）		1･2前･後	2	2		
67	兼任	講師	モリ アツコ 森 敦子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		入門日本語Ａ（表記）		1前	1	1	―	―
							入門日本語Ａ（総合）		1前	1	1		
							入門日本語Ｂ（表記）		1後	1	1		
							入門日本語Ｂ（総合）		1後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（会話）		1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（作文）		1･2後	2	2		
68	兼任	講師	モリヒサ クニオ 森久 国雄 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		基礎日本語Ａ（総合）		1･2前	1	1	―	―
							基礎日本語Ｂ（総合）		1･2前･後	2	2		
69	兼任	講師	ユツドウ マコト 湯通堂 誠 ＜令和6年4月＞		修士 (言語文化学)		基礎日本語Ａ（講読）		1･2後	1	1	―	―
							基礎日本語Ａ（作文）		1･2後	1	1		
							基礎日本語Ａ（表記）		1･2後	1	1		
							基礎日本語Ｂ（講読）		1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（作文）		1･2前	1	1		
							基礎日本語Ｂ（表記）		1･2前	1	1		
70	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 ＜令和6年4月＞		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語１		1･2･3･4前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (令和４年3月まで)	―
							韓国・朝鮮語２		1･2･3･4後	1	1		
71	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 ＜令和6年4月＞		文学修士		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理教教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	―
72	兼任	講師	イヌイ タクヤ 乾 拓也 ＜令和7年4月＞		修士 (文学)		社会言語学１		2･3･4前	2	1	―	―
							社会言語学２		2･3･4後	2	1		
73	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 ＜令和6年4月＞		博士 (宗教美術) (米国)		TOEFL Academic English		1･2･3･4後	1	1	―	―
74	兼任	講師	ランディー ティモシー ムース Randy Timothy Muth ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		Japanese Culture and Society		1･2･3･4前	2	1	畿央大学 教育学部教授 (平成22年4月)	―
75	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		多文化理解と言語（ドイツ語）		1･2･3･4前･後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	―
76	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 ＜令和6年4月＞		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語１		1･2･3･4前･後	2	2	―	―
							教養アカデミック英語２		1･2･3･4前･後	2	2		
							実践アカデミック英語２		1･2･3･4前	1	1		
77	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 ＜令和6年4月＞		文学修士		中国語１		1･2･3･4前	1	1	―	―
							中国語２		1･2･3･4後	1	1		
78	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 ＜令和6年4月＞		文学士		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理教校 (平成18年4月)	―
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
79	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 ＜令和7年4月＞		文学士		天理教学１		2･3･4前	2	1	天理教校 (平成2年4月)	―
							天理教学２		2･3･4後	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
80	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 ＜令和7年4月＞		教育学士		天理教学１ 天理教学２		2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	－	－
81	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 ＜令和7年4月＞		文学士		天理教学１ 天理教学２		2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	－	－
82	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１ 天理教概説２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	天理教海外部 (平成30年4月)	－
83	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		天理教概説１ 天理教概説２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	天理教校 (平成25年4月)	－
84	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 ＜令和6年4月＞		学士 (宗教学)		天理教概説１ 天理教概説２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	天理教校 (平成19年4月)	－
85	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 ＜令和6年4月＞		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説１ 天理教概説２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	6 6	3 3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	－
86	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 ＜令和9年4月＞		修士 (文学)		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	－
87	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 ＜令和9年4月＞		文学士		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	－
88	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 ＜令和9年4月＞		学士 (教育学)		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	－
89	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 ＜令和6年4月＞		法務博士		民法１ 民法２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	－
90	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 ＜令和6年4月＞		教育学修士 ※		地理学１ 地理学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	－	－
91	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 ＜令和6年4月＞		修士 (商学) ※		経営学１ 経営学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	－
92	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		科学と現代		1･2･3･4前･後	8	4	－	－
93	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生活の中の科学		1･2･3･4前･後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	－
94	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 ＜令和6年4月＞		修士 (臨床心理学) ※		心理学１ 心理学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	－	－
95	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 ＜令和6年4月＞		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学		1･2･3･4後 1･2･3･4前	8 6	4 3	－	－
96	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 ＜令和6年4月＞		修士 (人間科学)		心理学１ 心理学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	－
97	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート作成 近現代の遺産と未来		1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	8 8	4 4	－	－
98	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ科学)		障害学		1･2･3･4前	2	1	合同会社エクスビジョン代表 (令和3年3月)	－
99	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 ＜令和6年4月＞		博士 (グローバル社会研究)		基礎からわかるレポート作成 政治学		1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
100	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		日本手話Ａ		1･2･3･4前･後	6	3	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	－
							日本手話Ｂ		1･2･3･4後	2	1		
101	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		基礎からわかるレポート作成		1･2･3･4後	2	1	－	－
102	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		基礎からわかる数学		1･2･3･4前･後	4	2	－	－
103	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		障害学		1･2･3･4後	2	1	奈良市子ども未来部 児童相談所 設置推進課 (令和3年4月)	－
104	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 ＜令和6年4月＞		学士 (文学)		キャリアプランニング		1･2･3前	2	1	－	－
							労働と社会		1･2･3･4前･後	6	3		
105	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		地球環境論		1･2･3･4前･後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	－
106	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 ＜令和6年4月＞		博士 (経済学)		コンピュータ入門		1･2･3･4前･後	8	4	－	－
107	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 ＜令和6年4月＞		修士 (経済学)		経済学１		1･2･3･4前	4	2	－	－
							経済学２		1･2･3･4後	4	2		
108	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 ＜令和7年4月＞		博士 (教育学)		臨床教育学特論		2･3･4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	－
109	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		人権と差別１		1･2･3･4前	2	1	－	－
							人権と差別２		1･2･3･4後	2	1		
							人権教育論１		2･3･4前	2	1		
							人権教育論２		2･3･4後	2	1		
110	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒の理解		1前･後	8	4	－	－
111	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		人権と差別１		1･2･3･4前	2	1	(株) アジール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	－
							人権と差別２		1･2･3･4後	2	1		
							人権教育論１		2･3･4前	4	2		
							人権教育論２		2･3･4後	4	2		
112	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 ＜令和8年4月＞		教育学士		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）		3前･後	18	9	－	－
113	兼任	講師	トミタ ミノル 冨田 稔 ＜令和6年4月＞		修士 (都市政策)		人権と差別１		1･2･3･4前	2	1	－	－
							人権と差別２		1･2･3･4後	2	1		
							教職実践演習（中・高）		4後	2	1		
							人権教育論１		2･3･4前	4	2		
							人権教育論２		2･3･4後	4	2		
114	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法		3･4前･後	8	4	(株) 山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	－
115	兼任	講師	イヌカイ マコト 犬飼 誠 ＜令和6年4月＞		文学士		矯正概論		1･2･3･4前	2	1	奈良少年院 法務教官専門官 (令和3年4月)	－
							矯正保護教育（施設参観を含む）		3･4後	2	1		
116	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 髙橋 秀紀 ＜令和7年4月＞		文学士		矯正保護支援実践論	※	2･3･4後	0.8	1	－	－
117	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 ＜令和6年4月＞		学術修士 ※		更生保護概論		1･2･3･4前	2	1	－	－
118	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 ＜令和7年4月＞		学士 (法学)		犯罪被害者支援論		2･3･4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	－
119	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 ＜令和7年4月＞		体育学士		矯正保護支援実践論	※	2･3･4後	1.2	1	社会福祉法人 白梅学園副園長・ 児童養護　施設長 (平成12年7月)	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
120	兼任	講師	サトウ　トシエ 佐藤 敏江 ＜令和7年4月＞		文学士		児童・YAサービス論		2･3･4前	4	2	－	－
121	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 ＜令和6年4月＞		体育学士		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	8	4	－	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	8	4		
122	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	－	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	4	2		
							レクリエーショナルスポーツ		2･3･4前	1	1		
							ニュースポーツ		2･3･4前	1	1		

別記様式第３号（その３の１）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（国際学部日本学科）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	－	－	－	1 人	1 人	－	－	2 人	
	修　士	－	－	－	1 人	－	1 人	－	2 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
准教授	博　士	－	－	1 人	－	－	－	－	1 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
講　師	博　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
助　教	博　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
合　計	博　士	0 人	0 人	1 人	1 人	1 人	0 人	0 人	3 人	
	修　士	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	2 人	
	学　士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短期大学士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	その他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	